

## 施策5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●福岡の歴史資源の観光活用

##### 博多旧市街プロジェクトの推進

- ★「博多町家」ふるさと館入館者数 R3n : 43,369人 → R4n : 89,727人
- ★福岡アジア美術館入館者数 R3n : 202,186人 → R4n : 531,278人
  - ・外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、福岡アジア美術館）  
R3n : 498人 → R4n : 3,006人

##### 鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み

- ★鴻臚館跡展示館の改修
- ★潮見櫓建物復元整備工事に着手
- ★福岡城むかし探訪館来館者数 R3n : 13,015人 → R4n : 24,085人
- ★三の丸スクエア来館者数 R3n : 14,591人 → R4n : 34,234人
  - ・鴻臚館跡展示館来館者数 R3n : 12,162人 → R4n : 24,762人
  - ・外国人来館者数（福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館）  
R3n : 257人 → R4n : 5,898人

##### 文化財の観光資源としての活用促進

- ・吉武高木遺跡「やよいの風公園」での菜の花・コスモス花畑公開 R3n : 2回 → R4n : 2回
- ・SNSを活用した史跡の情報発信

#### ●魅力の磨き上げ

##### アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲7-3>

- ・クリエイティブフェスタの来場者数 R3n : 約40,000人 → R4n : 約45,000人

##### 集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・魅力的なコレクション展や特別展の開催、福岡アートアワードの創設

##### 集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲1-4>

- ・「アートカフェ」で、市主催及び民間利用によるイベントやユニークベニューを実施
- ・外国人来館者数（福岡アジア美術館） R3n : 465人 → R4n : 1,951人

##### 集客交流拠点としての博物館の魅力向上<再掲1-4>

- ・所蔵資料を活かした魅力あふれる企画展の開催や施設を利用した多様なイベントを実施

##### 海辺を活かした観光振興事業

- ・海辺の観光周遊コースの形成に向けて、写真を撮りたくなる海辺の魅力づくりや立ち寄りスポットづくりの検討等
- ★北崎地区の歩道美装化工事（R3.4完了）、無電柱化工事（R5.4完了）
- ★志賀島地区の無電柱化工事を実施
- ・志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 R3n : 2,764人 → R4n : 5,090人

**無電柱化の推進<再掲 3 - 1>**

- ・無電柱化整備延長 R3n : 154.7km → R4n : 155.6km

**ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲 6 - 4>**

- ・海外のシェフ等との商談回数 R3n : 実施なし → R4n : 6回

**緑化の啓発・推進 <再掲 4 - 3>**

- ・おもてなし花壇による景観づくり (スポンサー企業協賛による花壇づくり)  
R3n : 155 社 → R4n : 165 社
- ・ボランティア花壇団体数 (街路) R3n : 計 204 団体 → R4n : 計 224 団体

**動植物園再生事業 <再掲 4 - 4>**

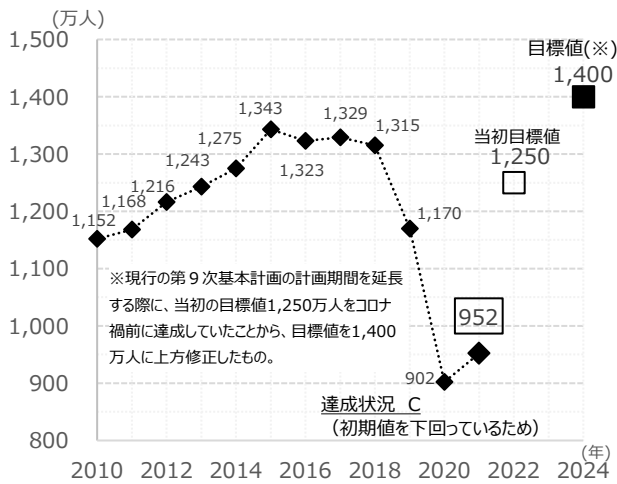
- ★アジアゾウの受入れに向けた環境整備を実施
- ★一人一花運動の拠点の核となるボタニカルライフスクエアを供用開始 (R5.3)

**特色ある公園づくり事業 <再掲 4 - 4>**

- ・高宮南緑地 (旧高宮貝島家住宅) について、指定管理者による管理運営開始 (R4.4)

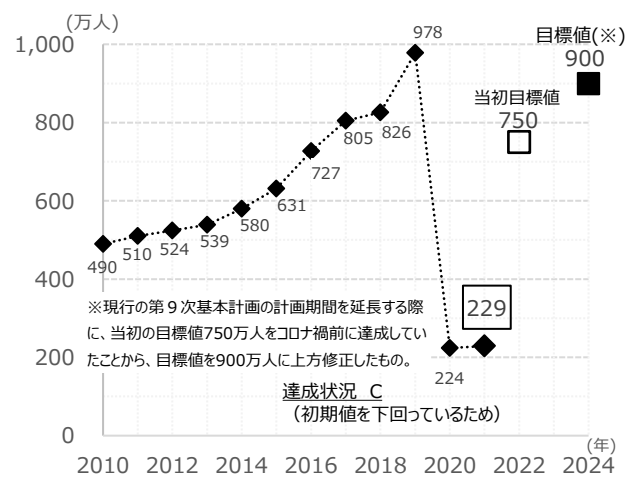
## 2 成果指標等

### ① 入込観光客数（日帰り）



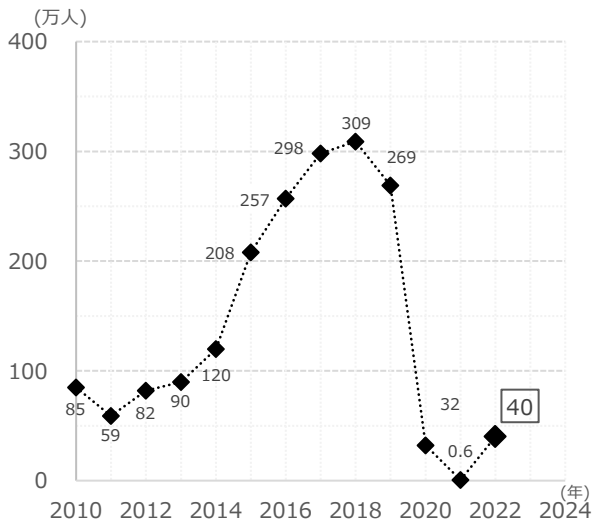
出典：福岡市経済観光文化局「福岡市観光統計」

### ② 入込観光客数（宿泊）



出典：福岡市経済観光文化局「福岡市観光統計」

### ③福岡市への外国人来訪者数 [補完指標] ＜再掲5-6＞



出典：法務省「出入国管理統計」

#### <指標の分析>

指標①及び指標②については、入込観光客数全体（日帰り＋宿泊）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大幅に減少したが、Fukuoka East&West Coast プロジェクトなどの身近な観光資源を活用した新たな滞在コンテンツの造成等により、マイクロツーリズムなど新しい生活様式に対応した観光を推進した結果、移動制限等がある中でも、2021年は目標値は下回っているものの緩やかな回復基調となっている。

指標③は、2022年6月以降、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等が段階的に緩和され、前年を上回る外国人来訪者数となったものの、依然として目標値を下回っている。

## 3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている	[参考]前年度 △：やや遅れている
-----------	----------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

博多旧市街プロジェクトの推進	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・伝統・文化などの魅力を観光資源として磨き上げるなど、観光地としての価値や認知を高める取組みを地域・民間事業者と連携しながら、博多旧市街エリアの観光推進に取り組んだ。</li> </ul> <p>〈観光地としての価値を高める取組み〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通局と連携し、地下鉄櫛田神社前駅の開業に合わせて駅構内における博多旧市街の魅力を伝える装飾を実施。</li> <li>・博多旧市街の特有性を生かした観光商品の登録制度である博多旧市街セレクションについて、官民連携によるプロモーションを実施。</li> <li>・歴史資源や名所をつなぎ、趣のある道路として美装化を実施。</li> <li>・地元クリエイターと連携した博多旧市街 PR ポスターを制作。</li> <li>・民間事業者による観光商品の造成を支援。</li> <li>・旧市街の雰囲気を感じられる灯籠をエリア内に設置することでまちなみの雰囲気を醸成</li> <li>・音声 AR を活用したガイドコンテンツの利用普及及び機能拡充を実施。             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 博多旧市街セレクション登録商品数 R3n : 31 商品 → R4n : 44 商品</li> <li>* 「博多町家」ふるさと館の入館者数 R3n : 43,369 人 → R4n : 89,727 人</li> <li>* 福岡アジア美術館の入館者数 R3n : 202,186 人 → R4n : 531,278 人</li> <li>* 外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、福岡アジア美術館） R3n : 498 人 → R4n : 3,006 人</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博多旧市街の認知度を向上させることが必要。</li> <li>・H29.12から、博多部にある価値ある歴史・伝統・文化の資源をストーリーとまちなみでつなぎ、「博多旧市街」エリアとして、市民や観光客が認知し楽しんでもらえる環境を整え、魅力を高める取組みを推進してきたが、国内外問わず認知度が低いため、観光資源として魅力を磨き、市民や観光客に情報発信していくことが必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 博多旧市街フェスティバルの魅力向上 地元や関係者と連携した旧市街の新たな定番として旧市街フェスを定着させていくための取組みを実施。</li> <li>② 博多旧市街ブランディング 交通機関・民間企業と連携したプロモーション強化。</li> <li>③ ふくおか歴史資源活用協議会における連携事業 博多旧市街エリアの文化財などの貴重な歴史資源を観光資源としてさらに磨き上げるとともに、魅力あるストーリーで分かりやすく発信し、持続可能な文化観光推進を図る。</li> </ol>

**鴻臚館・福岡城への集客向上に向けた取組み**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26n に策定した「国史跡福岡城跡整備基本計画」に基づき、潮見櫓建物復元整備工事に着手。</li> <li>・南丸多聞櫓の特別公開及びイベントを実施。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*多聞櫓公開来場者数 R3n：1,869人 → R4n：4,621人</li> <li>*イベント来場者数 R3n：1,117人 → R4n：1,027人</li> </ul> </li> <li>・Web や SNS を活用した情報発信を実施。</li> <li>・福岡城の建物・石垣を利用したボランティア清掃活動を通じて史跡に親しむイベントを実施。</li> <li>・H30n に策定した「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」に基づき、鴻臚館跡展示館の改修を実施。</li> <li>・福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館の施設運営を行い、観光客の受入環境を整備するとともに、着物や乗馬、ドローンによる記念撮影などの体験コンテンツを運営。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡城むかし探訪館来館者数 R3n：13,015人 → R4n：24,085人</li> <li>*三の丸スクエア来館者数 R3n：14,591人 → R4n：34,234人</li> <li>*鴻臚館跡展示館来館者数 R3n：12,162人 → R4n：24,762人</li> <li>*外国人来館者数（上記3館合計）R3n：257人 → R4n：5,898人</li> </ul> </li> <li>・デジタル技術によって復元された福岡城を楽しむAR体験コンテンツの利用普及に向けた情報を発信。</li> <li>・エリア内事業者による、FaN Week に合わせた相互誘客・回遊促進策や、三の丸スクエアや櫓を活用した集客イベントを実施。</li> <li>・福岡市公式の「福岡城御城印」の新デザインを販売開始。</li> <li>・夜間も安全に散策できるような天守台までの園路照明や、イベント開催を促すためのイベント用電源の整備を実施。</li> <li>・福岡城整備基金             <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡城復元に当たり広く参加意識を醸成するため設置。H26.7 条例施行</li> <li>*積立総額：139,738,248 円（R5.3 月末時点）</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡の周知を進めるとともに、史跡を活用した体験コンテンツの拡充など、市民や観光客が文化財を身近に感じるよう活用を図り、福岡の豊かで魅力ある観光資源の掘り起こしや磨き上げに取り組むことが必要。福岡城整備基金については、より広域的な募集に向けた取組みが必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着物や乗馬などの体験コンテンツの磨き上げやARなどのデジタルコンテンツの活用、イベントやMICEレセプション等を実施するなどユニークベニューとしての活用、昼夜を通して散策を楽しめる景観づくりや案内機能の充実化などに取り組む。</li> </ul>

**文化財の観光資源としての活用促進**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡「やよいの風公園」については、地域や史跡保存会等との連携を密接に図りながら、菜の花・コスモスの花畑公開に取り組んだ。また、SNS を活用した情報発信に努めた。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*吉武高木遺跡「やよいの風公園」での菜の花・コスモス花畑公開 R3n：2回 → R4n：2回</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡については、観光資源としての活用促進のため、積極的な広報や周知により、認知度を高めることが課題である。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉武高木遺跡等については、観光資源としての活用を促進するため、地域などと連携し、魅力あるイベントの開催や情報発信に努める。</li> </ul>

●魅力の磨き上げ

アジアと創る新たな魅力づくり（アジアンパーティ） <再掲7-3>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジアと創る」をコンセプトに、クリエイティブフェスタや福岡アジア文化賞のほか、アジアとクリエイティブをテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図り、アジアンパーティとして、9月～10月に実施（30事業、約42万人が参加）。コロナ下においても「アジア」「クリエイティブ」を体感できるようオンラインを活用した事業を実施。</li> <li>・クリエイティブフェスタでは、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRするため、福岡市役所西側ふれあい広場等にてイベントを実施。 *クリエイティブフェスタの来場者数 R3n：約40,000人 → R4n：約45,000人</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアンパーティは、R4nに10年目を迎え、参加人数・認知度について一定の成果が得られているが、今後も引き続き事業の背景・趣旨や目的の周知に努める必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる認知度向上、効果的な事業展開にむけて、民間企業・団体との連携強化を図る。</li> <li>・クリエイティブフェスタについては、アジアンパーティの中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図る。</li> </ul>

集客交流拠点としての美術館の魅力向上 <再掲1-4>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的なコレクション展や特別展の開催、コレクションを核としたSNS等による広報・情報発信を積極的に行った。</li> <li>・R4nに創設した「福岡アートアワード」等の事業によりアーティストの成長支援を行うとともに、市民が身近にアートに触れる暮らしを推進した。 *施設利用者数 R3n：381,227人 → R4n：431,569人 *コレクション展外国人来館者数 R3n：1,350人 → R4n：14,932人 *R4.7に、開館以来の総観覧者数が2,500万人を突破した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代や市民ニーズに応える集客交流拠点として、観光客やこれまであまり美術館を訪れていなかった方々に対するアプローチをより強化していくことが必要。</li> <li>・より多くの市民が美術館やアートを身近に感じることができるよう、市民が気軽にアートに触れ、楽しむ機会を新たに創出していくことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある展覧会の開催のほか、SNSなどによる積極的な情報発信を通して、広く美術館の魅力を伝えるとともに、美術館の認知度を高め、多くの市民や観光客が来館するような様々な取組みを行っていく。</li> <li>・集客イベントや子ども向け事業の充実により美術館の新しい魅力を創出し、市民も観光客も楽しめる施設としての充実を図る。</li> <li>・現代の多様な作品を収集することで、コレクションをアップデートする。新規購入作品については積極的に広報を行い、まちなかをアートで彩るFaN Weekなどにおいて公開することで、市民の鑑賞機会の充実を図るとともに、アートの魅力を国内外に発信する。</li> </ul>

**集客交流拠点としての福岡アジア美術館の魅力向上 <再掲1-4>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートカフェ」の整備（H30.3）後は、積極的に活用を推進し、市主催や民間利用による様々なイベントやレセプション等に利用されている。新型コロナウイルス感染症予防のための「新しい生活様式」を徹底するとともに、SNSで積極的な広報・情報発信など、オンラインによる発信強化を行った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*施設利用者数 R3n：202,186人 → R4n：531,278人</li> <li>*外国人来館者数 R3n：465人 → R4n：1,951人</li> <li>*アートカフェ利用件数 R3n：29件 → R4n：57件</li> </ul> </li> <li>・R4nから「Artist Cafe Fukuoka」を舞台に「アーティスト・イン・レジデンス」事業を拡充し、アーティストが福岡を拠点により活躍できるよう支援するとともに、福岡の現代アート界の活性化を図り、市民が身近にアートに触れることができる暮らしを推進した。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートカフェ」を、多様なイベント等が開催される当館の新たな魅力空間として内外にさらに発信していくことが必要である。</li> <li>・より多くの市民が美術館やアートを身近に感じることができるよう、アーティストの育成や現代アート業界の活性化を行い、市民が気軽にアートに触れ、楽しむ機会を創出する必要がある。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アートカフェ」で定期的に音楽演奏や伝統芸能公演等を実施するなど、多様な文化芸術に出会える、博多部の新たな集客交流拠点として、より一層、市民や観光客の認知度を高めていく。</li> <li>・更なる魅力向上のための調査・検討を行うとともに、世界の主要な美術賞を受賞したアジア人作家の良質で最先端の現代美術作品や、アジア近代美術史上重要で未収蔵の作家の作品を取得し、より多くの人がアジア美術館を訪れることを目指す。</li> </ul>

**集客交流拠点としての博物館の魅力向上 <再掲1-4>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館ホームページの見直しを行い、スマートフォン版の改修を行うとともに、利用案内を紙媒体からデータ化して、ホームページに掲載するなど、利便性を高めた。</li> <li>・特別展「独眼竜 伊達政宗展」（R4.10.8～R4.11.27）では、3年ぶりに対面での開会式を行った。観覧者数：21,187人</li> <li>・博物館グランドホールの空間を活かし、民間主催のファッションショーを開催した。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*施設利用者数 R3n：183,453人 → R4n：263,355人</li> <li>*常設展示室外国人観覧者数 R3n：389人 → R4n：3,784人</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・文化や集客交流拠点としての認知度をさらに高めることが必要。</li> <li>・地域住民、観光客など多様なニーズに合わせた事業展開。</li> <li>・多言語案内表示の増設などのユニバーサル化を進め、インバウンド受入環境の充実を図る。</li> <li>・博物館リニューアル推進事業の方向性の検討。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示内容の充実や関係機関との連携強化などを図り、SNSなどさまざまなメディアを活用し積極的な広報を行うとともに、ホームページ等の多言語での情報提供を充実させる。</li> <li>・博物館の収蔵品や福岡の歴史・文化資源を地域と連動をさせながら、観光客も楽しめるような魅力的な事業を実施する。</li> <li>・幅広い観光客をターゲットとした文化観光の拠点や文化を次世代へ継承する拠点等としての機能向上を目指し、リニューアルの基本設計及び収蔵庫棟増築工事の設計等を実施する。</li> </ul>

**海辺を活かした観光振興事業 (Fukuoka East&West Coast プロジェクト)**

<p><b>進捗</b></p>	<p>(志賀島・北崎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海辺の観光周遊コースの形成に向けて、豊かな自然環境と調和した道づくりや、写真を撮りたくなる海辺の魅力づくり、立ち寄りスポットづくりの検討等を行った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*北崎地区の歩道美装化工事 (R3.4 完了)、無電柱化工事を実施</li> <li>*志賀島地区の無電柱化工事を実施</li> <li>*志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 R3n : 2,764 人 → R4n : 5,090 人</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光資源を最大限活かした魅力の向上に取り組むとともに、当該地区を中心とした観光周遊コースを形成することにより、周辺地区への消費喚起、地域経済の活性化にもつなげる必要がある。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、豊かな自然環境と調和した道づくりのため、無電柱化に取り組む。</li> <li>サイクルツーリズムの推進に向けた観光案内板の設置やレンタサイクルの導入促進、観光客が楽しめる観光コンテンツの拡充に取り組むとともに、回遊を促進する立ち寄りスポットづくりの検討を行う。</li> </ul>

**無電柱化の推進 <再掲 3-1>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震発生時の緊急輸送道路の確保や、電柱の倒壊等による被害防止のため、無電柱化を推進。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*無電柱化整備延長 R3n:154.7km → R4n:155.6km 【目標R6n:168km】</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年における災害の激甚化・頻発化などを踏まえ、コスト縮減や事業のスピードアップにより、無電柱化を更に推進していく必要がある。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福岡市無電柱化推進計画 (R3~R7)」に基づき、低コスト手法の活用や設計・工事の効率化を図りながら、計画的かつ効率的に推進していく。</li> </ul>

**ふくおかの“食”の磨き上げ <再掲 6-4>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内産水産物の国内外への PR や販路拡大のため、「唐泊恵比須かき」を中心に海外プロモーション活動及び海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を実施。</li> <li>R4.3 に新たな輸出先として、シンガポールへ唐泊恵比須かきを初めて出荷し、スーパーや高級レストランでの提供が開始された。             <ul style="list-style-type: none"> <li>*海外のシェフ等との商談回数 R3n : 実施なし → R4n : 6 回</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐泊恵比須かき、弘のサザエ、アサリ等の市内産水産物は香港の高級レストランへの出荷が進みつつあるものの、国内やその他の海外市場においては、知名度が高いとは言えない。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンガポールや国内向けのブランド強化・販路拡大を推進する。</li> </ul>



**緑化の啓発・推進 <再掲4-3>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化啓発・緑化推進をさらに進めるため、市民・企業等との共働により、花と緑を育て、彩りや潤いにあふれ、おもてなしと豊かな心が育まれるまち、フラワーシティ福岡を創る取組み、一人一花運動を推進。</li> <li>【緑化の啓発】</li> <li>＊一人一花サミット             <ul style="list-style-type: none"> <li>R4n：一人一花サミット来場者数 53,730 人、20 団体参加</li> <li>オンライン一人一花サミット Web サイトページビュー数（累計）</li> <li>2.9 万 PV（R2.11.11～）</li> </ul> </li> <li>＊福博花しるべ事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>R4n 春：一人一花スプリングフェス来場者数 R4n：20,760 人</li> <li>一人一花スプリングフェス出展協力団体 R4n：18 団体</li> <li>協賛企業 R4n：17 社</li> <li>植え付け協力 R4n：約 100 団体 約 2,000 人</li> </ul> </li> <li>【緑化の推進】</li> <li>＊おもてなし花壇の設置（スポンサー企業協賛による花壇づくり）             <ul style="list-style-type: none"> <li>R3n：協賛 155 社 → R4n：協賛 165 社</li> </ul> </li> <li>＊ボランティア花壇団体数(街路) R3n：計 204 団体 → R4n：計 224 団体</li> <li>＊ボランティア花壇面積(㎡) R3n：9,156 ㎡ → R4n：9,961 ㎡</li> <li>＊フラワーボックス設置数 R3n：464 基 → R4n：488 基</li> <li>＊緑化助成 R4n：申請件数 42 件、緑化面積 1,351 ㎡、助成実績 685 万円</li> <li>＊一人一花パートナー花壇登録団体数 R3n：498 団体 → R4n：576 団体</li> <li>＊一人一花活動サポート企業数 R3n：13 社 → R4n：15 社</li> <li>＊一人一花メディアパートナー数 R3n：14 社 → R4n：17 社</li> <li>・良好な都市景観の形成や都市環境の改善を図り、緑豊かなまちづくりを推進するため、地域や企業と共働し、都心部をはじめとして全市域における植樹運動を展開する、都心の森 1 万本プロジェクトを始動（R5.2～）。</li> <li>・美しく安全で快適な都市環境の形成を図るため、公園や街路樹等の整備・管理や緑地の保全に取り組むとともに、地域による公園の愛護活動への支援を実施。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や企業、行政による花づくりの広がりが実感できるようになってきたが、「花による共創のまちづくり」が定着するよう、持続可能な仕組みづくりが必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の花づくり活動について、支援を継続するとともに、活動の定着に向けて、新たなメニューやきっかけの場などの仕組みづくりを進め、これらの取組みに関して市民への効果的な情報発信を行う。</li> <li>・都心の森 1 万本プロジェクトについては、都心部においては、天神ビッグバンや博多コネクティッドによりまちが大きく生まれ変わっていく中で、公園や街路空間における居心地の良い空間の創出や民間ビルの建替え時に「みどり」等の誘導等を行うとともに、新たな樹木の植樹や市民への苗木配布等を実施していく。</li> </ul>

**動植物園再生事業 <再掲4-4>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアゾウの受入れに向けた環境整備を実施。</li> <li>・一人一花運動の拠点の核となるボタニカルライフスクエアを供用開始（R5.3）。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物福祉や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点に立った魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の向上を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へトリニューアルを推進。</li> <li>・アジアゾウ受入れに向け、関係機関との調整を継続して実施する。</li> <li>・更に魅力ある施設となるよう、動植物園再生基本計画の見直し等の検討を進める。</li> <li>・一人一花運動の拠点としての機能強化を進める。</li> </ul>

特色ある公園づくり事業 <再掲4-4>	
進捗	・高宮南緑地（旧高宮貝島家住宅）について、指定管理者による管理運営を開始し、歴史的建築物を活用したおもてなしや交流の場づくりを行った。
課題	・特になし。
今後	・高宮南緑地（旧高宮貝島家住宅）については、おもてなし施設として、官民連携して良好な管理運営に努める。

## 施策5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

##### セントラルパーク構想の推進

- ・セントラルパーク基本計画（R1.6策定）に基づき、大濠公園と舞鶴公園の一体的な整備や活用を推進

##### ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）

- ・イベントの年間開催日数 R3n：65日\* → R4n：105日\*  
 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止あり
- ・鴻臚館跡展示館来館者数 R3n：12,162人 → R4n：24,762人

##### ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）

- ・福岡城整備基金寄付 積立総額：139,738,248円（R5.3月末時点）

##### 利活用を支える体制づくり

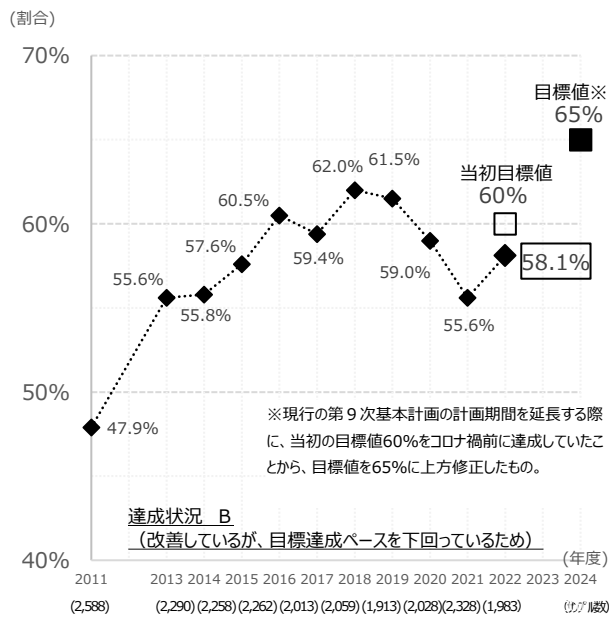
- ・大濠・舞鶴公園連絡会議の開催回数 R3n：2回 → R4n：2回

##### 利活用を支える機能の充実

- ・サクラやアジサイ等、史跡や公園における見所づくりを実施
- ・福岡高等裁判所跡地の公園整備に着手
- ・回遊性の向上のための整備を実施（園路や階段のバリアフリー化）
- ・城内住宅の移転率 R3n：80.1% → R4n：81.1%

2 成果指標等

①過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

これまでの緑と歴史・文化に関するイベントや、指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベント受け入れなどによる取組みの推進が、認知度向上に寄与し、指標①の堅調な推移に現れている。また、新型コロナウイルス感染症によるイベントの自粛等の影響からの回復傾向がみられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）

セントラルパーク構想の推進	
進捗	・セントラルパーク基本計画（R1.6策定）に基づき、大濠公園と舞鶴公園の一体的な整備や活用を推進。
課題	・鴻臚館の特性を活かした現代的な活用や整備内容の詳細な検討が必要。
今後	・セントラルパーク基本計画に基づき、市民の憩いと集客の拠点づくりを目指す。 ・わかりやすい情報発信に努め、身近な史跡としての公開・活用を進めていく。

ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進①（賑わいづくり）	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞鶴公園指定管理者の自主事業により、新たな利活用を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡城秋の舞鶴公園で遊ぶの実施（自治会・市民ボランティア・西日本短期大学・市科学館・障がい者支援施設との連携、地域NPO法人との共催等）</li> <li>*ラジオ体操実施により地域コミュニティの場創出（21日間、延594名参加）</li> <li>*マルシェ事業実施により日常の賑わいづくり（8回実施、延出店者73店舗）</li> <li>*キッチンカー出店のサービスを実施（106日間延出店台数221台）</li> <li>*舞鶴公園ネイチャーウォッチング講座の定期実施（月1回） 講座修了者のうち希望者を運営ボランティアとして受入れ持続可能な仕組みを実施</li> </ul> </li> <li>・季節毎の賑わいを創出するため、多様な民間イベントの受入れ等を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*イベントの年間開催日数 R3n：65日 → R4n：105日</li> <li>*アウトドアデイジャパン（アウトドアギアの展示、ワークショップ）</li> <li>*カレーフェス（カレー店やマルシェの出店、音楽ステージ）</li> <li>*わんだふる（ドッグイベント。ドッグマルシェ、ステージ、飲食など）など</li> </ul> </li> <li>・ワンヘルスの推進や公園の魅力向上のため、県と連携してワンヘルスパークを開設（R4.11）。</li> <li>・三の丸スクエアや福岡城むかし探訪館において着物や乗馬、ドローンによる記念撮影などの体験コンテンツを実施。</li> <li>・エリア内事業者による、博物館の特別展に合わせた相互誘客・回遊促進策や、鴻臚館広場での集客イベントを実施。</li> <li>・福岡市公式の「福岡城御城印」の官兵衛バージョンを販売開始。</li> <li>・南丸多聞櫓の特別公開及びイベントを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*多聞櫓公開来場者数 R3n：1,869人 → R4n：4,621人</li> <li>*イベント来場者数 R3n：1,117人 → R4n：1,027人</li> </ul> </li> <li>・福岡城の建物・石垣を利用したボランティア清掃活動を通じて史跡に親しむイベントを実施した。</li> <li>・鴻臚館跡展示館来館者数 R3n：12,162人 → R4n：24,762人</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や観光客が四季を通じて楽しめるようさらなる取組みが必要。</li> <li>・現地に電気・給排水設備が無いことがイベント主催者の負担になっている。</li> <li>・鴻臚館・福岡城エリアのさらなる魅力や認知度の向上が必要。</li> <li>・史跡を活用した体験コンテンツの開発など、市民や観光客が福岡の歴史・文化を巡る環境整備や集客促進が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部最大級の広場空間（舞鶴公園三ノ丸広場・鴻臚館広場）を活用しつつ、国史跡鴻臚館跡や福岡城跡、四季折々の花々を観光資源として活かしていくため、福岡城さくらまつりを核とした多様なイベントの充実により、季節を通じた賑わい創出に取り組む。</li> <li>・キッチンカー及びマルシェの定期的な実施に向けた取組みを推進する。</li> <li>・着物や乗馬などの体験コンテンツの磨き上げやARなどのデジタルコンテンツの活用、イベントやMICEレセプション等を実施するなどユニークベンチャーとしての活用、昼夜を通して散策を楽しめる景観づくりや案内機能の充実化などに取り組む。</li> </ul>

**ポテンシャルを最大限に活かす利活用の推進②（市民・企業等との共働）**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民と一体となって福岡城整備を推進する「福岡城整備基金」について、ふるさと納税制度を活用した福岡市ホームページによる周知、市内文化関連施設等へのチラシの設置及び本庁舎等での募金箱の設置、ならびに歴史系雑誌への広告掲載や、寄付者への事業報告書の送付など、市内外のPRに取り組むことで、基金の収益及び認知度の向上を図った。 *積立総額：139,738,248円、寄付件数：2,197件（R5.3月末時点）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡城整備基金については、より広域的な募集に向けた取組みが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡城整備基金への寄付のリピーターを増やすとともに、イベント等と連携したPRにより、基金の認知度を上げる取組みを推進する。 *城内イベントと連携した寄付等の拡充 *リピーター確保に向けた寄付者への情報発信の強化や、歴史系雑誌等への広告掲載 *SNS等の各種媒体を活用した広報の強化</li> </ul>

**利活用を支える体制づくり**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的として、市と県等による大濠・舞鶴公園連絡会議を開催。 *開催回数 R3n：2回 → R4n：2回</li> <li>大濠公園と舞鶴公園の一体的な利活用を目的とした大濠・舞鶴公園事業者による連絡会議を開催。 *開催回数 R3n：1回 → R4n：1回</li> <li>舞鶴公園指定管理者の自主事業の充実により、市民・企業との共働を促進した。 *小学校との連携強化を図るため、出前講座メニューを作成し、近隣小学校に配布 *市民ボランティアと共働で、花壇植付け等を実施 *企業ボランティア等と協働で、石垣除草・草刈り・剪定を実施</li> <li>福岡市造園建設業協会・福岡市緑化協会のボランティアによる石垣除草及び松の剪定を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>両公園内の複数の施設管理者や関係部局及び民間事業者等の公園に関わる様々な主体が連携した一体的な管理運営の実現に向け、大濠・舞鶴公園連絡会議の充実やさらなる市民・企業等との共働の取組みが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に県民・市民、NPO、企業の知恵・労力・資金などを広く受入れ、効果的に活用していく仕組みづくりの検討を推進する。</li> </ul>

**利活用を支える機能の充実**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡や公園としての魅力向上のため、見所づくりを実施した。 *サクラの名所づくりに向け、剪定・土壌改良等を実施 *アジサイの見所づくりに向け、市民と共働でアジサイを植樹 *ツツジ園の見所づくり（ゲンカイツツジの育成） *コスモス畑・ナノハナ畑の育成による季節の花見どころ創出 *梅園土壌改良実施により梅の花付き改良及び開花調査継続</li> <li>福岡高等裁判所跡地の公園整備に着手した。 *事業期間：H30n～R5n、債務負担行為議決済（H26.9月）</li> <li>回遊性の向上のため、園路整備（天守台～三の丸）や階段のバリアフリー化を実施した。</li> <li>夜間の回遊性の向上を図るため、園路照明の整備を実施した。</li> <li>城内住宅の移転を実施した。 *移転率 R3n：80.1%（157/196区画） → R4n：81.1%（159/196区画）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>利活用を支える機能の充実については、将来の多様なニーズにも対応できる計画とするとともに、計画的な財源確保が必要。</li> <li>鴻臚館・福岡城の遺構の全容解明が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画に基づき、計画的に公園整備や史跡の発掘調査・復元整備を推進する。</li> <li>福岡高等裁判所跡地の整備について、関係機関と連携しながら推進する。</li> <li>城内住宅について、計画的に移転事業を推進する。</li> </ul>

**施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり**

**1 事業の進捗状況**

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●おもてなしの向上

**まち歩きガイド内容の拡充**

- ・まち歩きコース数 R3n : 61 コース → R4n : 67 コース

**官民共働による外国人の受入環境整備**

- ・公衆無線 LAN サービス提供拠点数 R3n : 114 ケ所 → R4n : 105 ケ所

**観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供**

- ・「イベント情報」や「ツアー情報」等の観光情報を発信
- ・「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 R3n : 210 件 → R4n : 303 件

●交通利便性や都心回遊性の向上

**快適で高質な都心回遊空間の創出**

- ・はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備 (R5.3 : 完了)
- ・西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備と景観誘導 (R4n : 石畳整備一部区間完了)
- ・清流公園・春吉橋迂回路橋上広場における Park-PFI 制度の活用 (R5.3 : 公募開始)
- ・リバーフロントNEXTを県と連携して推進 (R4.10 : 共同発表)

**天神通線整備事業 <再掲8-1>**

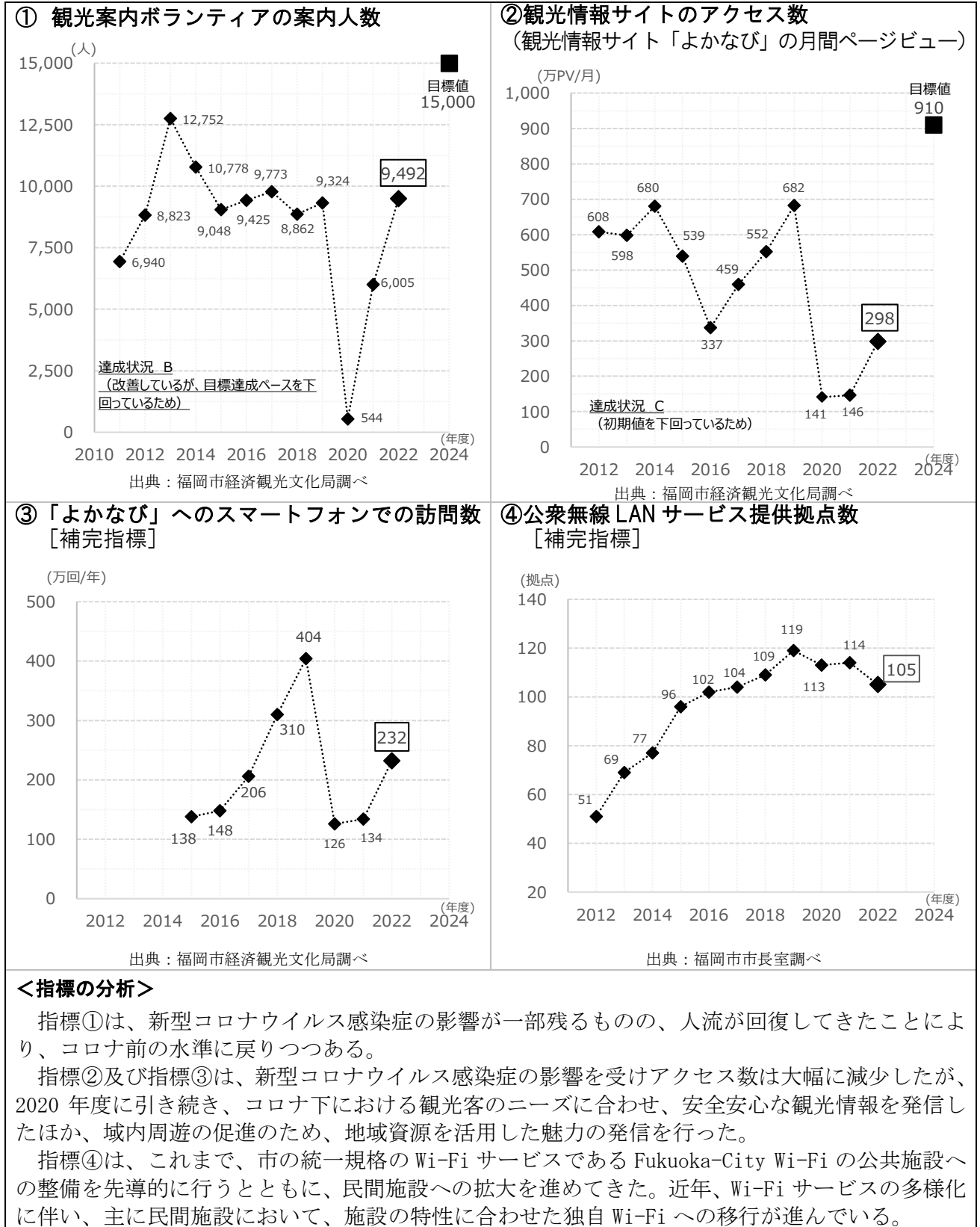
- ・北側工区の一部用地取得

**観光バス受入環境の改善 <再掲5-6>**

- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R3n : 0 台<sup>※</sup> → R4n : 0 台<sup>※</sup>

※新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船が寄港しなかったため。

2 成果指標等



3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

<p>△：やや遅れている</p>	<p>[参考]前年度 △：やや遅れている</p>
------------------	------------------------------



#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●おもてなしの向上

まち歩きガイド内容の充実	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心に配慮し、観光客の依頼に応じた派遣ガイド・企画募集型まち歩きガイド・オンラインツアーや、市の観光施設等での観光案内・定時ツアーを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*案内件数 R3n：329件 → R4n：777件</li> <li>*案内人数 R3n：6,005人 → R4n：9,492人</li> <li>*まち歩きコース数 R3n：61コース → R4n：67コース</li> </ul> </li> <li>ボランティアの新規募集を実施した。(R5.4登録13人)</li> <li>英語ツアーガイドを養成し、福岡城及び博多旧市街の英語ガイド事業を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*利用実績：5件、26名</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>まち歩きガイドの案内人数増加に向けて、観光客の様々なニーズに応じた観光案内を行う必要がある。</li> <li>外国人観光客の受入体制について、外国語対応可能な人材が不足している。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内ボランティアの新規募集によるまち歩きガイドの充実や、都心部以外の地域における新たな地域の魅力を発掘し、新コースを開発することにより、ガイド内容の拡充及び市内の回遊促進を図る。</li> <li>外国語対応可能な人材の育成及び確保を行うとともに、他団体との連携やIoTの活用など、インバウンド向け観光案内の仕組み作りを行う。</li> <li>福岡の歴史や文化財を活用した体験コンテンツと連携して、まち歩きのさらなる魅力向上を図る。</li> <li>SNSの活用など、双方向性や拡散力を重視した情報発信に努めていく。</li> </ul>

官民共働による外国人の受入環境整備	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>無料公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」の拠点拡大を官民共働により推進。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*公衆無線LANサービス提供拠点数 R3n：114ヶ所 → R4n：105ヶ所</li> </ul> </li> <li>世界水泳選手権福岡大会にむけて、多様な食文化や多言語、キャッシュレス等に対応する飲食店、小売店、体験コンテンツなどの「おもてなし店舗」を募集し、店舗情報を発信している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入環境については、観光施設や宿泊施設、交通機関、飲食店等と連携して取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模なMICE開催のレガシーを、今後開催予定の大型MICEへと継承し、都市ブランド力のより一層の向上を目指し、官民一体で外国人観光客の受入環境整備の充実を図る。</li> </ul>

観光情報サイト「よかなび」による質の高い観光情報の提供	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外への情報発信として、5言語（日本語、英語、韓国語、中文簡体、中文繁体）で展開するとともに、主要な情報については、フランス語、ドイツ語、スペイン語、オランダ語、タイ語、ベトナム語の6言語でも発信している（計11言語）。</li> <li>・トップページでは、来福者の回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく観点から、「イベント情報」や「ツアー情報」のほか、国内の全国旅行支援や海外からの入国制限の緩和などに対応した市内のおすすめ観光情報などを発信している。</li> </ul> <p style="text-align: center;">* 「よかなび」でのイベント及びツアー情報発信件数 R3n：210件 → R4n：303件</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光による経済効果が様々なエリアに行き渡るよう、情報発信に取り組んでいくことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よかなび」では、国内へ向けた情報発信として、市内の魅力あるコンテンツや最新の「イベント情報」、「ツアー情報」等を継続的に発信し、福岡市内における回遊性の向上や地域における消費拡大に繋げていく。外国人観光客に向けては、R5.5に公開した観光グローバルサイトで写真や動画などのコンテンツを発信することなどにより、海外からの誘客を図っていく。</li> </ul>

●交通利便性や都心回遊性の向上

快適で高質な都心回遊空間の創出	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。</li> </ul> <p>&lt;具体事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備（R5.3：完了）</li> <li>* 西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備（R4n：石畳整備一部区間完了）と景観誘導（H30.10 西中洲地区景観誘導街づくり計画登録）</li> <li>* 清流公園・春吉橋迂回路橋上広場におけるPark-PFI制度の活用（R5.3：公募開始）</li> <li>* リバーフロントNEXTを県と連携して推進（R4.10：共同発表）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、主要プロジェクトの開業・供用時期や民間ビルの開発機運などを捉えた戦略的な推進が必要。</li> <li>・リバーフロントNEXTについては、エリア全体の回遊性向上や積極的な情報発信が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。</li> <li>・リバーフロントNEXTを推進するため、県や関係部局等と密に連携しながら、施策効果の最大化を図る事業内容の検討や積極的な情報発信を行う。</li> </ul>

天神通線整備事業 <再掲8-1>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画決定（南側：H25.8 告示、北側：R2.9 告示）。</li> <li>・北側工区については、R2n から事業着手し、用地取得を進めている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北側工区については、周辺のまちづくりと併せた道路整備が必要。</li> <li>・整備効果を最大限発揮するため南側工区の早期整備が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北側工区については、まちづくりと一体となった整備を進める。</li> <li>・南側工区については、R5n から事業着手し、整備を進める。</li> </ul>

**観光バス受入環境の改善 <再掲 5-6>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。</li> <li>・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R3n : 0 台<sup>※</sup> → R4n : 0 台<sup>※</sup> ※新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船が寄港しなかったため。</li> <li>・博多区御供所地区の出来町公園における観光バス乗降場の運用。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため、市内で交通混雑が発生する。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄港地観光手配予約システムの活用などによる訪問先・時間の分散化に取り組む。</li> <li>・クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。</li> <li>・クルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。</li> </ul>



**施策5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成**

**1 事業の進捗状況**

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲8-1>

★マリンメッセ福岡において歩行者用上屋の整備を実施

都心拠点間の交通ネットワーク強化 <再掲4-5>

・都心循環 BRT における利用促進方策などの検討

●MICE誘致の推進

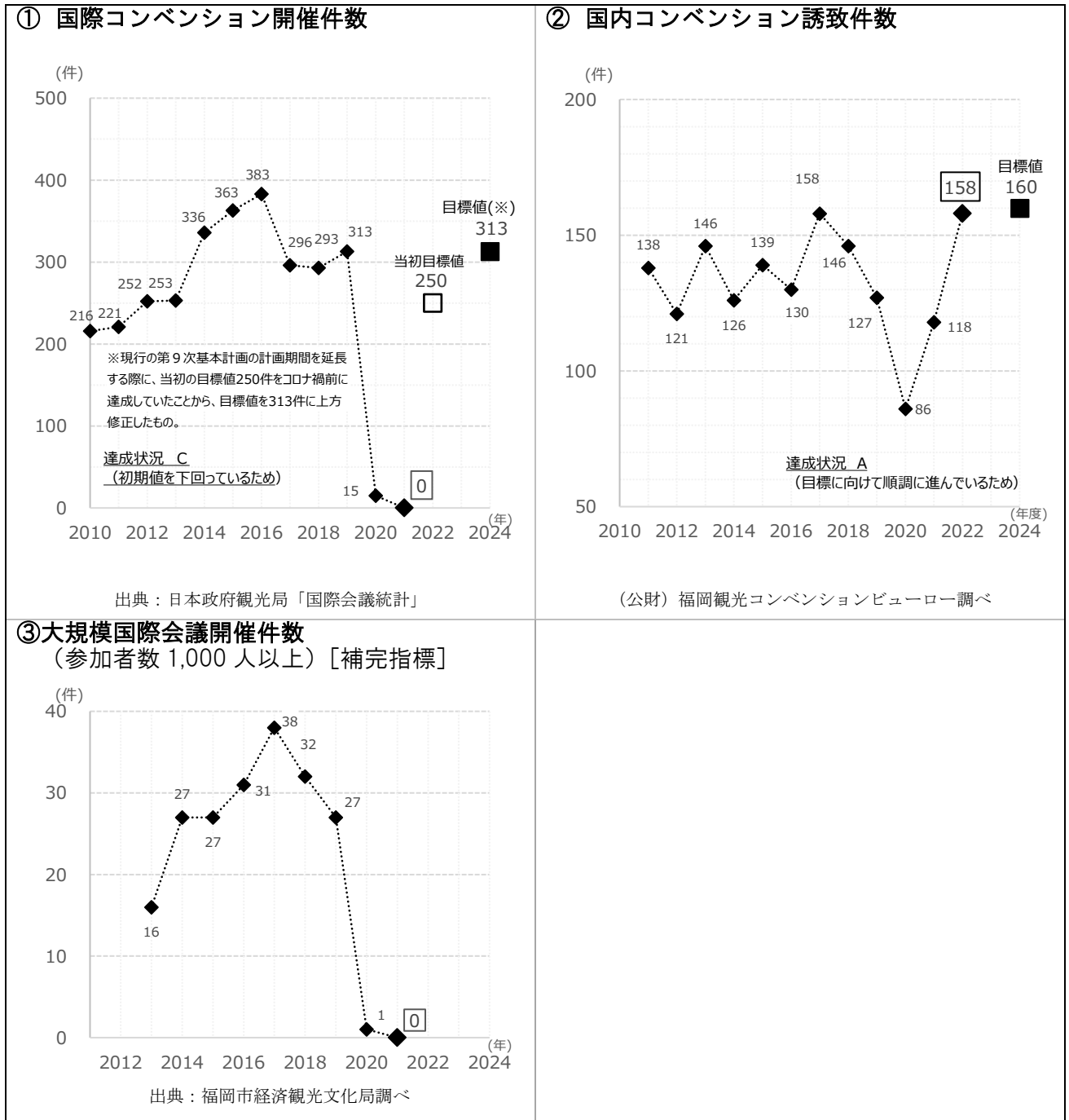
戦略的なMICEの誘致やビジネス振興

★海外見本市等商談件数 R3n : 179 件 → R4n : 135 件

・コンベンションサポート件数 R3n : 87 件 → R4n : 102 件

・国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 R3n : 1 件 → R4n : 7 件

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①、指標③ともに、2020 年以降は例年の件数を大きく下回っている。これは新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等により、コンベンションの開催や外国人参加者が大幅に減少していることが要因である。

指標②は、新型コロナウイルス感染症の影響で誘致活動が制限されたことなどにより件数が減少したことから、誘致力強化のため Meeting Place Fukuoka の体制を強化し、関係団体との連携強化やオンラインによる誘致活動に取り組むとともに、引き続きオンラインとリアルを組み合わせたハイブリッド開催への支援を行うなど、ポストコロナに向けた取組みを推進した。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている	[参考]前年度 △：やや遅れている
-----------	----------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●MICE機能の強化

ウォーターフロント地区内でのコンベンション機能の強化 <一部再掲8-1>	
進捗	・マリンメッセ福岡において歩行者用上屋の整備を実施。
課題	・MICE機能の強化については、感染症対策などの視点を加えるとともに、MICEの動向を注視しながら適切に対応していく必要がある。
今後	・マリンメッセ福岡において、パブリックアートの制作・設置によりおもてなし空間の創出に取り組む。 ・感染症対策などの視点を踏まえたMICE機能強化に向けた検討等を行う。

都心拠点間の交通ネットワーク強化 <再掲4-5>	
進捗	・都心循環BRTにおける利用状況の現地調査や、市民の利用意向等を把握するためのWebアンケート調査を実施。
課題	・バス事業者と連携しながら、都心循環BRTの利便性向上や利用促進に取り組んでいくことが必要。
今後	・当面は現在の15分間隔運行を続けながら、Webアンケート調査の結果や、七隈線延伸の利用状況等を踏まえ、引き続き、バス事業者と連携しながら都心循環BRTの利便性向上や利用促進に取り組む。

##### ●MICE誘致の推進

戦略的なMICEの誘致やビジネス振興	
進捗	・コロナ下においても、将来的なMICE開催につなげていくため、Meeting Place Fukuokaを中心に、オンラインなどを活用しながら誘致活動を行うとともに、安全対策やハイブリッド開催への支援などに取り組んだ。 *海外見本市等商談件数 R3n: 179件 → R4n: 135件 *コンベンションサポート件数 R3n: 87件 → R4n: 102件 *国家戦略道路占用事業（ストリートパーティー等）実施実績 R3n: 1件 → R4n: 7件
課題	・市内でMICEが開催され、地域経済の活性化に繋がるよう、ポストコロナに対応したMICE誘致・開催支援が必要。
今後	・地域経済のコロナからの回復とさらなる活性化に向けて、今後のMICEの動向やニーズを把握するとともに、関係機関と連携し、MICEの誘致・支援に取り組む。 ・必要に応じた感染症対策を講じた上で、国家戦略特区の道路活用などユニークベニューの活用を進め、MICE開催地としての魅力向上に努める。





**施策5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興**

**1 事業等の進捗状況**

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み

★世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催に向けた準備

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり

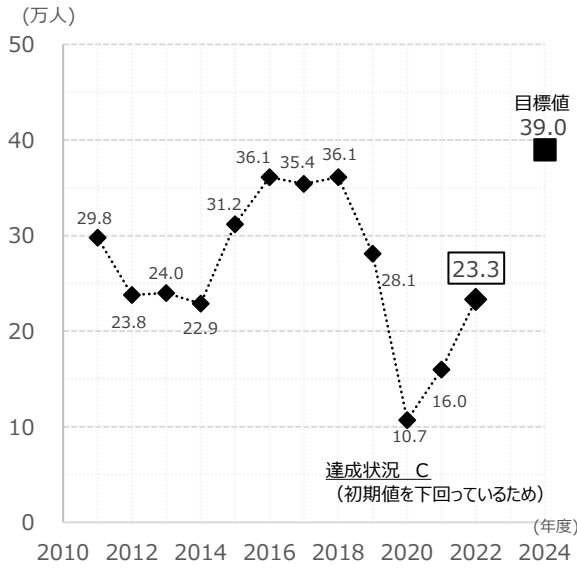
- ・アビスパ福岡によるサッカー教室等の開催件数 R3n : 117 件 → R4n : 128 件
- ・観戦招待事業 R3n : 4 件 → R4n : 4 件
- ・心の教育プロジェクト R3n : 14 件 → R4n : 15 件

大相撲九州場所等に触れる機会づくり

- ・大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施
- ・市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業を実施 R3n : 0 校 (未実施) → R4n : 14 校
- ・こども観戦招待事業を実施 R3n : 0 人 (未実施) → R4n : 636 人

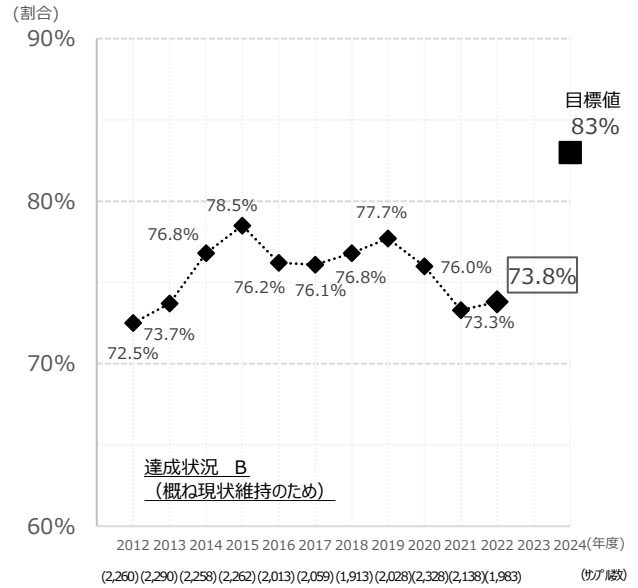
2 成果指標等

①福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数  
(福岡ソフトバンクホークスを除く)



出典：福岡市市民局調べ

②スポーツ観戦の機会への評価  
(福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思える市民の割合)



出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

<指標の分析>

指標①②ともに前年度から増加している。これは、新型コロナウイルス感染症に関するプロスポーツ等観戦時の制限が緩和されたこと等によるものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致

国際スポーツ大会等の開催地としての取組み	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催準備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 国際水泳連盟(FINA)の名称が世界水泳連盟(World Aquatics)に変更されたことに伴い、大会名称を下記の通り変更。                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>世界水泳選手権 2023 福岡大会</li> <li>世界マスターズ水泳選手権 2023 九州大会</li> </ul> </li> <li>* R3nに引き続き、政府の「経済財政運営と改革の基本方針」(骨太の方針)に世界水泳選手権福岡大会が位置付け(R4.6)。</li> <li>* 博多どんたく港まつりでの「世界水泳どんたく隊」のパレード参加(R4.5)、世界水泳選手権ブダペスト大会の金メダリスト等を招いた開幕1年前トークイベント(R4.7)等、気運醸成の取組みを実施。</li> <li>* 世界水泳選手権のチケット販売を開始。(R5.2)</li> <li>* 世界水泳選手権及び世界マスターズ水泳選手権のエントリーを開始。(R5.2、R5.3)</li> <li>* 企業版ふるさと納税等を活用した寄付実績78件(R4n)。</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規国際スポーツ大会等の開催に関する情報収集を行っていく必要がある。</li> <li>・世界水泳選手権福岡大会及び世界マスターズ水泳選手権九州大会の開催に向け、万全の受け入れ環境を整備するとともに、市負担の縮減のため、世界水泳連盟との協議等による支出の抑制と公的助成、寄付・協賛金の獲得による収入の最大化が必要。</li> <li>・市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、トップレベルの競技を観る機会だけでなく、実際にスポーツを体験する機会の提供も必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種競技団体等と連携し、新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会の誘致などにより、市民が一流のスポーツに触れ、楽しむことができる機会を創出する。</li> <li>・2023年開催の世界水泳選手権福岡大会については、世界水泳連盟、日本水泳連盟等の大会関係者と協議を行いながら選手・観客などの受け入れ環境を整備し、円滑な大会運営を行う。</li> <li>・市民が高いレベルのスポーツに触れ、自らもスポーツを体験できる機会を創出するため、国際スポーツ大会などに参加するトップアスリートとの交流会等の企画を推進していく。</li> </ul>

●プロスポーツの振興

福岡を拠点としたプロスポーツチームに触れる機会づくり	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡市に拠点を置く、アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカ等と連携して、市民や選手・監督・コーチが触れ合うスポーツイベント（スタージャンプ福岡）を実施。</li> <li>アビスパ福岡と連携し、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等の実施や市民の観戦招待事業等を通じて、市民がスポーツに触れる機会を創出。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>*サッカー教室の開催件数 R3n：117件 → R4n：128件</li> <li>(内訳)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） R3n：0件 → R4n：0件(新型コロナウイルス感染症の影響で実施なし)</li> <li>・少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） R3n：91件 → R4n：102件</li> <li>・アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） R3n：12件 → R4n：12件</li> <li>・ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチ及びブラインドサッカー選手による体験教室） R3n：14件 → R4n：14件</li> </ul> </li> <li>*観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） R3n：4件 → R4n：4件 ※区観戦招待を含む</li> <li>*心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） R3n：14件 → R4n：15件</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファーフクオカなど多彩なプロスポーツチーム等が活動しているが、各チームが取り組む地域に根差した取組みなどについては広く市民に認知されていないものもあり、その活動の周知を行っていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の認知度を高めるため、プロスポーツチームの試合情報や地域に根差す取組みについて、広報活動を実施する。</li> <li>各スポーツチームと連携し、市民とのスポーツ交流活動を実施する。</li> </ul>

大相撲九州場所等に触れる機会づくり	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>大相撲九州場所の広報支援として、街路灯バナーの掲出等を実施。</li> <li>市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業及びこども観戦招待事業を実施した。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>*市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業 R3n：0校（未実施） → R4n：14校</li> <li>*こども観戦招待事業 R3n：0人（未実施） → R4n：636人</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のスポーツへの関心を高めるため、観戦機会などの充実を図っていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの児童・生徒や市民が観戦機会を得られるよう、日本相撲協会等関係団体と連携して観戦招待事業の充実を図るなど、取組みを進める。</li> </ul>

**施策5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進**

**1 事業の進捗状況**

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●シティプロモーションの推進

**市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進**

- ・外国人入国者数 R3n : 0.6 万人 → R4n : 40 万人
- ★市内宿泊観光客数 R2n : 224 万人 → R3n : 229 万人
- ・情報発信・招請事業回数 R3n : 16 回 → R4n : 20 回

**フィルムコミッションによるシティプロモーション**

- ・海外作品撮影支援件数 R3n : 1 件 → R4n : 12 件

●クルーズ客船誘致の取組み

**多様なクルーズの誘致**

- ★海外コンベンションへの参加回数 R3n : 1 回 → R4n : 1 回
- ※オンラインによる参加

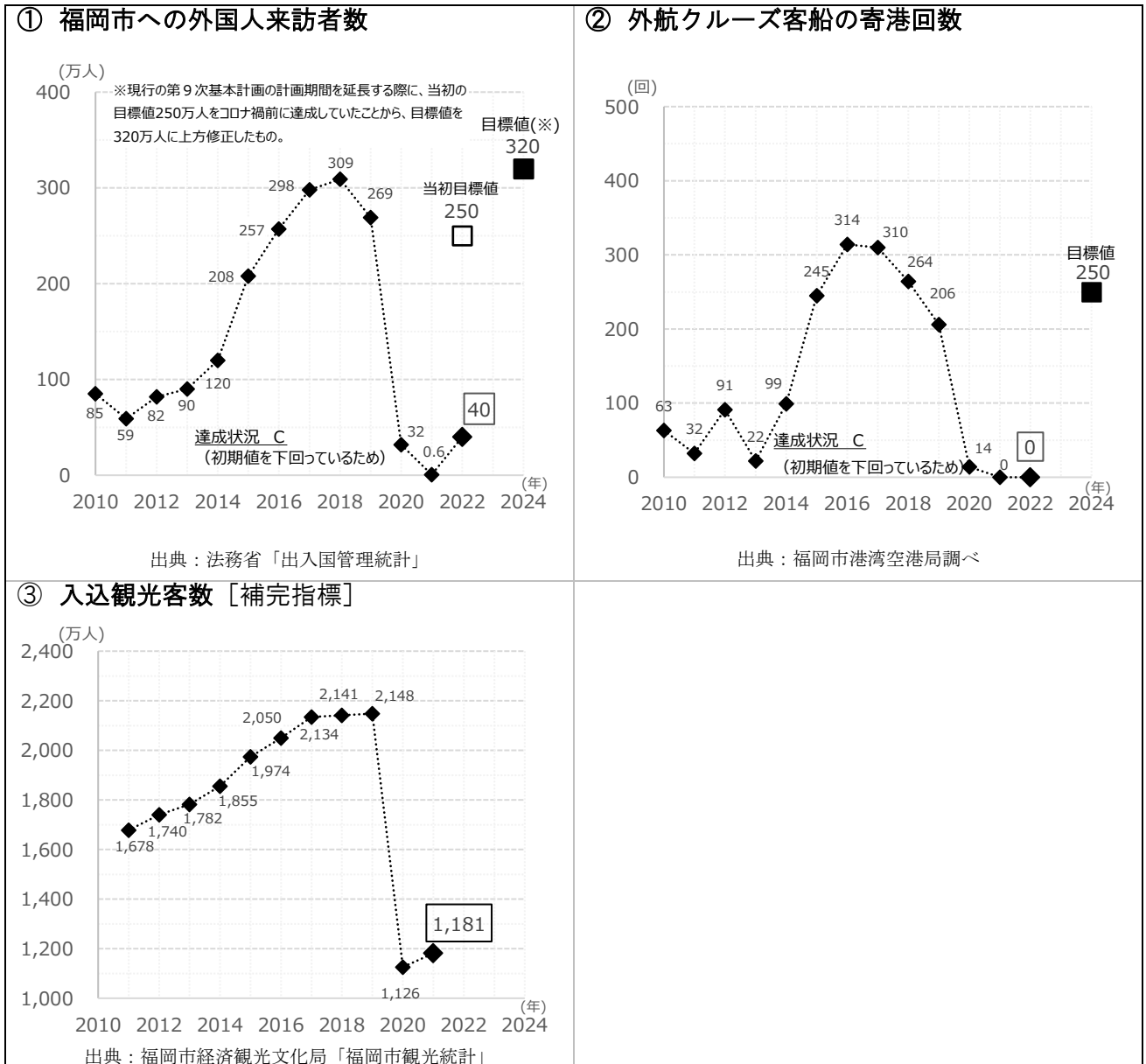
**クルーズ船の受入体制の整備**

- ・クルーズ船寄港回数 R3 : 0 回 → R4 : 2 回  
(うち外航クルーズ客船の寄港回数 R3 : 0 回※ → R4 : 0 回※)
- ※新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船の寄港がなかったため

**クルーズ客の受入体制の整備**

- ・外国航路船舶乗降人員数(不定期) R3 : 0 人※ → R4 : 0 人※
- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R3 : 0 台※ → R4 : 0 台※
- ※新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船の寄港がなかったため

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国の入国制限措置等に伴い、2020年より大幅に減少しているものの、2022年6月以降、入国制限措置等が段階的に緩和され、前年を上回る外国人来訪者数となった。

指標②は、新型コロナウイルス感染症の影響により、外航クルーズ客船については2020年2月以降は寄港がなかったが、ポストコロナを見据え、クルーズ船社と協議をするなど、寄港数の回復に向けた準備を進めた。

指標③は、8年連続で過去最高を更新していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少している。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

<p>×：遅れている</p>	<p>[参考]前年度 ×：遅れている</p>
----------------	----------------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●シティプロモーションの推進

市場ニーズ分析等による効果的なシティプロモーションの推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の水際措置の緩和状況や市場の特性等を踏まえながら、福岡空港への直行便がある海外の有力な市場に対し、魅力の発信と誘客の促進に取り組んでいる。</li> <li>・世界水泳選手権福岡大会の開催を活かしながら、九州の各自治体等と連携した効果的な魅力発信を行うことにより、福岡市発着の九州を周遊する広域観光の促進に取り組んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*外国人入国者数 R3n：0.6万人 → R4n：40万人</li> <li>*市内宿泊観光客数 R2n：224万人 → R3n：229万人</li> <li>*情報発信・招請事業回数 R3n：16回 → R4n：20回</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットとする国や地域に向けて、主にデジタルを活用した情報発信による誘客・周遊の促進や、回遊分析などによる観光客等の動きやニーズの把握を行う必要がある。</li> <li>・魅力ある観光コンテンツを有する九州の各自治体等と連携し、戦略的に情報発信やプロモーションを行っていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンドの本格的な回復に向け、九州の自治体等とも連携し、福岡・九州のさらなる魅力発信と誘客を促進する。</li> <li>・世界マスターズ水泳選手権の開催にあわせ、開催都市である福岡市・熊本市・鹿児島市を周遊する旅行商品の造成・プロモーション等を行い、九州周遊を促進する。</li> </ul>

フィルムコミッションによるシティプロモーション	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響等が減少してきており、少しずつではあるが海外作品の支援依頼が増加しつつある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*海外作品撮影支援件数 R3n：1件 → R4n：12件</li> </ul> </li> <li>・国内の映画祭会場や国際映画祭に併せて開催される海外の見本市等においてプロモーション活動を実施。</li> <li>・国内外で話題となった支援作品を活用し、SNS やデジタルサイネージ、公共施設でのポスター掲示等の広報や、配給会社等と連携したプロモーション活動を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外で話題となるような、福岡を舞台とした映画・テレビドラマ等の作品が不足している。</li> <li>・撮影環境、慣習の違いから、海外の撮影隊を受け入れる十分なノウハウを持つ事業者が少ない。</li> <li>・福岡で撮影された映画等のロケ地について、情報発信が不足している。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで培ったネットワークを活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。</li> <li>・海外からの撮影隊に地元映像関係者が参画する場を提供することで、ノウハウの蓄積、人材育成につなげ、海外からの撮影受入体制の充実に取り組む。</li> <li>・支援作品の公開等に合わせ、ロケ地や作品を活用した観光 PR やシティプロモーションを行う。</li> </ul>

●クルーズ客船誘致の取組み

多様なクルーズの誘致	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響を注視しつつ、海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動を実施。 *海外コンベンションへの参加回数 R3n:1回 → R4n:1回 ※オンラインによる参加</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国市場偏重によるカントリーリスクを避けるため、多様な地域からのクルーズ船の誘致活動に取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア以外の地域からのクルーズなど多様なクルーズを誘致するとともに、船社への働きかけ等により、博多港発着クルーズの更なる振興を図る。</li> <li>FIT（訪日外国人個人旅行）の振興などによる寄港地観光ツアーの多様化・上質化に取り組む。</li> </ul>

クルーズ船の受入体制の整備	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、中央ふ頭西側岸壁を延伸し、H30.9に供用を開始。</li> <li>クルーズ船については、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2.2以降は寄港がなかったが、R4.11に国内クルーズを受入再開し、R5.3末には外航クルーズも受入再開した。 *クルーズ船寄港回数 R3:0回 → R4:2回 (うち外航クルーズ客船の寄港回数 R3:0回※ → R4:0回※) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、外航クルーズ客船の寄港がなかったため。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ市場の動向や他港の状況などを注視しながら、安全に受入れができる体制を確保する必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>外航クルーズ客船の受入れにあたっては、クルーズ市場の動向や他港の状況などを注視しながら、安全安心を第一に受入体制確保に取り組む。</li> </ul>

クルーズ客の受入体制の整備	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。 *樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R3:0台※ → R4:0台※ *外国航路船舶乗降人員数（不定期） R3:0人※ → R4:0人※ ※新型コロナウイルス感染症の影響により、外航クルーズ客船の寄港がなかったため。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ客のツアーが一部の商業施設や観光地に集中しているため、市内で交通混雑が発生する。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄港地観光手配予約システムの活用などによる訪問先・時間の分散化に取り組む。</li> <li>クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。</li> <li>クルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。</li> </ul>



**施策6-1 産学官連携による、知識創造型産業の振興**

**1 事業の進捗状況**

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●**知識創造型産業の振興**

**研究開発機能の集積及び科学技術実用化支援機能の活用**

★九大新町研究開発次世代拠点の形成（いとL a b +） 建物竣工（R5.3） 開業（R5.4）

- ・ふくおか産学共創コンソーシアムによるセミナー等への参加者数 R3n : 364人 → R4n : 323人
- ・福岡市産学連携交流センター等におけるよろず相談対応件 R3n : 159件 → R4n : 122件
- ・有機光エレクトロニクス実用化開発センターと企業との共同・受託研究数 R3n : 116件 → R4n : 145件
- ・福岡地域戦略推進協議会（FDC）の部会などによるプロジェクト創出支援

**エネルギー関連産業の振興**

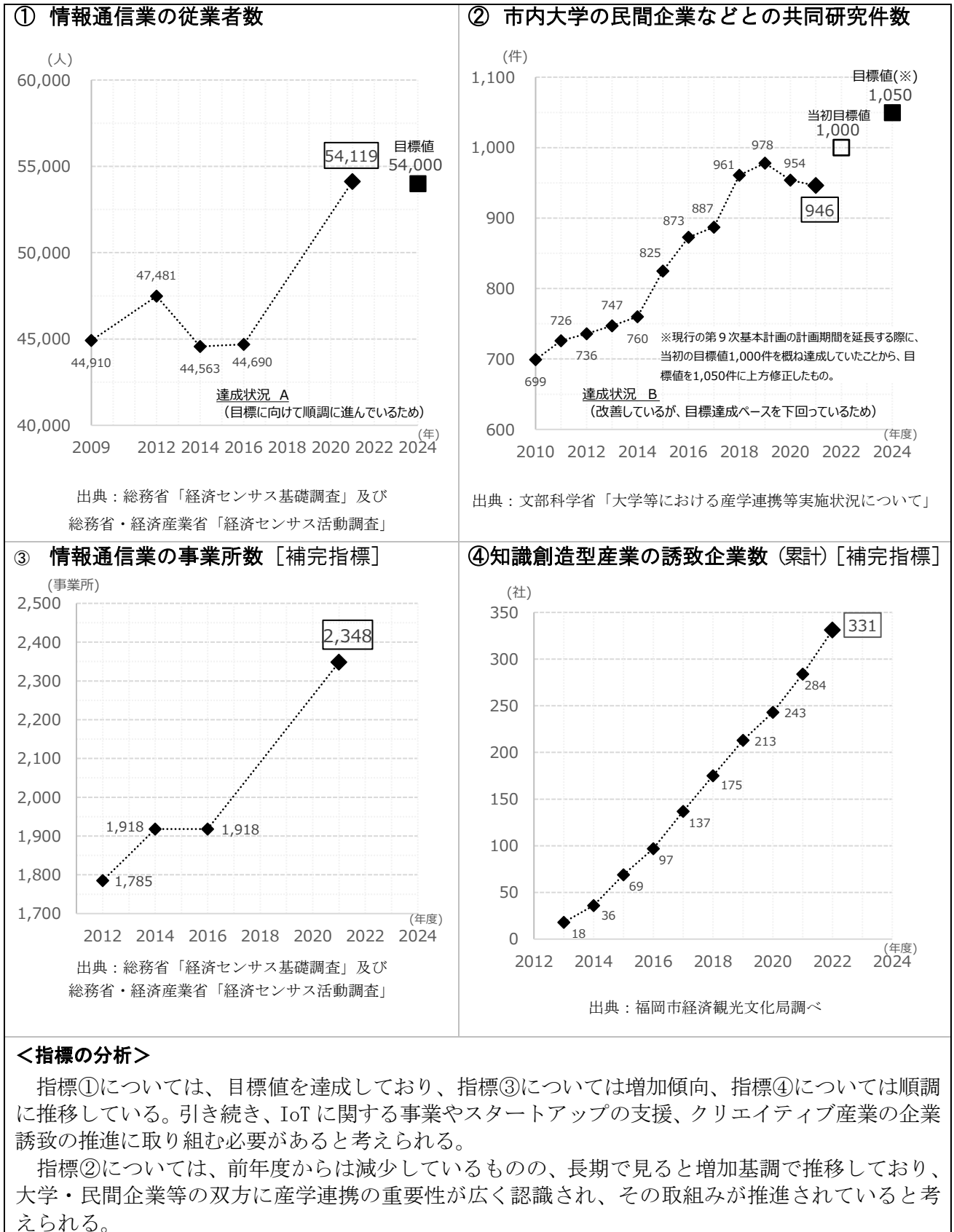
★水素利活用プロジェクト実施数 R3n : 4件 → R4n : 4件

**エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進**

★コミュニティ勉強会等参加者数 R3n : 3,492人 → R4n : 4,201人

- ・エンジニアカフェの運営、人材育成及びイベント等の実施
- ・エンジニア等を対象にA I等の研修及び実践訓練を実施

2 成果指標等



3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●知識創造型産業の振興

研究開発機能の集積及び科学技術実用化支援機能の活用	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(公財)九州先端科学技術研究所 (ISIT)、福岡市産学連携交流センター (FiaS) 及び有機光エレクトロニクス実用化開発センター (i<sup>3</sup>-OPERA) などを拠点に産学連携を推進した。また、九大新町では、九州大学と連携した研究開発次世代拠点 (いとL a b +) が竣工 (R5.3) し、R5.4 に開業した。</li> <li>    *ふくおか産学共創コンソーシアムによるセミナー等への参加者数         R3n : 364 人 → R4n : 323 人</li> <li>    *福岡市産学連携交流センター等におけるよろず相談対応件数         R3n : 159 件 → R4n : 122 件</li> <li>    *有機光エレクトロニクス実用化開発センターと企業との共同・受託研究数         R3n : 116 件 → R4n : 145 件</li> <li>・産学官民が一体となり設立された福岡地域戦略推進協議会 (F D C) において、国際競争力強化に資する成長戦略を推進 (国家戦略特区の活用や福岡都市圏の成長に資する事業の創出) するため、3 部会 (産業創造、デジタル、都市創造) 及び会員ネットワークを活用したプロジェクトの検討・事業化に取り組むとともに、福岡スタートアップ・コンソーシアム、国際金融機能誘致 TEAM FUKUOKA 等を支援した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九大新町を中心に、産学連携を推進する環境は形成されつつあり、引き続き、九州大学と連携した研究開発拠点の形成を図る必要がある。</li> <li>・3 部会及び会員ネットワーク等を活用した、成果を見据えたプロジェクトの組成及び実施。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九大新町の産学連携交流センター及び研究開発次世代拠点を中心として、研究開発型企业等の成長支援や、大学の研究シーズを活用した事業化の支援に取り組む。</li> <li>・特区の活用や地方創生に資するプロジェクトの重点的な実施及び会員企業の国際展開や域外企業の誘致に取り組むとともに、広域展開については、引き続き、既存の連携自治体との事業推進を行う。</li> </ul>

<b>エネルギー関連産業の振興</b>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市は水素社会の実現をめざし、再生可能エネルギーである「下水バイオガス」から水素を製造する、世界初の水素ステーション「福岡市グリーン水素ステーション」をH26nに建設し、その水素を活用するプロジェクトを産官学連携で実施した。 R4nは水素ステーションの運営及びコスト低減などの研究活動など、計4件のプロジェクトに取り組んだ。</li> <li>・プロジェクトでは、R4.7には大分で開催されたスーパー耐久レースで水素エンジン車に水素を供給したほか、移動式発電・給電システム「Moving e」の運用などを実施した。 *水素利活用プロジェクト実施数 R3n：4件 → R4n：4件</li> <li>・市民生活への水素エネルギーの実装や新たな需要創出に向けて、九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりにおいて、水素社会の実現に向けたモデルとなるよう、水素の供給や利活用について検討を進めている。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水素は二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーとしての期待が高く、水素をエネルギーとして利用する場合、製造から輸送、貯蔵、利用の各段階で、関連産業の振興が見込まれるものの、コスト高などの問題もあり、大学や企業と連携し技術開発や水素利用の促進を図る必要がある。</li> <li>・さらに、水素利用を広く普及させていくためには、水素の安全性・意義などについて、市民の理解を深めていくことが必要である。</li> <li>・九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりへの水素実装にあたっては、まちづくりの進捗等を踏まえながら取り組む必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水素ステーションの運営を行うとともに、コスト低減などの研究活動を実施し、都市におけるエネルギーの地産地消のモデルケースとなるよう検討を行う。</li> <li>・民間事業者と連携し、新たなFCモビリティの導入など、水素需要の創出に向けた活動を行い、水素社会の実現に向けた活動を行う。</li> <li>・市民への広報については、パンフレットやホームページ、イベントにおける燃料電池自動車の啓発活動などを通じて、福岡市の取組みや水素の安全性・意義をわかりやすく、効果的に情報発信を行っていく。</li> <li>・九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりにおいて、水素供給パイプラインの整備を進めるとともに、水素ステーションや燃料電池の設置等に向けて取り組む。</li> </ul>

エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジニアの交流拠点「エンジニアカフェ」では、コミュニティマネージャーを中心に、エンジニアからの相談対応やコミュニティ支援、イベント等の開催を実施した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*コミュニティ勉強会等参加者数 R3n : 3,492人 → R4n : 4,201人</li> <li>*相談件数 R3n : 415件 → R4n : 520件</li> <li>*来場者数 R3n : 10,958名 → R4n : 18,397名</li> </ul> </li> <li>・福岡のエンジニアを取り巻く環境の充実や、エンジニアコミュニティ文化の発展に貢献する取組み等を行う者を表彰する「エンジニアフレンドリーシティ福岡アワード」を実施した。</li> <li>・地場企業からメンター派遣などの協力を得て、地元の学生を対象に人材育成プログラムを実施した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*修了者数 R3n : 23人 → R4n : 26人</li> </ul> </li> <li>・学生やエンジニア等の技術力向上を促進させるとともに、学生やエンジニア、エンジニアコミュニティ間の交流の場を作ることで、時代のニーズに応じたプロダクトを生み出すクリエイティブな人材の発掘及び育成を図るため、開発コンテスト「Engineer Driven Day (エンジニアドリブンデイ)」を開催した。</li> </ul> <p><b>【地方創生推進交付金（横展開タイプ）】</b></p> <p>「エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進」深化・高度化事業</p> <p>エンジニアが集まる場の提供、ウェブサイトやSNSによるエンジニアの情報発信、イベント・セミナー等の開催に加え、ワーケーション施策と連携したエンジニアの移住促進、福岡未来創造プラットフォームと連携した学生の呼び込み等の取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*重要業績評価指標（KPI）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット創出件数 R4n 実績値：78件</li> <li>・IT人材を確保できている市内IT企業の割合 R4n 実績値：-（R7.1頃調査予定）</li> <li>・エンジニアビザを活用して入国した外国人エンジニア数 R4n 実績値：-（制度創設に向け国と協議中）</li> <li>・本事業に参画した県外エンジニアや学生の数 R4n 実績値：2,939人</li> </ul> </li> </ul> <p>Society5.0を支えるAIエンジニア支援</p> <p>AIエンジニアの育成を支援するため、エンジニア等を対象にAI等の研修、実践訓練及びイベント等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*重要業績評価指標（KPI）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業への参加後、AI関連業務に従事した人の割合 R3n 実績値：6.5% → R4n 実績値：R5.12頃調査予定</li> <li>・研修修了者数（人） R3n 実績値：128人 → R4n 実績値：82人</li> <li>・研修開催回数 R3n 実績値：19回 → R4n 実績値：28回</li> <li>・実践訓練における課題解決数 R3n 実績値：0件 → R4n 実績値：0件</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだコミュニティの活動を活性化する必要がある。</li> <li>・社会全体でデジタル化・DX化の推進が求められており、最新テクノロジー等を活用した、新サービス・製品を開発するためには、適切なサービス設計が重要となっている。</li> <li>・スタートアップや中小企業においては、新卒を育成する余力がなく、即戦力となる中途採用が中心となっており、人材の確保ができていない。一方、理工系学生の約6割が県外に流出している。</li> </ul>

<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「エンジニアカフェ」を中心に、新たなコミュニティの組成やコミュニティ間の交流等を促し、ネットワークづくりやコミュニケーションをより活性化させ、エンジニアが学び成長し、活躍できる機会を増やすなど、エンジニアを取り巻く環境の充実を図る。</li> <li>・先端技術やビジネス等の知見に長けたスタッフを「エンジニアカフェ」に配置し、サービス設計等を支援するとともに、新サービス・製品の開発に資する人材の育成・集積に取り組む。</li> <li>・これまで実施してきた、福岡市 AI エンジニア支援事業の成果を活用し、受講者のコミュニティを中心に、AI の技術情報や、事例の共有など技術向上に資する支援を行う。</li> </ul>
-----------	---

## 施策6-2 成長分野の企業や本社機能の立地の促進

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●企業や本社機能の立地促進

##### 立地交付金の活用などによる国内外企業の誘致促進

★企業訪問・面談回数 R3n : 943 回 → R4n : 1,556 回

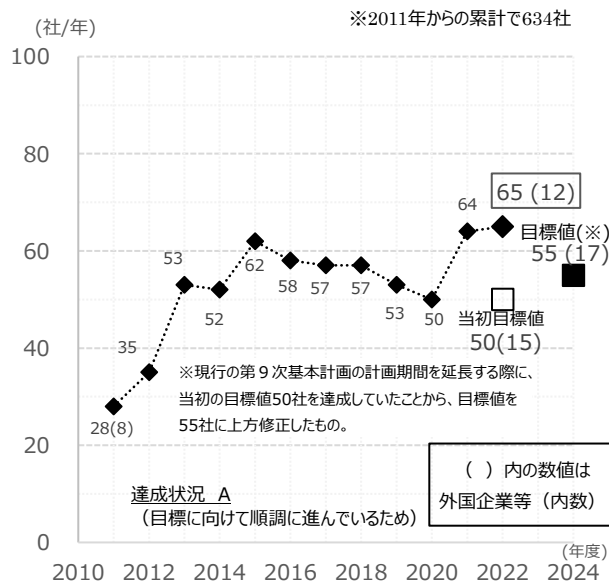
★クリエイティブ企業への企業訪問・面談回数（企業訪問・面談回数の内数）

R3n : 378 回 → R4n : 773 回

★外資系金融機関等への訪問・面談回数 R3n : 172 回 → R4n : 94 回

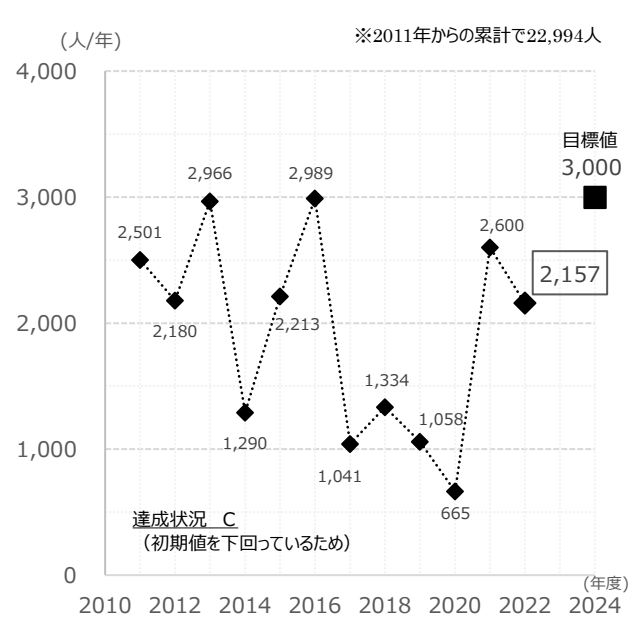
### 2 成果指標等の状況

#### ① 成長分野・本社機能の進出企業数



出典：福岡市経済観光文化局調べ

#### ② 進出した企業による雇用者数



出典：福岡市経済観光文化局調べ

#### <指標の分析>

指標①は、立地交付金や地方拠点強化税制の活用、国内外におけるPR活動などの取組みにより、10年連続で50社以上の進出企業数に到達しており、目標値を年55社に見直す。

また、指標②については、中小規模での立地が中心となったため未達であるが、進出後の正規社員の雇用増加が見込まれる知識創造型産業分野の企業立地が順調に推移している。

### 3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●企業や本社機能の立地促進

立地交付金の活用などによる国内外企業の誘致促進	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡充した立地交付金や地方拠点強化税制の活用、情報発信や進出サポートなどを通して、国内外企業に対する誘致活動を行った。</li> <li>・10年連続で成長分野・本社機能の進出企業数50社以上を達成。</li> <li>・東京一極集中におけるリスク分散やテレワークの進展で、地方都市への拠点開発を検討する企業も増えている。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>*企業訪問・面談回数 R3n: 943回 → R4n: 1,556回</li> <li>*クリエイティブ企業への企業訪問・面談回数（企業訪問・面談回数の内数） R3n: 378回 → R4n: 773回</li> </ul> </li> <li>・国際金融機能の誘致を目指す産学官の推進組織「TEAM FUKUOKA」で、シンガポールのフィンテック企業や台湾の商業銀行など、国内外16社を誘致。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>*外資系金融機関等への訪問・面談回数 R3n: 172回 → R4n: 94回</li> </ul> </li> </ul> <p>【地方創生推進交付金（横展開タイプ）】</p> <p>国際金融都市としての地位向上による地域活力促進事業                  企業の拠点設立相談、成長支援、海外向けプロモーション等を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*重要業績評価指標（KPI）                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済波及効果 R4n: 2,896百万円</li> <li>・雇用者数 R4n: 28人</li> <li>・プロモーション参加企業数 R4n: 17社</li> <li>・ワンストップサポート窓口相談件数 R4n: 94件</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社機能や外国・外資系企業、国際金融機能、ITをはじめとした成長分野など、本市が集積を図る分野・機能については、他都市の多くも同様の考えを持っており、企業立地のための都市間競争、国際間競争が激化している。</li> <li>・進出企業数は順調に推移しているが、雇用創出効果の高い本社機能や大規模開発拠点の誘致が課題。</li> <li>・福岡市が集積を図ることとしている分野・機能においては、市場規模の伸長などにより、エンジニアをはじめとした人材不足が喫緊の課題。</li> <li>・東京一極集中におけるリスク分散やテレワークの進展で、地方都市への拠点開発を検討する企業が増加するなど、『オフィスの在り方』や『働き方』への考え方が多様化している。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡充した交付金制度や地方拠点強化税制等の活用、国内外でのトップセールスによる情報発信や、福岡市へ進出可能性のある企業への訪問、国内外の経済団体等との連携強化により、本社機能や国際金融機能などの外国・外資系企業、IT・デジタルコンテンツなどのクリエイティブ産業をはじめ成長性が高い分野の企業誘致を推進する。特に雇用創出効果の高い企業の「本社機能」と、重点分野と定めるクリエイティブ産業の「大規模開発拠点」を重点的に誘致し、高付加価値のビジネスや雇用創出につなげる。</li> <li>・関係機関等と連携し、天神ビッグバンや博多コネクティッドによりアップデートされる街の魅力等を伝える首都圏でのプロモーションを行うなど誘致活動の強化を図る。</li> <li>・『オフィスの在り方』や『働き方』への価値観が急速に変化するなか、多様化するオフィスニーズに合わせた柔軟な誘致活動を強化し、魅力ある企業の誘致を行うとともに、クリエイティブ人材の定着を図る。</li> </ul>



## 施策6-3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●中小企業の振興

##### 中小企業振興施策の総合的かつ計画的な推進

- ・「福岡市中小企業振興条例」及び「第2次 みんなで応援！中小企業元気都市プラン」に基づく中小企業の振興

##### 融資制度等による中小企業の経営支援

- ・中小企業の資金需要に対応した十分な融資枠を確保するなど、商工金融資金制度の充実・強化を実施

##### 商談会や新商品のPR支援などによる中小企業の販路拡大

- ・福岡市トライアル優良商品の認定数 R3n : 2 製品、8 役務 → R4n : 5 製品、3 役務

##### 中小企業の人材確保支援 <一部再掲6-5>

- ・就労相談窓口事業を活用した就職者数 R3n : 358 人 → R4n : 400 人
- ・ミドル世代の就職決定件数 R3n : 97 人 → R4n : 146 人
- ・オンライン合同会社説明会への出展企業数 R3n : 192 社 → R4n : 111 社  
参加者数 R3n : 5,001 人 → R4n : 1,818 人
- ・外国人材受入れ支援事業におけるセミナー参加者数 R3n : 157 人 → R4n : 83 人
- ・人材確保相談事業における相談件数 R3n : 53 件 → R4n : 61 件
- ・生産性向上のための人材育成事業における経営セミナー参加者数 R4n : 343 人  
IT 導入スキル養成講座受講者数 R4n : 30 人

##### 中小企業の生産性向上の促進

- ★企業間取引をデジタル化している企業割合 R3n : 67% → R4n : 83%
- ・オンラインを活用した事業再構築の伴走型支援社数 R4n : 20 社
- ・中小企業等のDXモデルケースの採択件数 R3n : 11 件 → R4n : 5 件
- ・中小企業等経営強化法に基づく先端設備等導入計画 (H30年7月受付開始)  
認定件数 R3n : 38 件 → R4n : 28 件、設備投資額 R3n : 約 33 億円 → R4n : 約 48 億円

#### ●商店街の活性化

##### 新たな取組みにチャレンジする商店街への支援

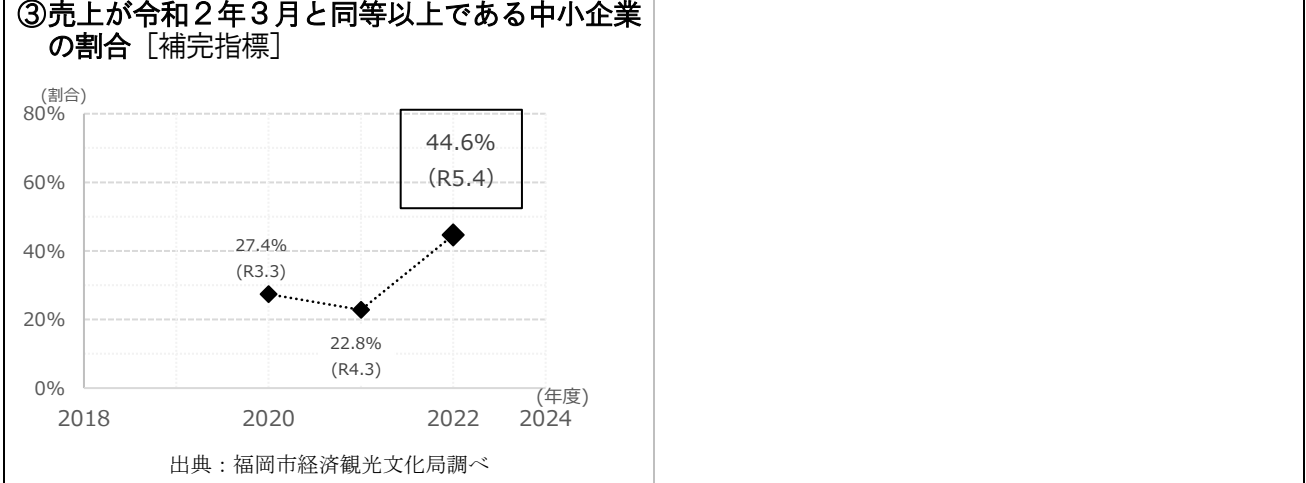
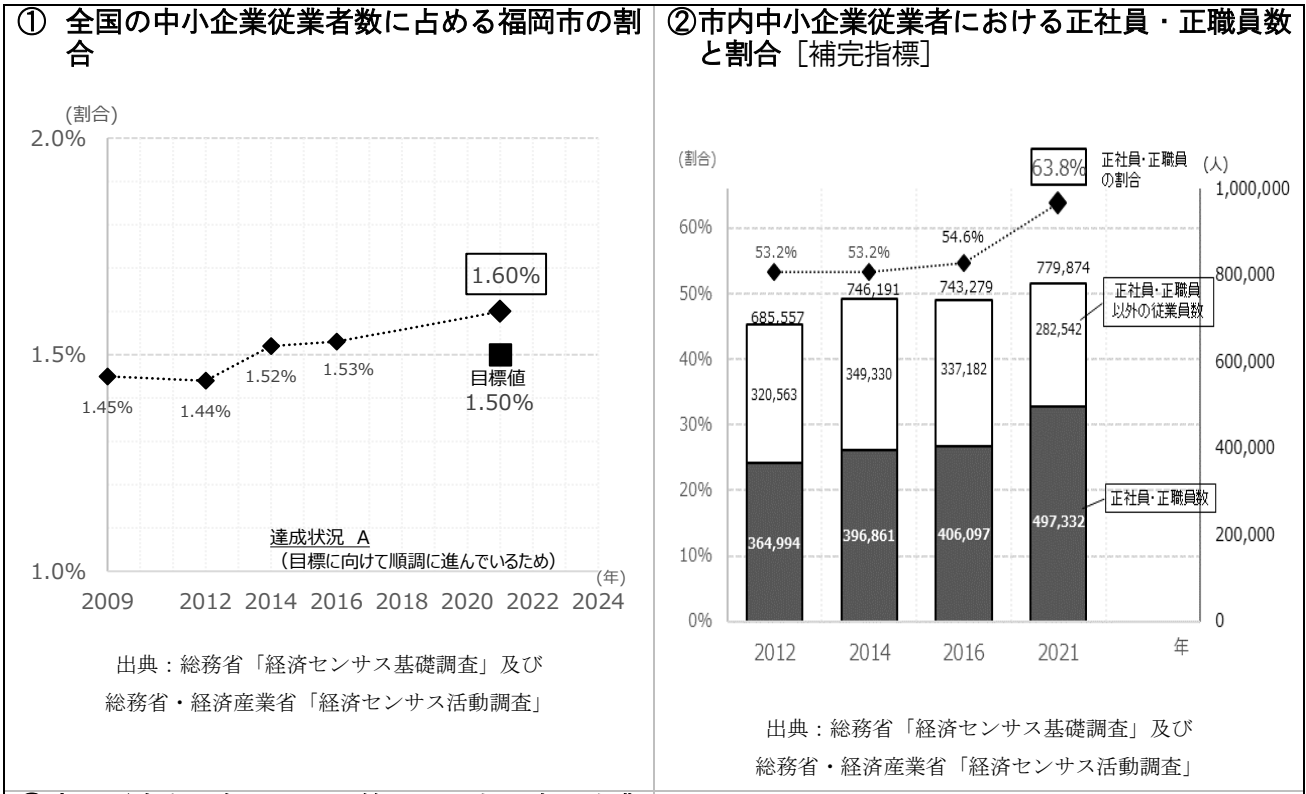
- ★商店街社会課題解決型補助金活用商店街数 R3n : 0 商店街 → R4n : 3 商店街
- ★商店街チャレンジ応援事業実施商店街数 R3n : 2 商店街 → R4n : 2 商店街

#### ●伝統産業の振興

##### 伝統産業の振興

- ★はかた伝統工芸館年間来館者数 R3n : 46,194 人 → R4n : 76,416 人
- ★博多織技能開発養成学校卒業生のうち伝統工芸士に認定された人数 R3n : 7 人 → R4n : 11 人

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①は、目標値を上回っており、指標②は増加傾向にある。これは本市の融資制度等による経営支援、人材確保支援、創業支援などにより、中小企業が事業を行いやすい環境となっているためと考えられる。指標③は、社会経済活動の正常化が進みつつあることに伴い、回復傾向にあるものの、原油価格・物価高騰の影響などが続いており、今後も注視が必要である。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

<p>◎：順調</p>	<p>[参考]前年度 ◎：順調</p>
-------------	-------------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●中小企業の振興

中小企業振興施策の総合的かつ計画的な推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福岡市中小企業振興条例」の基本計画「第2次 みんなで応援！中小企業元気都市プラン」に基づき、事業の推進と進行管理を行った。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料や原材料価格の高騰による影響を受けた市内中小企業の事業継続と雇用維持を支援し、ポストコロナ時代における経営環境の変化に対応できるよう着実に支援するためには、関係機関との連携が不可欠である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携を図るとともに、福岡市中小企業・小規模事業者振興推進本部において全庁的な推進体制のもと、「第2次 みんなで応援！中小企業元気都市プラン」で新たに定めた「プラン強化項目」に基づき事業を推進していく。</li> <li>中小企業振興施策の推進については、PDCA サイクルの適切な運用により改善を常に図りながら、市内中小企業が当面の危機を乗り越え、中長期的に継続・発展していけるよう、中小企業振興条例の理念を確実に実現していく。</li> </ul>

融資制度等による中小企業の経営支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>商工金融資金制度において、中小企業の資金需要に対応できる十分な融資枠を確保するとともに、原油高・原材料高騰の影響を受けた事業者が利用できる経営安定化特別資金（原材料高騰対応枠）や、新型コロナウイルス感染症関連融資等からの借換え及び新たな資金需要への対応として経営改善借換資金を創設するなどの金融支援を実施。</li> <li>福岡市中小企業サポートセンターに経営、金融、受発注、返済に関する相談窓口を設置。また、R4.6から、福岡商工会議所と共同で開設している経営相談窓口の体制や専門家派遣制度を拡充し、原油高・原材料高騰の影響を受けた事業者に対して、国の補助金活用のための計画作りや経営改善に向けた取組みを支援した。 *受付相談件数 R3n：7,234件 → R4n：9,042件（R4.6拡充分を含む）</li> <li>経営支援施策普及事業における企業訪問（R2n以降は郵送）の実施。 *訪問件数 R3n：8,625件 → R4n：8,880件</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業は、大企業と比較すると金融機関からの融資など新たな資金調達が困難である場合が多い。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済状況に応じて変化する中小企業の資金繰りをめぐる環境を速やかに把握し、中小企業の資金需要に的確に対応するため、十分な融資枠の確保とさらなる制度の充実・強化を推進する。</li> </ul>

商談会や新商品のPR支援などによる中小企業の販路拡大	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場中小企業の優れた新商品を認定し、WEB や SNS を活用したプロモーション、展示会への出展支援等により認定商品のPRを行った。 *福岡市トライアル優良商品の認定数 R3n：2製品、8役務 → R4n：5製品、3役務</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業は、資金や人材などの経営資源に制約があるため、販売力が弱く、信用度の低さや受注実績不足により販路開拓が進んでいない。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場中小企業の優れた新商品を市が認定し、広報などのPRを通じて販路拡大を支援する。</li> </ul>

中小企業の人材確保支援 <一部再掲 6-5>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方のニーズに合った就職を実現するため、各区の就労相談窓口で就職活動へのアドバイスや求人情報の紹介を行うなど、求職者一人ひとりに寄り添った就職支援を実施。 *就労相談窓口事業を活用した就職者数 R3n: 358人 → R4n: 400人</li> <li>・ミドル世代の求職者専用の相談窓口を設け、きめ細かな就職支援を実施。 *ミドル世代の就職決定件数 R3n: 97人 → R4n: 146人</li> <li>・経済団体や福岡都市圏の大学と連携し、オンライン合同会社説明会を実施し、市内企業と求職者のマッチング機会を創出した。 *オンライン合同会社説明会への出展企業数 R3n: 192社 → R4n: 111社 参加者数 R3n: 5,001人 → R4n: 1,818人</li> <li>・外国人材受入れを検討している企業向けに、外国人材の採用に関する情報やノウハウを提供するセミナーを実施するとともに、外国人材の採用に関するチェックリストを作成、ホームページに掲示し、周知・啓発を行った。 *外国人材受入れ支援事業におけるセミナー参加者数 R3n: 157人 → R4n: 83人</li> <li>・福岡商工会議所と連携して、専門家による窓口相談などによる支援を行った。 *人材確保相談事業における相談件数 R3n: 53件 → R4n: 61件</li> <li>・生産性向上のためのデジタル化を支援するため、地場中小企業の経営層を対象とした経営セミナー、社員を対象とした IT 導入スキル養成講座を開催した。 *経営セミナーへの参加者数 R4n: 343人 *IT 導入スキル養成講座受講者数 R4n: 30人</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ下においても企業の採用意欲は大きく減退しておらず、地場中小企業においては引き続き、人材確保が経営課題となっている。</li> <li>・全国的に生産年齢人口が減少する中、人材を確保するだけでなく、デジタル化を通して職場の生産性を向上することが必要となっている。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場中小企業に対して、採用力向上を図るセミナーや求職者とのマッチング機会の提供などにより、人材確保を支援する。</li> <li>・市が実施する人材確保支援施策について、国や県、商工会議所等の関係機関と連携し、より一層の広報を行う。</li> <li>・地場中小企業に対して、デジタル化の必要性を訴求するセミナーや IT 導入スキル養成講座の開催などにより、社内でデジタル化を推進できる人材の育成を支援する。</li> </ul>

<b>中小企業の生産性向上の促進</b>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内中小企業の労働生産性を向上させるため、中小企業に対して IT コーディネータ等の専門家を派遣し、受発注業務を始めとした企業間取引のデジタル化を支援するほか、企業間取引のデジタル化をテーマとしたセミナーを開催した。 *企業間取引をデジタル化している企業割合 R3n : 67% → R4n : 83%</li> <li>・新型コロナウイルス感染症等の影響による行動制限に影響されない、オンラインを活用した営業活動の再構築について、専門家による伴走型支援を実施した。 *支援企業数 R4n : 20 社</li> <li>・市内の中小企業等が DX 推進企業 (※) の技術・サービスを活用する DX の取組みを公募し、必要な経費の一部を補助するとともに、採択事業を DX モデルケースとして情報発信し、広く市内中小企業の DX 促進を図った。 ※DX 推進企業：中小企業等の DX を推進する技術やサービスを持つ企業 *中小企業等の DX モデルケースの採択件数 R3n : 11 件 → R4n : 5 件</li> <li>・中小企業等経営強化法の制度を積極的に活用し、先端設備等導入計画の認定を行い、中小企業の設備投資を後押しした。 *認定件数 R3n : 38 件 → R4n : 28 件 *設備投資額 R3n : 約 33 億円 → R4n : 約 48 億円</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT 導入等の遅れや設備の老朽化が見られ、大企業と比べて労働生産性が低い。</li> <li>・脱炭素化の取組みを行っている企業は 6.8% となっており、カーボンニュートラルに向けて普及啓発などが必要。</li> <li>・スキル・ノウハウの不足や人材不足によって、生産性向上につながる業務の見直しに着手ができていない企業が多い。</li> <li>・DX の進め方や DX サービスの内容、得られる効果が分かりづらいことに加え、設備投資への不安が、DX 推進の足かせとなっている。</li> <li>・原材料費等の高騰に伴う影響等により投資意欲が減退しており、認定件数の低調が続いている。今後、さらに制度を活用してもらうため、より多くの事業者知ってもらう必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化の必要性や成功事例等をテーマとしたセミナーを開催するほか、中小企業に対して IT コーディネータ等の専門家を派遣し、IT ツールの導入及び活用について支援していくことで、労働生産性を向上させる。</li> <li>・脱炭素経営のメリット等をテーマとしたセミナーを開催するほか、脱炭素経営の実現に向けた伴走型支援を行う。</li> <li>・採択したモデルケースの取組みについて広く情報発信することで、DX を後押しする。</li> <li>・先端設備の導入について、関係機関と連携しより一層の広報を行う。</li> </ul>

●商店街の活性化

新たな取組みにチャレンジする商店街への支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化や生活の安全・安心など社会的課題の解決に向けた取組みを行う商店街を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 商店街社会課題解決型補助金活用商店街数 R3n : 0 商店街 → R4n : 3 商店街</li> </ul> </li> <li>・ 商店街を担う人材を育成するための場を設定するとともに、課題解決にチャレンジする商店街に対してアドバイザーを派遣した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 商店街チャレンジ応援事業実施商店街数 R3n : 2 商店街 → R4n : 2 商店街</li> </ul> </li> <li>・ 身近な地域や市民を対象とした経済活動を促進し、域内の消費回復に取り組むために、商店街のプレミアム付商品券発行を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 発行団体数 (利用可能商店街数) R3n : 45 団体 (72 商店街) → R4n : 48 団体 (72 商店街)</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R3n の商店街実態調査において、「商店街役員の担い手が不足している」や「次世代を担う若手がない」など、人材不足を課題として挙げた商店街が依然として多く、新たな取組みを開始し継続していくため、更なる人材の育成・確保に取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部の専門家等を活用し、商店街が新たな取組みを実施する際の人的負担を軽減する支援及び新たな取組みの自走化に向けた支援を実施する。</li> <li>・ 他商店街の取組みの紹介や商店街同士の関係づくりの支援を行うなど、商店街の特色や課題に応じた新たな支援策を検討する。</li> </ul>

●伝統産業の振興

伝統産業の振興	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はかた伝統工芸館が博多部から博物館へ移転したことを機に、工芸館内での体験事業や博物館との連携事業などに新たに取り組み、魅力的なイベントを実施するとともに、博多部をはじめとする市内各地で市民が工芸品に親しめる場の創出に取り組み、工芸品の認知度の向上、販路拡大を図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* はかた伝統工芸館年間来館者数 R3n : 46,194 人 → R4n : 76,416 人</li> </ul> </li> <li>・ 博多織 DC (博多織デベロップメントカレッジ) については、H18n から R4n まで、15 期 84 名 (H27n に入学生の募集を行っていないため、H28n 卒業生は存在しない) が卒業し、卒業生から博多織伝統工芸士も誕生している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 博多織 DC 卒業生のうち伝統工芸士に認定された人数 R3n : 7 人 → R4n : 11 人</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活様式の変化による需要の低迷や、多くの企業規模が零細であることなどにより、伝統産業は厳しい状況にある。</li> <li>・ 後継者の確保が課題である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はかた伝統工芸館や首都圏における本市ゆかりの伝統工芸品の PR、地域のイベント・MICE 等での体験事業や、異分野・異業種等の技術を取り入れた新しい製品・サービスの開発を実施し、認知度の向上、販路の拡大を図る。</li> <li>・ 博多織 DC を支援し、後継者の確保を図り新しい人材を取り込むことで、業界の活性化を目指す。</li> </ul>



目標6 経済活動が活発で、たくさんの働く場が生まれている

## 施策6-4 農林水産業とその関連ビジネスの振興

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●経営の充実強化、新たな担い手づくり

##### 多様な担い手の育成・支援

- ・新規就業者（農業） R3n：19名 → R4n：17名
- ★農業研修受講者数（福祉事業所職員除く） R3n：9名 → R4n：15名
- ★農業指導を実施した施設職員等の数（累計） R3n：7名 → R4n：10名
- ★新たに農福連携に取り組んだ事業所数（累計） R3n：3件 → R4n：5件

##### 貸し手と借り手のマッチングによる耕作放棄地の再生・活用促進

- ・利活用可能な耕作放棄地等ホームページ掲載面積（延べ面積）（累計）  
R3n：約5.2ha → R4n：約8.6ha

##### 6次化商品の開発やPR・販路拡大による農産物のブランド化

- ★加工品開発等に取り組む事業者等の数 R3n：1事業者 → R4n：2事業者

##### ブランド水産物の開発・研究や国内外へのプロモーションによるブランド力強化

- ・海外のシェフ等との商談回数 R3n：実施なし → R4n：6回
- ★漁家1戸あたりの漁労所得 R1n：1,596千円（推計） → R2n：1,064千円（推計）

##### ふくおかさん家のうまかもんを利用する事業者の認定とPRによる地産地消の推進

- ・ふくおかさん家のうまかもん事業者認定件数 R3n：844件 → R4n：785件

##### アグリDXプロジェクト

- ★新たにAI・IoT等のデジタル化を取り入れる生産品目数（累計）  
R3n：2品目 → R4n：2品目

#### ●生産基盤の整備・維持

##### 鳥獣害被害防止策や機器導入支援などを通じた生産安定性確保

- ・ワイヤーメッシュ柵設置距離 R3n：約7.7km → R4n：約7.6km

##### 木材生産の低コスト化による林業資源のビジネス化を推進

- ・効率的な森林作業道の整備による利用間伐 R3n：約10.3ha → R4n：約12.1ha

##### 漁場環境の改善等による水産資源再生産機能の回復・維持

- ・海底ごみ回収量 R3n：120m<sup>3</sup> → R4n：96m<sup>3</sup>

##### 防災重点農業用ため池対策の推進

- ・対策済のため池（廃止工事や転用等を含む）（累計） R3n：14箇所 → R4n：21箇所

#### ●市場機能の強化

##### 【ベジフルスタジアム】青果物の「安全・安心」を市場ブランドとして確立

- ・ベジフル感謝祭開催回数 R3n：実施なし → R4n：7回

##### 市場開放事業による鮮魚市場の活性化

- ・市民感謝デー開催回数 R3n：実施なし → R4n：4回

**鮮魚市場の機能更新・向上**

- ★市場施設の機能更新に向けた設計・工事及び市場関係者・国・県との協議調整
- ・活性化ゾーンの整備に向けた検討等

●市民との交流事業

**油山市民の森等リニューアル**

- ★事業者と基本・実施協定の締結、設計・施工一括契約の締結、指定管理者の指定

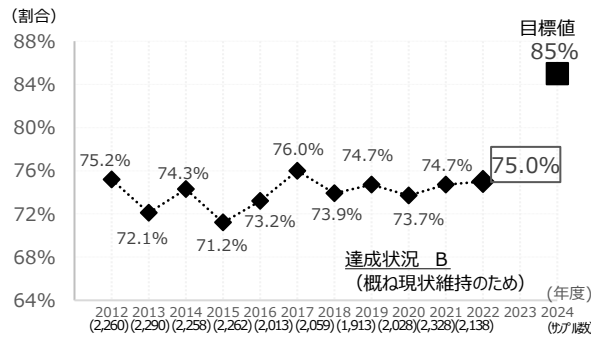
**市民と農業とのふれあいの場づくりのための市民農園整備の推進**

- ・市民農園数 R3n : 24 箇所 → R4n : 25 箇所



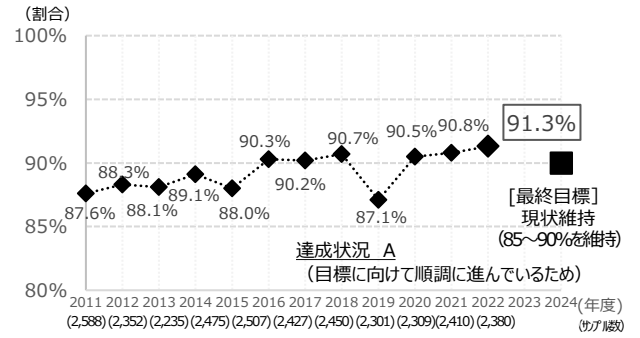
## 2 成果指標等

### ① 福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思う市民の割合



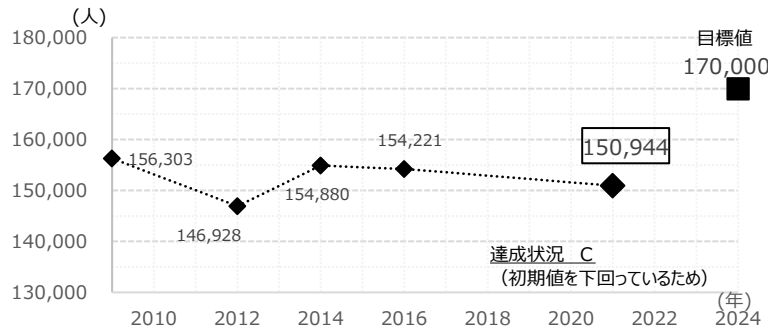
出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

### ② 新鮮でおいしい食べ物の豊富さへの満足度



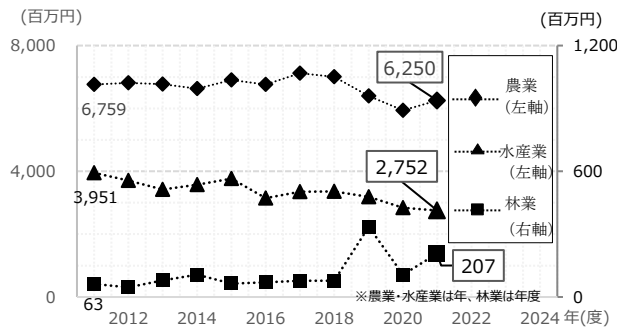
出典：福岡市市長室「市政に関する意識調査」

### ③ 食関連産業の従業者数



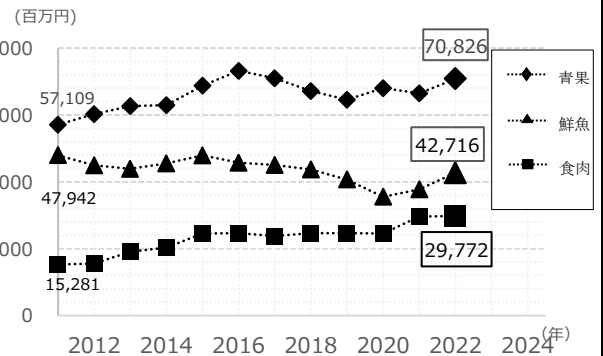
出典：総務省「経済センサス基礎調査」及び総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

### ④ 農林水産業の生産額 [補完指標]



出典：福岡市農林水産局調べ

### ⑤ 中央卸売市場の取扱金額 [補完指標]



出典：福岡市農林水産局調べ

#### <指標の分析>

指標①は前年度から上昇し、概ね現状維持、指標②は福岡市による農林水産業の振興や市内産農水産物に関するPRなどにより、高い水準を維持している。

指標③は年度により増減があり、初期値を下回っている。

指標④、⑤は年(度)によって変動があり、これは病虫害や天候等による被害や新型コロナウイルス感染症の影響による市況の変動などによるものと考えられる。

## 3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度
	○：概ね順調

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●経営の充実強化、新たな担い手づくり

多様な担い手の育成・支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規就業者のための研修、機具導入補助、就業相談実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 農業研修受講者数（福祉事業所職員除く） R3n：9名 → R4n：15名</li> <li>* 農業機械・施設導入補助 R3n：5件 → R4n：8件</li> <li>* 就農相談 R3n：42件 → R4n：105件</li> <li>* 新規就業者（農業） R3n：19名 → R4n：17件</li> </ul> </li> <li>農地の適正管理、農業生産の拡大及び障がい者の活躍の場を創出するため、障がい者施設と連携し、障がい者等の農業分野での就労を支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 農業指導を実施した施設職員等の数（累計） R3n：7名 → R4n：10名</li> <li>* 新たに農福連携に取り組んだ事業所数（累計） R3n：3件 → R4n：5件</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「労働環境が厳しい」「生産が天候等自然条件によって左右される」など、就業に踏みにくいイメージがある。</li> <li>就業する際の設備や機具等の初期費用の負担が大きい。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に安全・安心な食を提供する農林水産業の魅力が多様な人材に向けて情報発信することや、技術習得のための研修の場の提供に努めるとともに、新規就業時に係る負担軽減を図るなど、就業しやすい環境づくりを推進。</li> </ul>

貸し手と借り手のマッチングによる耕作放棄地の再生・活用促進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>利活用可能な耕作放棄地等の情報を H30.3 から市ホームページ等で提供開始し、8件、1.2ha のマッチングが成立（R5.3 末現在）。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 利活用可能な耕作放棄地等ホームページ掲載面積（延べ面積）（累計） R3n：約 5.2ha → R4n：約 8.6ha</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業者の高齢化や担い手不足により耕作されない農地が増えている状況にある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業委員会と連携し、ホームページに掲載した耕作放棄地の貸し手と借り手のマッチングの促進を図るとともに、耕作状況に変動がある農地については、所有者への働きかけを行うなどを行うなど、耕作放棄地の発生防止に努めていく。</li> </ul>

6次化商品の開発やPR・販路拡大による農産物のブランド化	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>6次産業化に取り組む事業者の支援、開発商品のPR、農産物のブランド化及び農山村地域の特産品を活用した加工品開発への支援。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 加工品開発等に取り組む事業者等の数 R3n：1事業者 → R4n：2事業者</li> </ul> </li> <li>開発支援を行った商品                             <ul style="list-style-type: none"> <li>能古島加工品詰合せ、ピーナッツ加工品</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発した商品の販売ルートが少なく、認知度が低いため、ブランドとしての確立や販路拡大のためにさらなる工夫が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発した商品への支援継続と効果的な開発商品のPR、販路開拓への支援。</li> </ul>

**ブランド水産物の開発・研究や国内外へのプロモーションによるブランド力強化**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内産水産物の国内外へのPRや販路拡大のため、「唐泊恵比須かき」を中心に海外プロモーション活動及び、海外一流シェフやバイヤーの招聘活動を実施。 *海外のシェフ等との商談回数 R3n：実施なし → R4n：6回</li> <li>・R4.3に新たな輸出先として、シンガポールへ唐泊恵比須かきを初めて出荷し、スーパーや高級レストランでの提供が開始された。</li> <li>・H27.7より二枚貝完全養殖チャレンジ事業（砂ゼロアサリの開発）をスタートし、H30nにアサリの完全養殖サイクルを確立。現在、アサリ養殖の事業化に向けた調査・研究を実施。</li> <li>・漁労所得 R1n：1,596千円（推計） → R2n：1,064千円（推計）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・唐泊恵比須かき、弘のサザエ、アサリ等の市内産水産物は香港の高級レストランへの出荷が進みつつあるものの、国内やその他の海外市場においては、知名度が高いとはいえない。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンガポールや国内向けのブランド強化・販路拡大を推進する。</li> <li>・アサリの完全養殖技術、洋上養殖技術などを活用した養殖試験を実施。</li> </ul>

**ふくおかさん家のうまかもんを利用する事業者の認定とPRによる地産地消の推進**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくおかさん家のうまかもん条例に基づき、市内産農林水産物及びその加工食品（＝ふくおかさん家のうまかもん）を販売・提供する事業者の認定及びそのPRを実施。 *ふくおかさん家のうまかもん事業者認定件数 R3n：844件 → R4n：785件</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の認知度の向上のため、ふくおかさん家のうまかもん認定事業者と連携した市内産農林水産物の消費拡大に向けた取組みが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくおかさん家のうまかもんを販売・提供する認定事業者の効果的なPRについての取組みを実施。</li> </ul>

**アグリDXプロジェクト**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者・大学・県・研究機関等の参画のもと、生産現場でのスマート農業実装に伴う効果を定量的に検証し、活用におけるメリット等のPRを実施。 *新たにAI・IoT等のデジタル化を取り入れる生産品目数（累計） R3n：2品目 → R4n：2品目</li> <li>・消費者ニーズを捉えた取引スタイルの活用を促し、所得向上へつなげていくことを目的に、農家のEC活用を支援する取組みを実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果・メリットの不明瞭さなどから、生産者が活用を躊躇する傾向が依然としてあり、現場普及が進んでいない状況にある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して、生産現場の課題把握に努め、新たなスマート農業技術の実証及び現場実装に向けた支援を実施する。</li> </ul>

●生産基盤の整備・維持

鳥獣害被害防止策や機器導入支援などを通じた生産安定性確保	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の鳥獣被害防止総合支援事業を活用し、侵入防止柵の整備や箱わな等を導入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*ワイヤーメッシュ柵設置距離 R3n：約7.7 km → R4n：約7.6 km</li> <li>*電気柵 R3n：64台 → R4n：46台、箱わな R3n：18基 → R4n：2基</li> </ul> </li> <li>農業経営の収益性向上と、農産物の市民への安定供給を目的に、ハウス建設や省エネ機器の導入を推進。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*ハウス建設等の受益戸数 R3n：39戸 → R4n：40戸</li> </ul> </li> <li>生産性向上を図るため生産現場でのAI・IoT等を活用したスマート農業の導入推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>*スマート農業の導入数（R2以降累計） R3n：14件 → R4n：14件</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市、JA等関係機関が主導し、侵入防止柵等の整備などのハード事業を中心として事業を実施しているが、効果的な運用のためにも、地域での取組を支援していく必要がある。</li> <li>燃料等の経済状況や大雨、災害等の気候変動に大きな影響を受ける。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な侵入防止柵設置にかかる講習会や地域ぐるみの環境整備の推進などを行う。また、引き続き鳥獣被害防止総合支援事業及び緊急捕獲活動支援事業の事業継続を国へ要望する。</li> <li>燃料価格や気候の変動の影響を抑制するような省エネ型機械などの施設整備等を進める。</li> </ul>

木材生産の低コスト化による林業資源のビジネス化を推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林支援システムを活用し、効率的な森林作業道の整備による利用間伐を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*利用間伐 R3n：約10.3ha → R4n：約12.1ha</li> <li>森林作業道整備 R3n：約3,000m → R4n：約3,030m</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材生産のコスト低減に取り組むため、効率的な作業道の整備を行い、森林資源のビジネス化に繋げる必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空レーザ計測により構築した森林支援システムとともに、R2n末に完成した森林基幹道早良線を有効活用し、効率的な森林作業道の整備による、木材生産の更なる低コスト化を図ることにより、林業のビジネス化を推進する。</li> </ul>

漁場環境の改善等による水産資源再生産機能の回復・維持	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁業者を中心とした団体による藻場・干潟の保全活動の支援や漁業者が回収した海底ごみの処分、種苗放流などにより水産資源再生産機能の回復・維持を推進。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*海底ごみ回収量 R3n：120m<sup>3</sup> → R4n：96m<sup>3</sup></li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>博多湾の漁場環境改善は、気象などの自然環境の影響を受けやすく、効果が表れるまでに時間を要することから、継続的に取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>種苗放流などによる「つくり育てる漁業」を推進するとともに、海底ごみの回収、海底耕うんなどの漁場環境の保全に取り組んでいく。</li> </ul>

防災重点農業用ため池対策の推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災重点農業用ため池の基礎調査や、用途が廃止されたため池の廃止工事を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*対策済のため池（廃止工事や転用等を含む）（累計） R3n：14箇所 → R4n：21箇所</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、頻発化する豪雨等に対する安全性向上のため、防災対策を進めていく必要があるが、県内の他自治体と比べて対象ため池数が多く、すべての対策を完了するまでには期間を要する。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎調査の結果を踏まえ、ため池の対策工事の計画的な実施と並行して、緊急時の避難行動につなげるハザードマップの作成を進めていく。</li> </ul>

●市場機能の強化

【ベジフルスタジアム】青果物の「安全・安心」を市場ブランドとして確立	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベジフルスタジアムにおいて、市民開放型イベント「ベジフル感謝祭」を実施。</li> <li>出荷前残留農薬検査の対象範囲を市外産に拡大、JASに基づく低温管理による鮮度・品質の保持、青果物輸出拡大支援などの事業を実施。 *ベジフル感謝祭開催回数 R3n：実施なし → R4n：7回</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に親しまれる市場となるよう、ベジフルスタジアム活性化委員会で広報やイベント内容等について協議していく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベジフル感謝祭を継続して開催するとともに、節目等をとらえた特別イベントの実施、市政だより・ホームページ等の活用による積極的な広報活動等に努めていく。</li> <li>引き続き、JASや残留農薬検査による高度な品質管理等、安全・安心の確立に取り組んでいく。</li> </ul>

市場開放事業による鮮魚市場の活性化	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>鮮魚市場において、市民開放型イベント「市民感謝デー」を実施。 *市民感謝デー開催回数 R3n：実施なし → R4n：4回</li> <li>R3nに主催者である福岡魚食普及推進協議会のホームページリニューアルを実施</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>来場者に楽しんでもらい魚食への関心を高めてもらうため、福岡魚食普及推進協議会で協議しながら、当イベントの継続実施に努めていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き市民感謝デーの開催、節目をとらえた記念イベントやその他特別イベントの実施、市政だより・ホームページ・情報誌・メディアの活用による積極的な広報活動等に努めていく。</li> </ul>

鮮魚市場の機能更新・向上	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場関係者とともに、老朽化した市場の各施設の配置等ローリング計画及び活性化の目標（魚食普及を通じた「長浜ブランドの構築・市場活力の維持」）をR3.2にとりまとめ。</li> <li>市場関係者による東冷蔵庫棟の建替えについて、国及び市が補助しながら、事業主体がR4.6に設計着手、R5.3に工事着手。</li> <li>市場活性化の目標に向けた取組みの方向性（案）をR4.12にとりまとめ。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>東冷蔵庫棟の建替えについては、国費を確保しながら計画通り事業を進める必要がある。</li> <li>活性化ゾーンの整備については、目標に向け、市場関係者と連携し取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>東冷蔵庫棟の建替えはR6n移転に向け、事業主体と連携しながら工程管理を行うとともに、国費の確保について国及び県と調整。</li> <li>活性化ゾーンの整備のうち民有地において市場関係者が行う事業については、R5n開業に向けて調整し、移転後の東冷蔵庫棟の活用については、食に新たな価値を付加するチャレンジ・交流拠点を目指し、市場関係者と連携して機能や民間活力の導入を視野に入れた事業スキーム等を検討。</li> </ul>

●市民との交流事業

油山市民の森等リニューアル	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R4.4 に基本協定の締結</li> <li>・ R4.9 に事業実施協定の締結、設計施工一括契約の締結、指定管理者の指定</li> <li>・ R5.2 に指定管理者の再指定</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リニューアルプランのコンセプトや提案内容の実現に向け、事業者との協議を行う必要がある。</li> <li>・ R5nd から新しい指定管理者の運営が始まるが、並行して、インフラ施設の整備や既存施設の建替・改修等を行うため、安全に配慮する必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5.4 から 15 年間の指定管理の運営を行う。</li> <li>・ インフラ施設の整備を行う。</li> <li>・ 既存施設の建替・改修等を行う。</li> </ul>

市民と農業とのふれあいの場づくりのための市民農園整備の推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内の農地を市民農園として開設する際の支援を H19n から実施しており、直近 3 か年 (R2n~R4n) では 4 箇所整備。 * 市民農園数 R3n : 24 箇所 → R4n : 25 箇所</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民ニーズが高い市街地に近い市民農園の開拓や、開設者における管理運営上の問題解決に向け支援していく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊休地の活用について、農業協同組合と連携しながら情報収集を行う。また、開設希望農家に対し補助事業の制度周知を行うとともに、相談や支援など必要に応じた民間事業者とのマッチングを行う。</li> </ul>

## 施策6-5 就労支援の充実

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●就労支援の取組み

##### 働き方のニーズに対応した就職支援

- ・ 就労相談窓口事業を活用した就職者数 R3n : 358 人 → R4n : 400 人
- ・ ミドル世代の就職決定件数 R3n : 97 人 → R4n : 146 人
- ・ オンライン合同会社説明会への出展企業数 R3n : 192 社 → R4n : 111 社  
参加者数 R3n : 5,001 人 → R4n : 1,818 人

##### 障がい者就労支援センターにおける障がい者の就労支援 <再掲1-6>

- ・ 障がい者の就職件数 R3n : 68 件 → R4n : 48 件
- ・ 障がい者雇用に関する企業セミナーへの参加企業数 R3n : 298 社 → R4n : 178 社

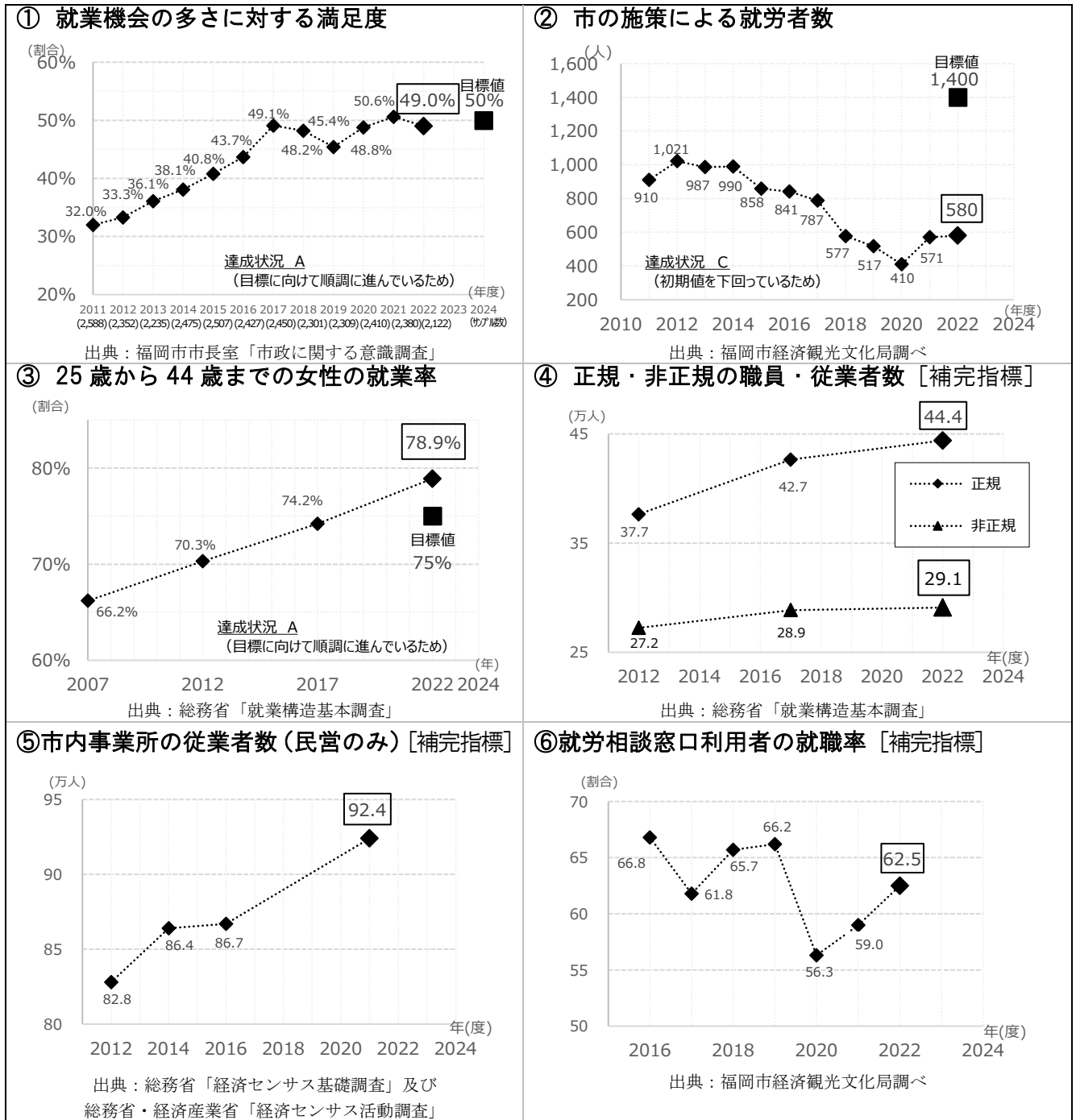
##### ハローワークとの連携などによる生活保護受給者への安定的就労支援

- ・ 就労支援による就労達成者数 R3n : 1,384 人 → R4n : 1,322 人

##### 企業への支援や女性へのキャリアアップ支援を通じた女性の活躍推進 <再掲7-5>

- ・ 女性活躍に取り組む企業を紹介する「見える化サイト」の登録企業数  
R3n : 307 社 → R4n : 337 社

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①は、有効求人倍率の上昇など雇用情勢の改善により、順調に推移していると考えられる。  
 指標②は、雇用情勢の改善や民間 Web サイト等の求人媒体による就職が増加傾向にあることなどから 2020 年度まで減少傾向にあったが、2021 年度以降は市の就労相談窓口事業において、ミドル世代就職支援事業の開始や、オンライン相談による利用者の利便性向上などにより、相談者数が増え、就職者数の増加等に繋がったものと考えられる。  
 指標③は、人口減少社会において、男女共に働きやすい環境整備が進んでいることにより、女性の就業率は順調に推移し、目標に到達した。  
 指標④⑤は、景気回復等に伴い、増加しているものと考えられる。  
 指標⑥は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、求職者と求人企業とのマッチング機会が減少し、2020 年度は大幅に低下したものの、2021 年度以降は回復傾向にあるものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------



#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●就労支援の取組み

働き方のニーズに対応した就職支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方のニーズに合った就職を実現するため、各区の就労相談窓口で就職活動へのアドバイスや求人情報の紹介を行うなど、求職者一人ひとりに寄り添った就職支援を実施。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*就労相談窓口事業を活用した就職者数 R3n : 358 人 → R4n : 400 人</li> </ul> </li> <li>ミドル世代の求職者専用の相談窓口を設け、きめ細かな就職支援を実施。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*ミドル世代の就職決定件数 R3n : 97 人 → R4n : 146 人</li> </ul> </li> <li>経済団体や福岡都市圏の大学と連携し、オンライン合同会社説明会を実施し、市内企業と求職者のマッチング機会を創出した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*オンライン合同会社説明会への出展企業数 R3n : 192 社 → R4n : 111 社</li> <li>参加者数 R3n : 5,001 人 → R4n : 1,818 人</li> </ul> </li> <li>外国人材受入れを検討している企業向けに、外国人材の採用に関する情報やノウハウを提供するセミナーを実施するとともに外国人材の採用に関するチェックリストを作成、ホームページに掲載し、周知・啓発を行った。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*外国人材受入れ支援事業におけるセミナー参加者数 R3n : 157 件 → R4n : 83 件</li> </ul> </li> <li>福岡商工会議所と連携して、専門家による窓口相談などによる支援を行った。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*人材確保相談事業における相談件数 R3n : 53 件 → R4n : 61 件</li> </ul> </li> <li>生産性向上のためのデジタル化を支援するため、地場中小企業の経営層を対象とした経営セミナー、社員を対象とした IT 導入スキル養成講座を開催した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*経営セミナーへの参加者数 R4n : 343 人</li> <li>*IT 導入スキル養成講座受講者数 R4n : 30 人</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>物価上昇等が雇用失業情勢に与える影響に注視し、求職者の希望や適性等を踏まえたきめ細かな就職支援を行う必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高年者、子育て中の女性、就職への悩みを抱えた若者など、求職者の状況に応じた就労支援に取り組むのに加え、特に働き盛りのミドル世代の就職支援を実施する。</li> </ul>

##### 障がい者就労支援センターにおける障がい者の就労支援 <再掲 1 - 6 >

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者就労支援センターを中心に、障がい者一人ひとりの特性に応じた就労支援を実施するとともに、障がい者雇用に関する企業セミナーの開催や、企業訪問による実習先の開拓を実施し、企業の障がい者雇用に対する啓発を充実。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*障がい者の就職件数 R3n : 68 件 → R4n : 48 件</li> <li>*障がい者雇用に関する企業セミナーへの参加企業数 R3n : 298 社 → R4n : 178 社</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障がい者の雇用義務化や法定雇用率の引き上げにより、特に企業の障がい者雇用のニーズが見込まれるため、より一層の支援が必要となる。</li> <li>民間企業等の雇用率は着実に上昇しているが、県内の約半数の企業が雇用率を達成できていない状況である。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*障がい者雇用率の状況(福岡県) R3n : 2.21% → R4n : 2.29%</li> <li>*民間企業における障がい者雇用率達成企業の割合(福岡県) R3n : 49.9% → R4n : 50.8%</li> </ul> </li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者就労支援センターを中心に、障がい者やその家族への個別支援や、就労移行支援事業所等への支援、民間企業への啓発・助言などにより、障がい者の就労に向けた支援を行っていく。</li> </ul>

ハローワークとの連携などによる生活保護受給者への安定的就労支援	
<b>進捗</b>	<p>・ 働ける生活保護受給者への就労支援 → 就労達成目標</p> <p>【目標】 R3n : 1,340 人/年 → R4n : 1,300 人/年</p> <p>【実績】 R3n : 1,384 人 (達成率 103%) → R4n : 1,322 人 (達成率 102%)</p> <p>(内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被保護者就労支援事業による支援 <span style="float: right;">R3n : 879 人 → R4n : 894 人</span></li> <li>・ 被保護者就労準備支援事業による支援 <span style="float: right;">R3n : 5 人 → R4n : 3 人</span></li> <li>・ 生活保護受給者等就労自立促進事業 (ハローワークとの連携) による支援 <span style="float: right;">R3n : 500 人 → R4n : 425 人</span></li> </ul>
<b>課題</b>	<p>・ 就労を達成しても、仕事内容と被保護者の適性とのミスマッチ等が原因で早期に退職し、安定的就労が出来ていない現状がある。また、福岡地域では安定した就労が見込まれる事務的職業の有効求人数が少なく、被保護者を同業種に斡旋することが厳しくなっている。引き続き、きめ細かな就労支援を行っていく必要がある。</p>
<b>今後</b>	<p>・ 生活保護者向けの就労支援事業については、より効率的な就労支援に向けて、体制見直しを図るとともに、効果的なプログラムを継続し、ハローワークとの連携を図りながら、安定的就労を促進する。</p>

**企業への支援や女性へのキャリアアップ支援を通じた女性の活躍推進 <再掲7-5>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性活躍に取り組む企業を紹介する「見える化サイト」の運営 (H28.8 開設)             <ul style="list-style-type: none"> <li>*登録企業数 R3n: 307 社 → R4n: 337 社</li> </ul> </li> <li>・男性の育児休業取得促進事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>*公開セミナー R4n: 参加者 73 人</li> <li>*ワークショップ (2 回) R4n: 参加者 11 人 (10 社)</li> </ul> </li> <li>・再就職を目指す女性向け講座の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>*就職支援セミナー R3n: 参加者 41 人 → R4n: 参加者 32 人</li> </ul> </li> <li>・リーダーを目指す女性向け講座の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>*女性のキャリア形成支援セミナー R3n: 参加者 34 人 → R4n: 参加者 46 人</li> </ul> </li> <li>・起業を目指す女性向け講座の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>*女性のための起業ゼミ、女性の起業スキルアップセミナー R3n: 参加者 55 人 → R4n: 参加者 29 人</li> <li>※R4n は女性のための起業支援 (ライフシフト) セミナーにて、スキルアップセミナーを実施。</li> <li>*女性のための起業支援 (ライフシフト) セミナー R4n: 参加者 23 人</li> </ul> </li> <li>・アミカス×スタカフェ交流会 (起業家交流会) の開催             <ul style="list-style-type: none"> <li>*R3n: 参加者 34 人 → R4n: -</li> <li>※R4n は女性のための起業支援 (ライフシフト) セミナーにて、交流会を実施。</li> </ul> </li> <li>・女性活躍推進に関する企業向け講演会の開催             <ul style="list-style-type: none"> <li>*R3n: 参加者 113 人 → R4n: 参加者 173 人</li> </ul> </li> <li>・社会貢献優良企業優遇制度 (次世代育成・男女共同参画支援事業) の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>*認定企業数 R3n: 203 社 → R4n: 194 社</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場における女性の活躍を推進していくためには、これまでの働き方を見直し、長時間労働の是正や有給休暇の取得促進など、企業における働きやすい環境づくりが重要。</li> <li>・女性活躍推進による企業のメリットを、経営者や管理職、人事担当者等に広く発信していくことが必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性活躍推進法及び「福岡市働く女性の活躍推進計画 (第2次)」 (福岡市男女共同参画基本計画 (第4次)) に基づき、女性の活躍を推進していく。</li> <li>・女性特有の健康課題や不妊治療等と仕事の両立に関する企業への啓発に取り組む。</li> <li>・ダイバーシティをテーマとする講演会を開催し、企業における女性の活躍への取組みを支援する。</li> <li>・企業における女性活躍への取組みの「見える化」の推進などに取り組む。</li> <li>・企業における男性の育児休業取得促進など、男性の意識改革の啓発に取り組む。</li> <li>・働く女性のキャリア形成支援や再就職等を目指す女性のための講座や交流機会の提供に取り組む。</li> </ul>



## 施策 7-1 新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●「グローバル創業都市・福岡」の実現

**スタートアップ・パッケージによる創業・起業支援**

★スタートアップカフェ相談対応件数 R3n : 3,204 件 → R4n : 3,457 件

★スタートアップビザにかかる確認申請数 R3n : 9 人 → R4n : 14 人

**スタートアップ関連施設の集約による更なる支援の強化**

・スタートアップ支援施設の支援企業数（入居企業数）（累計） R3n : 540 社 → R4n : 585 社

★入居企業の資金調達金額 R3n : 26 社 約 78 億円 → R4n : 29 社 約 111 億円

★企業価値 10 億円以上のスタートアップ R3n : 41 社 → R4n : 51 社

**グローバル展開を見据えた創業環境づくりの推進**

★スタートアップ拠点等との交流・連携数（総数） R3n : 15 拠点 → R4n : 15 拠点

・参加・開催した主なイベント

R3n : 14 件（来場者数計 : 4,318 人） → R4n : 14 件（来場者数計 : 7,939 人）

・海外研修への参加者数

R3n : 85 名 → R4n : 80 名

**官民連携による創業支援**

・特定創業支援等事業を受けた創業者数 R3n : 393 人 → R4n : 250 人

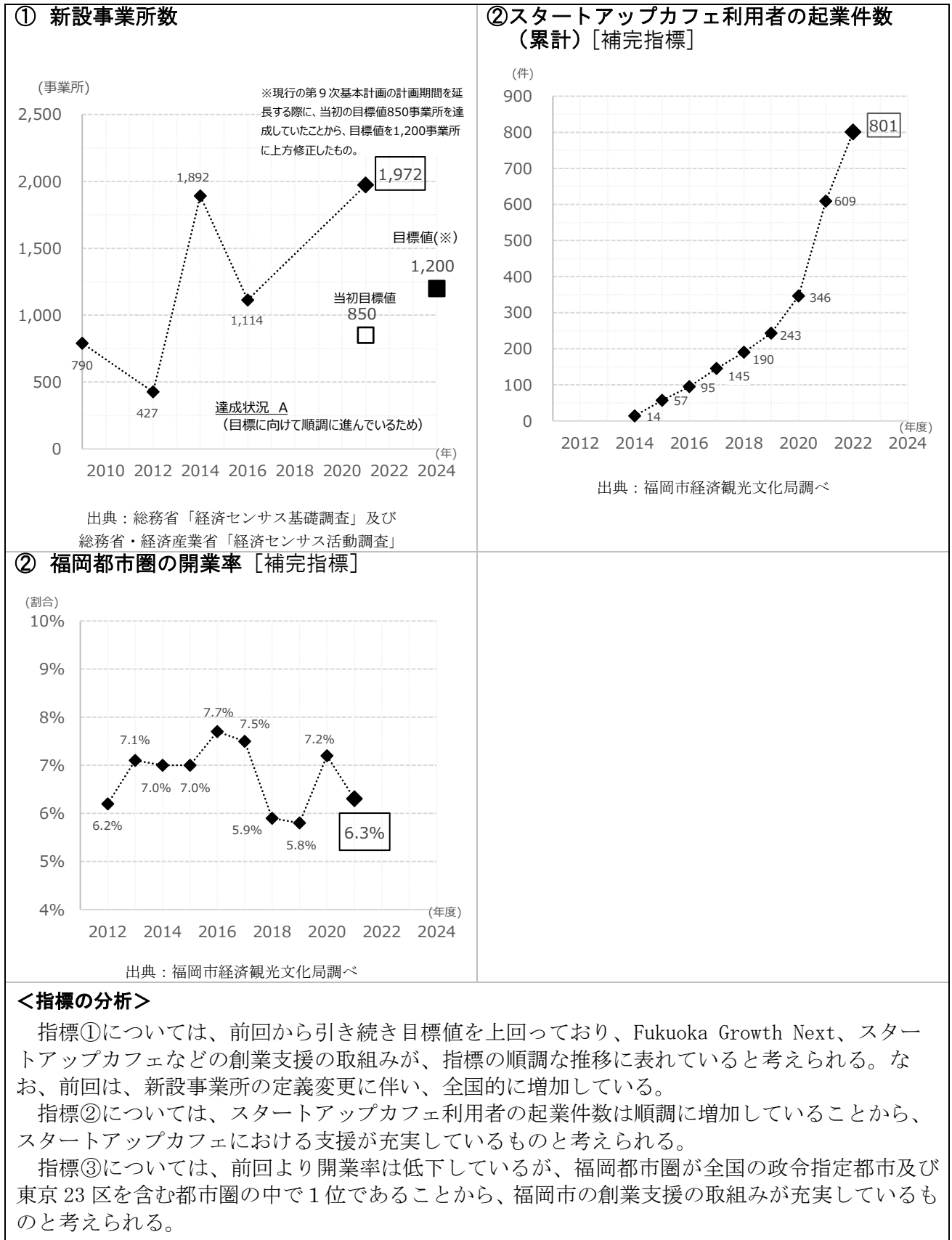
**スマートシティ推進事業**

★ワンストップ窓口「mirai@」での相談・提案件数（提案実現・採択件数）（累計）

R3n : 692 件（142 件） → R4n : 856 件（160 件）

・実証実験フルサポート事業支援件数（累計） R3n : 84 件 → R4n : 93 件

2 成果指標等



3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

<p>◎：順調</p>	<p>[参考]前年度 ◎：順調</p>
-------------	-------------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●「グローバル創業都市・福岡」の実現

スタートアップ・パッケージによる創業・起業支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>創業の裾野を広げるために設置した「スタートアップカフェ」では、オープン以降、創業に関する相談（20,058件）、イベント等（2,134回）、人材マッチングなどの支援を実施。その結果、スタートアップカフェの利用者から801社が起業するなど、創業の裾野は着実に拡大。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*スタートアップカフェ相談対応件数 R3n：3,204件 → R4n：3,457件</li> </ul> </li> <li>外国人起業家への支援として、国家戦略特区を活用した在留資格「経営・管理」申請時の要件緩和による「外国人創業活動促進事業（スタートアップビザ）」（H27.12開始以降申請93人）及び経済産業省から認定された在留資格「特定活動」を活用した「外国人起業活動促進事業（新しいスタートアップビザ）」（H31.2開始以降申請26人）を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*スタートアップビザにかかる確認申請数 R3n：9人 → R4n：14人</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の国家戦略特区の規制緩和等も活用して、世界一チャレンジしやすい都市を目指した取り組みが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家戦略特区における規制改革（スタートアップビザ、雇用労働相談センター、人材マッチングセンター、スタートアップ法人減税等）の活用や開業ワンストップセンター等の新たな規制改革の提案に加え、住居及び事務所の確保支援やスタートアップカフェ等を活用した施策を充実させ、福岡市スタートアップ・パッケージとして戦略的・総合的に推進する。</li> </ul>

スタートアップ関連施設の集約による更なる支援の強化	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内4カ所のスタートアップ関連施設を集約し、旧大名小学校校舎に官民共働型のスタートアップ支援施設（Fukuoka Growth Next）をH29.4にオープンして以降、民間事業者と共働で施設を運営することで、民間事業者のアイデアやノウハウを活かしながら、行政だけでは行えなかったスタートアップ企業への支援を展開している。また、R1.5にリニューアルオープンを迎え、スタートアップの可視化やスタートアップ企業の更なる成長、既存中小企業の第二創業促進を図っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*スタートアップ支援施設の支援企業数（入居企業数）（累計） R3n：540社 → R4n：585社</li> <li>*入居企業の資金調達金額 R3n：26社 約78億円 → R4n：29社 約111億円</li> <li>*企業価値10億円以上のスタートアップ R3n：41社 → R4n：51社</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップの事業がさらに加速できるよう、効果的な支援内容の充実が求められる。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の状況に応じたプログラムやセミナー、ベンチャーキャピタルや先輩起業家とのマッチングなど、スタートアップ支援をさらに加速させ、5年間で企業価値10億円企業を100社創出するとともに、アジアNO.1のスタートアップ支援施設を目指していく。</li> </ul>

グローバル展開を見据えた創業環境づくりの推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインを活用した市内スタートアップの海外研修やイベント参加、海外展開の相談対応のほか、海外スタートアップ拠点との連携等により、海外展開を見据えた創業環境づくりを行った。</li> <li>    * スタートアップ拠点等との交流・連携数（総数）</li> <li>        R4n：15 拠点</li> <li>            アジア：台湾(3 拠点)、シンガポール、タイ</li> <li>            欧 米：エストニア（3 拠点）、ヘルシンキ(フィンランド)、</li> <li>                    ボルドー(フランス)、サンクトペテルブルク(ロシア)、</li> <li>                    バルセロナ(スペイン)、サンフランシスコ(アメリカ)</li> <li>            中 東：イスラエル</li> <li>            オセアニア：オークランド(ニュージーランド)</li> <li>    * 参加・開催した主なイベント (R3n 及び R4n は一部対面で開催)</li> <li>        R3n：14 件（来場者数：4, 318 人）→ R4n：14 件（来場者数：7, 939 人）</li> <li>    * 海外研修への参加者数 (R4n は一部対面で実施)</li> <li>        R3n：85 名 → R4n：80 名</li> <li>・オンラインを活用した国際イベントの開催を通じて、国内外スタートアップのビジネスマッチング機会を創出。</li> <li>・コーディネーターによる海外とのビジネス具体化やマッチング支援を実施。</li> <li>・海外のスタートアップや投資家等に向け、WEB、SNS、メールマガジンにて情報を発信。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内スタートアップの海外展開事例が不十分。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外のスタートアップ、投資家、大手企業等を対象として、対面での交流・ビジネスマッチングができる場を創出する。</li> </ul>

官民連携による創業支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定創業支援等事業では、国から認定を受けた創業支援等事業計画をもとに、民間の創業支援事業者と連携して、創業希望者等に対し、専門家によるハンズオン支援等を実施。</li> <li>・創業者応援団事業では、創業者応援団フォーラム、セミナー等を通じてスタートアップ企業同士の交流促進、販路拡大等を支援。また、優秀なビジネスプランを表彰、費用負担するステップアップ助成事業を通じて、スタートアップ企業のロールモデルとなりうる企業を発掘し、育成を支援。</li> <li>    * 特定創業支援等事業を受けた創業者数 R3n：393 人 → R4n：250 人</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定創業支援等事業について、創業の裾野は広がっているが、スケールアップの成功モデルが不足。</li> <li>・ステップアップ助成事業について、補助金交付後のサポートが不十分。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定創業支援等事業の利用者に対し、民間の創業支援事業者と連携しながら、成長支援施策につなげていく。</li> <li>・ステップアップ助成事業の受賞者に対する継続的なサポート実施や成長支援につなげるよう実施方法等の見直しを図る。</li> </ul>



スマートシティ推進事業	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.5に公民連携ワンストップ窓口「mirai@（ミライアット）」を設置。</li> <li>・AIやIoTといった先端技術等を活用した民間提案等を支援するなど、社会課題の解決等の促進に取り組んでいる。</li> <li>・R4nにおいては、ワンストップ窓口にて、テーマを設定した民間提案の募集を2件実施。</li> <li>・包括連携協定を活用した取り組みや、テーマを設定して募集する実証実験など、様々な公民連携事業が実現。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*ワンストップ窓口「mirai@」での相談・提案件数（提案実現・採択件数）（累計） R3n：692件（142件）→ R4n：856件（160件）</li> <li>*実証実験フルサポート事業支援件数（累計） R3n：84件 → R4n：93件</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIやIoTなどの先端技術を活用した新しいサービスや商品を用いて、社会課題の解決に繋げていくためには、先端技術に対する不安を払拭し、社会受容性を高める必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ワンストップ窓口で、民間企業による実証実験の支援、FDC（福岡地域戦略推進協議会）との連携による事業化支援などの公民連携事業の取り組みなどを行うとともに情報発信に努める。</li> </ul>





## 施策7-2 創造的活動の基盤となる文化芸術の振興

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●創造活動を担い、支える人材の育成と活動の支援

##### 拠点文化施設整備（市民会館の再整備） <再掲1-4>

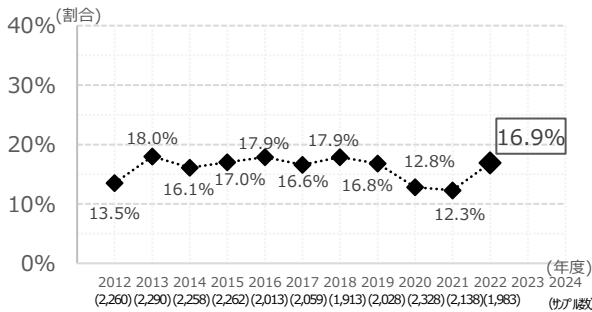
- ・施設整備、開業準備業務を実施

##### 文化芸術活動者の育成・支援

- ・FFAC ステップアップ助成プログラム採択件数 R3n : 16 件 → R4n : 13 件

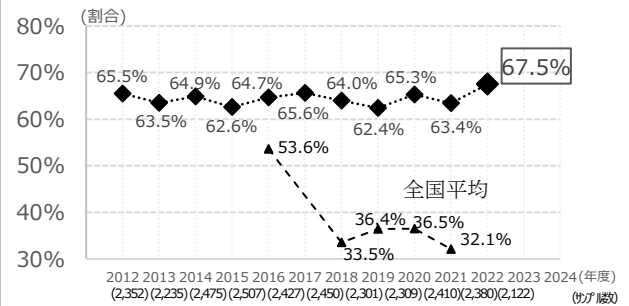
### 2 成果指標等

①文化芸術活動を行う市民の割合（過去1年間に1回以上文化芸術活動を行った市民の割合）  
[補完指標] <再掲1-4>



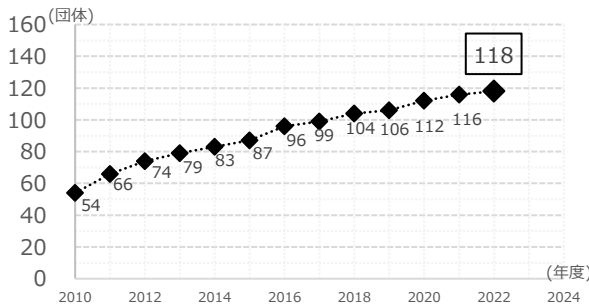
出典：福岡市総務企画局「基本計画の成果指標に関する意識調査」

②芸術・文化水準に関する満足度 [補完指標]  
<再掲1-4>



出典：福岡市市長室「市政に関する意識調査」

③アートNPO認証数（学術・文化・芸術・スポーツ分野）（累計） [補完指標]



出典：福岡市長認証法人一覧

#### <指標の分析>

指標①については、新型コロナウイルス感染症感染拡大を受けて、活動の自粛等により、2020年度以降、減少したが、2022年度は回復の傾向が見られる。また、指標②については、市民の「芸術・文化水準に関する満足度」は横ばいであるものの、全国平均を大きく上回っており、福岡市においては、文化芸術団体のほか、企業、NPOなどにより、多様な文化芸術の鑑賞や体験の機会が創出されていると考えている。指標③については、アート分野におけるNPOが毎年一定数認証されており、アート分野での新たな文化芸術活動が生じていることが伺える。

指標①、②について、引き続きより多くの人々が文化芸術を楽しめるよう、民間団体との連携や役割分担をより一層進めながら取り組んでいく必要がある。

### 3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●創造活動を担い、支える人材の育成と活動の支援

拠点文化施設整備（市民会館の再整備） <再掲 1 - 4 >	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H28. 6 に策定した基本計画を踏まえ、H29. 12 には拠点文化施設のコンセプト、運営の方向性及び事業手法等について、議会報告を行った。H30. 12 には、PFI 法第 5 条第 3 項の規定に基づき実施方針等を公表したのち、H31. 3 に本事業を特定事業として選定した。H31. 4 に事業者の公募を開始し、R2. 1 に落札者を決定した。R2. 6 に事業契約を締結し、設計を開始した。R3. 8 に施設整備に着手、R4. 4 より開業準備業務を開始した。また、R5. 2 に契約変更を行い、地球温暖化対策の強化や新型コロナウイルス感染症対策に取り組むこととした。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の文化施設のモデルとなるよう、ハード・ソフト両面の充実を図るとともに、須崎公園と一体となったシンボリックな都市空間のデザインや、人を惹きつける新たな集客拠点づくりを進めていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間事業者のノウハウ活用による効果的・効率的な施設計画及び運営を図るとともに、拠点文化施設と須崎公園が一体となった、魅力的な公共空間の創出に取り組む。</li> <li>・ R7. 3 の開館を目指し、R5n は、引き続き施設整備及び開業準備業務を実施。</li> </ul>

文化芸術活動者の育成・支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ （公財）福岡市文化芸術振興財団（FFAC）ステップアップ助成プログラムにおいて、団体・個人のステップアップを図るため、実施する文化事業に助成を行うとともに、専門家からのアドバイスや報告会などを実施。</li> <li>*採択件数：13 件（演劇 4 件、ダンス 4 件、音楽 3 件、その他 2 件）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化芸術を鑑賞し、活動する市民の裾野を広げるためには、文化芸術を担う人材育成のための取組みや、市民の文化芸術活動へ支援策の拡充が不可欠である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アーツカウンシルの機能として、活動への助成や相談対応など、市民が文化芸術活動を行いやすい環境づくりを推進していく。</li> </ul>

## 施策 7-3 個人の才能が成長を生む創造産業の振興

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●クリエイティブ関連産業の振興

**クリエイティブ関連産業の振興（ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン等）**

★人材育成関連事業数 R3n : 3 事業 → R4n : 3 事業

#### ●エンターテインメント都市づくり

**「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」の実現**

★クリエイティブフェスタの来場者数

R3n : 約 40,000 人 → R4n : 約 45,000 人

2 成果指標等

**① クリエイティブ関連産業事業所数**

(事業所)

出典：総務省「経済センサス基礎調査」及び  
総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

**② クリエイティブ関連産業事業所数の増減割合  
(政令指定都市順位) [補完指標]**

	初期値	現状値
クリエイティブ関連産業事業所数の増減割合の政令指定都市順位	<b>10位</b> (-14.0%) 2009年～ 2012年比較	<b>5位</b> (22.1%) 2016年～ 2021年比較

出典：総務省「経済センサス基礎調査」及び  
総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

---

**③ ゲーム産業の事業所数・従業者数 [補完指標]**

(人) (事業所)

出典：福岡市経済観光文化局調べ

**<指標の分析>**

指標①について、クリエイティブ関連事業所数は、リーマンショックや東日本大震災の影響により、2012年は初期値から減少した。しかし、コンテンツ振興課の新設などクリエイティブ関連産業の振興を強化した2012年以降は、増加に転じている。例えば、指標③はクリエイティブ関連産業の一分野であるゲーム関連産業の事業所数・従業者数であるが、ともに初期値より増加している。

また指標②について、2016年から、2021年にかけてのクリエイティブ関連産業事業所数の増加割合は、政令指定都市の中で第5位となっている。これらは、ゲーム分野のインターンシップやコンテストの実施、アジアンパーティの開催などにより、クリエイティブ関連産業の振興及びエンターテインメント都市づくりの取り組みが順調に進んでいることによるものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

<p>◎：順調</p>	<p>[参考]前年度</p> <p>○：概ね順調</p>
-------------	------------------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●クリエイティブ関連産業の振興

クリエイティブ関連産業の振興（ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン等）	
<b>進捗</b>	<p>*人材育成関連事業数 R3n：3事業 → R4n：3事業</p> <p>◆ゲーム分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産学官（GFF+九州大学+福岡市）で組織する福岡ゲーム産業振興機構により、インターンシップ、ゲームコンテストなどの人材育成事業や広報事業を実施。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*ゲーム関連産業事業所数 R3n：34社（R4.1現在）→ R4n：36社（R5.1現在）</li> <li>*ゲーム関連産業従業者数 R3n：2,294人（R4.1現在）→ R4n：2,326人（R5.1現在）</li> </ul> </li> </ul> <p>◆映像分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クリエイターの人材育成及びデジタルアートの展望等をテーマにしたオンラインシンポジウムを実施。</li> </ul> <p>◆ファッション分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地場ファッション産業の活性化に向け、民間企業等との連携を実施。</li> </ul> <p>◆音楽分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「福岡ミュージックマンス」に参画し、音楽都市として共同PR動画等を活用したプロモーションを行った。また、音楽産業振興基金を運営した。</li> <li>福岡音楽都市協議会と連携し、ビジネス活性化に向けた取組みや、音楽関連情報の一元的な情報発信、人材育成事業を実施した。</li> </ul> <p>◆デザイン分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザイン関連団体などとの連携のほか、福岡県産業デザイン協議会事業へ参画し、ワークショップや販路拡大支援を行った。</li> </ul> <p>◆フィルムコミッション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>撮影支援を通じたシティプロモーションに取り組むとともに、ロケ支援事業者への登録促進及び国内外の映像制作者に対し地元映像事業者の紹介を行う等、地元映像事業者のビジネス拡大を図った。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリエイティブ関連産業は、国のクールジャパン政策にも見られるように更なる成長が見込まれる中、福岡県内には関連性の高い専門学校や大学が多くあるが、そのうち福岡都市圏の大学に在学する情報工学系や、デザイン系等の理系学生のうち、半数以上が九州外に就職しており、若くて優秀な人材が福岡で活躍できる場を創出することが重要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリエイティブ関連産業は更なる成長が見込まれ、本市の特性にもあった次代の成長エンジンとなりうる産業分野であり、産学官と連携しながら引き続き振興する。</li> <li>ゲームをはじめ、アニメ・映像、ファッション、音楽、デザインなどクリエイティブ関連産業を包括的に捉え、さらなる振興を図るとともに、海外展開や集客等を促進する。</li> <li>福岡ゲーム産業振興機構等の事業を通じ、企業が求める人材の育成に努める。</li> <li>上記事業を通じて、市内のクリエイティブ関連産業のさらなる振興を図り、若くて優秀な人材が活躍できるような場の創出に努める。</li> </ul>

●エンターテインメント都市づくり

「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」の実現	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリエイティブフェスタでは、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRするため、福岡市役所西側ふれあい広場等にてイベントを実施。 *クリエイティブフェスタの来場者数 R3n：約40,000人 → R4n：約45,000人</li> <li>・産学官で構成するクリエイティブ福岡推進協議会（クリエイティブ・ラボ・フクオカ）を推進母体とし、異業種間の交流・連携を促進。 *セミナー・交流会の開催 8回</li> <li>・クリエイティブフェスタのほか、民間企業・団体と連携して、アジアやクリエイティブをコンセプトとした様々なイベントをアジアンパーティとして9月～10月に実施(30事業、約42万人参加)。 コロナ下においても「アジア」「クリエイティブ」を体感できるようオンラインを活用した事業を実施。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化・エンターテインメント分野について、一定規模以上のイベントの開催に対する支援、アーティストが行う公演等における施設の利用料等に係る支援を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリエイティブ関連企業やクリエイターの交流によるビジネス創出にどのようにつなげていくかが課題。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、「若い人材が豊富で活気のあるクリエイティブな街」を福岡ブランドとして確立させ、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」の実現に向け、事業を実施する。</li> <li>・クリエイティブフェスタは、クリエイティブ関連のステージやブースを増やすなどの、よりクリエイティブ色の強い内容へ見直し、地元企業の発表の場、企業の認知度向上の機会としていく。</li> </ul>



## 施策 7-4 多様な人が集まり交流・対話する創造的な場づくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●創造的空間の整備・誘導

##### 都心部のまちづくりの推進 <再掲 8-1>

- ・ 都心部機能更新誘導方策を地区計画(2件)及びビル計画(3件)に適用
- ・ ビル計画(3件)については、天神ビッグバンボーナス・博多コネクティッドボーナスを認定
- ・ 適用案件(ビル計画)について事業の進捗に伴う調整を実施(着工3件、竣工2件)
- ・ 複数街区にまたがる、段階的および連鎖的なプロジェクトとして、計画概要書を受理(3件)
- ・ 都心部機能更新誘導方策の制度を改定し、みどりやアート等の誘導をさらに強化

##### 産学官民連携によるまちづくりの推進 <再掲 8-1>

- ・ エリアマネジメント団体(2団体)との共働事業の実施

##### スタートアップカフェの運営 <再掲 7-1>

- ・ スタートアップカフェ相談対応件数 R3n : 3,204件 → R4n : 3,457件

##### スタートアップ関連施設の集約による更なる支援の強化 <再掲 7-1>

- ・ スタートアップ支援施設の支援企業数(入居企業数) (累計) R3n : 540社 → R4n : 585社

##### グローバル展開を見据えた創業環境づくりの推進 <再掲 7-1>

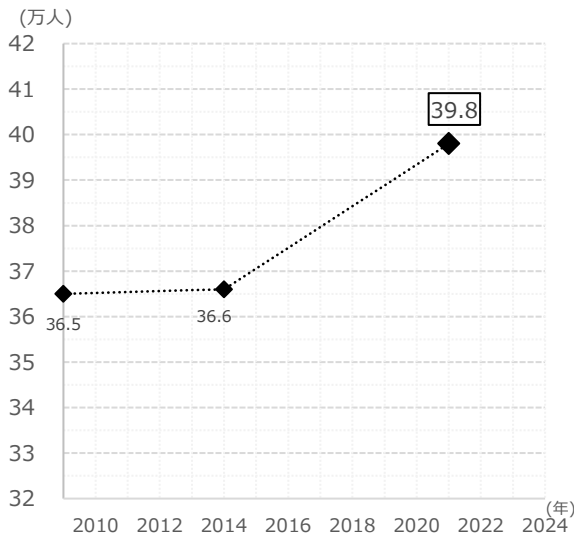
- ・ スタートアップ拠点等との交流・連携数(総数) R3n : 15拠点 → R4n : 15拠点
- ・ 参加・開催した主なイベント  
R3n : 14件(来場者数計 : 4,318人) → R4n : 14件(来場者数計 : 7,939人)
- ・ 海外研修への参加者数  
R3n : 85名 → R4n : 80名

##### 九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりの推進 <再掲 4-4>

- ・ 「グランドデザイン」の実現に向けた、土地利用事業者公募に関する協議・調整
- ・ 「Fukuoka Smart East」の推進に向けた検討
- ・ 都市計画道路の整備、土地区画整理事業の設計・工事等

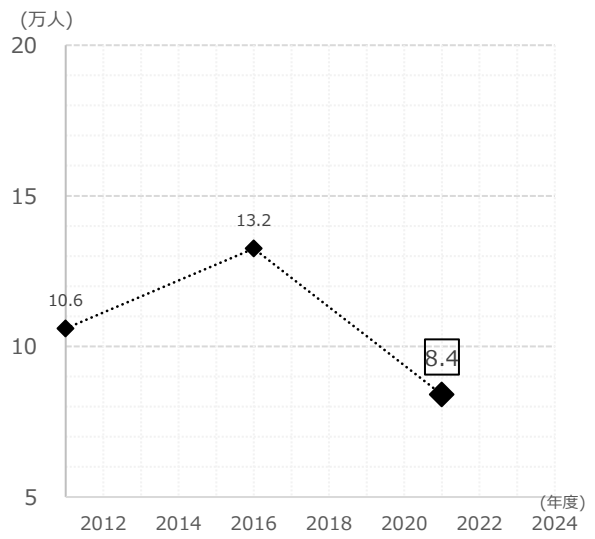
2 成果指標等

①都心部の従業者数 [補完指標]  
 <再掲8-1>



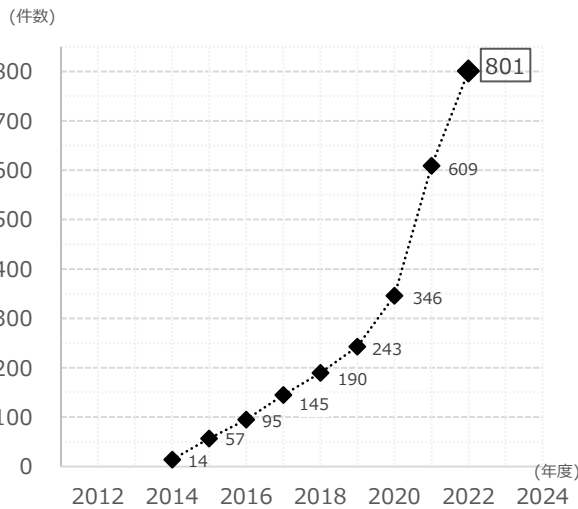
出典：総務省「経済センサス基礎調査」

②都心部の1日あたりの歩行者交通量 [補完指標] <再掲8-1>



出典：福岡市住宅都市局調べ

③スタートアップカフェ利用者の起業件数(累計) [補完指標] <再掲7-1>



出典：福岡市経済観光文化局調べ

<指標の分析>

指標①については、2021年の従業者数は2009年より増加しており、順調に進んでいる。今後、天神ビッグバンや博多コネクティッドにより、まちが大きく生まれ変わっていく中で、建替えに合わせ、水辺やみどり、文化・芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられる、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりを推進していくことでさらなる増加を目指す。

指標②については、都心部の機能強化や魅力づくりにより着実に増加していたものの、2021年度は大幅に減少している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出者が減少したことや、国の入国制限措置などに伴い外国人入国者数が大幅に減少したことが要因であると考えられる。

指標③については、スタートアップカフェ利用者の起業件数は順調に増加していることから、スタートアップカフェにおける支援が充実しているものと考えられる。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●創造的空間の整備・誘導

都心部のまちづくりの推進 <再掲 8-1>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新期を迎えたビルの建替え等の機会を捉え、都心部の機能強化と魅力づくりを図るため、まちづくりの取組みに応じて容積率の緩和を行う「都心部機能更新誘導方策」を活用する計画の具体化に向けた調整を実施。R4n は、都心部機能更新誘導方策を地区計画（2件）及びビル計画（3件）に適用した上で、ビル計画（3件）は、天神ビッグバンボーナス・博多コネクティッドボーナスを認定。</li> <li>・適用案件（ビル計画）について、事業の進捗に伴う調整を実施。R4n は、着工3件、竣工2件。</li> <li>・複数街区にまたがる、段階的および連鎖的なプロジェクトとして、計画概要書を受理（3件）</li> <li>・民間ビルの建替え時に、みどりやアート等の誘導をさらに強化するため、都心部機能更新誘導方策の制度を改定。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部においては、警固断層等のリスクがあるなか、更新期を迎え、耐震性やセキュリティに課題を抱えているビルが多く残っており、それらを耐震性の高い先進的なビルへ建て替えることにより、多くの市民や、働く人・訪れる人の安全・安心につなげることが必要。</li> <li>・まちづくりを取り巻く環境の変化に対応しながら、「天神ビッグバン」および「博多コネクティッド」の推進など、官民連携によるスピード感をもった取組みを進めることが必要。</li> <li>・旧大名小学校跡地は、地域におけるこれまでの地域活動や災害時の避難場所としての役割を担う場所であるとともに、天神地区に隣接し、「天神ビッグバン」の西のゲートとして、都心部の機能強化と魅力づくりを図る上で重要な役割を担う場所でもあるため、跡地の活用にあたっては、今後も地域などの意見をいただきながら、地域にとって、福岡市の将来にとって、魅力的な場となるよう取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空法高さ制限の緩和や福岡市独自の規制緩和などによって、民間投資を喚起することで、耐震性が高く先進的なビルへの建替えを進めるとともに、水辺やみどり、文化・芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられる、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりを推進していく。</li> </ul>

産学官民連携によるまちづくりの推進 <再掲 8-1>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天神地区・博多地区において、魅力的なイベントの実施、回遊性向上や来街者のおもてなし、まちの美化、防犯・防災活動等のまちづくり活動を、地域・企業などが会員となって実施しているエリアマネジメント団体との共働により、都心部のにぎわい創出や魅力の向上、課題解決などのまちづくりに取り組んだ。</li> </ul> <p>&lt;エリアマネジメント団体（設立年度・会員数）の活動事例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ We Love 天神協議会（H18n・135 団体） フリンジパーキング社会実験、天神クリーンデーの開催 等</li> <li>・ 博多まちづくり推進協議会（H20n・183 団体） 和の博多（デジタルスタンプラリー）の開催、押し自転車の取組み、植栽管理事業（フラワーポット） 等</li> <li>・ 街路灯広告バナーの掲出に伴う収益や公開空地等を活用したイベントの収益の一部をエリアマネジメント団体の収入とするなど、エリアマネジメント団体の自主財源の確保に取り組むとともに、引き続き、新たな自主財源の確保に向けて検討を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリアマネジメント団体の設立から 10 年以上が経過し、定着化しつつある事業の継続的な実施が求められる一方で、多岐にわたる事業の選択と集中が必要。</li> <li>・ エリアマネジメント団体の自立的な運営に向け、公共空間を活用した取組みなど、自主財源拡大への継続した取組みが必要。</li> <li>・ 都心部再開発の工事期間中における、まちの変化に応じた賑わい創出が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリアマネジメント団体との共働により、都心部の魅力の向上や課題解決に取り組む。</li> <li>・ 道路空間でのほこみち制度の活用等、公共空間での魅力的なイベントによる賑わいづくりや、エリアマネジメント団体の自主財源拡大に向けた取組みを引き続き支援していく。</li> <li>・ 都心部再開発の工事期間中においても、魅力あふれ訪れたいくなる地区となるよう、エリアマネジメント団体を実施する賑わいづくりの取組みを、引き続き支援していく。</li> <li>・ 特区の活用や地方創生に資するプロジェクトの重点的な実施及び会員企業の国際展開や域外企業の誘致に取り組むとともに、広域展開については、引き続き、既存の連携自治体との事業推進を行う。</li> </ul>

スタートアップカフェの運営 <再掲 7-1>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創業の裾野を広げるために設置した「スタートアップカフェ」では、オープン以降、創業に関する相談（20,058 件）、イベント等（2,134 回）、人材マッチングなどの支援を実施。その結果、スタートアップカフェの利用者から 800 社以上が起業するなど、創業の裾野は着実に拡大。 *スタートアップカフェ相談対応件数 R3n：3,204 件 → R4n：3,457 件</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の国家戦略特区の規制緩和等も活用して、世界一チャレンジしやすい都市を目指した取組みが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国家戦略特区における規制改革（スタートアップビザ、雇用労働相談センター、人材マッチングセンター、スタートアップ法人減税等）の活用や開業ワンストップセンター等の新たな規制改革の提案に加え、住居及び事務所の確保支援やスタートアップカフェ等を活用した施策を充実させ、福岡市スタートアップ・パッケージとして戦略的・総合的に推進する。</li> </ul>

**スタートアップ関連施設の集約による更なる支援の強化 <再掲 7-1>**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内 4 ヲ所のスタートアップ関連施設を集約し、旧大名小学校校舎に官民共働型のスタートアップ支援施設 (Fukuoka Growth Next) を H29. 4 にオープンして以降、行政だけでは行えなかったスタートアップ企業への支援を民間事業者と共働で施設を運営することで、民間事業者のアイデアやノウハウを活かした支援を展開している。また、R1. 5 にリニューアルオープンを迎え、スタートアップの可視化やスタートアップ企業の更なる成長や既存中小企業の第二創業促進を図っている。</li> <li>*スタートアップ支援施設の支援企業数 (入居企業数) (累計) R3n : 540 社 → R4n : 585 社</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップの事業がさらに加速できるよう、効果的な支援内容の充実が求められる。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者の状況に応じたプログラムやセミナー、ベンチャーキャピタルや先輩起業家とのマッチングなど、スタートアップ支援をさらに加速させ、5年間で企業価値10億円企業を100社創出するとともに、アジアNO. 1のスタートアップ支援施設を目指していく。</li> </ul>

**グローバル展開を見据えた創業環境づくりの推進 <再掲 7-1>**

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインを活用した市内スタートアップの海外研修やイベント参加、海外展開の相談対応のほか、海外スタートアップ拠点との連携等により、海外展開を見据えた創業環境づくりを行った。</li> <li>*スタートアップ拠点等との交流・連携数 (総数) R4n : 15 拠点 アジア:台湾(3 拠点)、シンガポール、タイ 欧 米:エストニア (3 拠点) 、ヘルシンキ(フィンランド)、 ボルドー(フランス)、サンクトペテルブルク(ロシア)、 バルセロナ(スペイン)、サンフランシスコ(アメリカ) 中 東:イスラエル オセアニア:オークランド(ニュージーランド)</li> <li>*参加・開催した主なイベント (R3n 及び R4n は一部対面で開催) R3n : 14 件 (来場者数計 : 4, 318 人) → R4n : 14 件 (来場者数計 : 7, 939 人)</li> <li>*海外研修への参加者数 (R4n は一部対面で実施) R3n : 85 名 → R4n : 80 名</li> <li>オンラインを活用した国際イベントの開催を通じて、国内外スタートアップのビジネスマッチング機会を創出。</li> <li>コーディネーターによる海外とのビジネス具体化やマッチング支援を実施。</li> <li>海外のスタートアップや投資家等に向け、WEB、SNS、メールマガジンにて情報を発信。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内スタートアップの海外展開事例が不十分。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外のスタートアップ、投資家、大手企業等を対象として、対面での交流・ビジネスマッチングができる場を創出する。</li> </ul>

九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくりの推進 <再掲4-4>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と共に創り上げた「グランドデザイン」の実現に向け、土地所有者である九州大学等と連携し、土地利用事業者公募に関する協議・調整を実施。</li> <li>・「Fukuoka Smart East」を進める先駆けとして、箱崎キャンパス跡地のまちづくりにおける先進的なまちづくりの検討及び市民・企業の関心喚起のための情報発信を実施。</li> <li>・都市計画道路や外周道路は整備着手済み。土地区画整理事業については道路や造成に係る設計・工事等を実施。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州大学等による土地利用事業者公募について、引き続き、九州大学等と協議・調整が必要。</li> <li>・「Fukuoka Smart East」の取組みの推進に向けて、先進的なまちづくりの検討深度化や市民・企業に向けた継続した情報発信が必要。</li> <li>・都市計画道路整備や土地区画整理事業について、事業者公募や引き渡しに向けた着実な実施が必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と共に創り上げた「グランドデザイン」の実現に向け、九州大学等と土地利用事業者公募に関する協議・調整を行う（R5.4公募開始）。</li> <li>・「Fukuoka Smart East」の取組みの推進に向け、先進的なまちづくりにおける検討深度化や市民・企業に向けた情報発信を行う。</li> <li>・都市計画道路整備について施行者のUR都市機構と連携して進めるとともに、土地区画整理事業において、工事・補償を行うなど事業推進を図る。</li> </ul>

## 施策 7-5 チャレンジする若者や女性が活躍するまちづくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

●若者の体験・活動の場や機会づくり

子どもが将来を考える機会となる体験の場の充実 <再掲 1-8>

- ・「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合

小学校 R3n : 80.1% → R4n : 79.2%

中学校 R3n : 70.1% → R4n : 69.9%

若者の主体的・創造的な活動の推進 <再掲 1-8>

- ・「ミニふくおか」参加者数 R3n、R4n : 当日イベント中止\*

※R3n 及び R4n は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、内容を変更して実施

●女性の活躍の場づくり

企業への支援や女性へのキャリアアップ支援を通じた女性の活躍推進

- ★女性活躍に取り組む企業を紹介する「見える化サイト」の登録企業数

R3n : 307 社 → R4n : 337 社

●人材ネットワーク構築・活性化

産学官民連携による国際競争力強化事業 <再掲 6-1>

- ・福岡地域戦略推進協議会（FDC）の部会などによるプロジェクト創出支援

2 成果指標等

**①若者率の全国平均との差**  
(福岡市の人口に占める若者率の全国平均との乖離)  
(ポイント)

達成状況 C  
(初期値を下回っているため)

出典：総務省「国勢調査」

**②企業における女性管理職比率**

達成状況 B  
(改善しているが、目標達成ベースを下回っているため)

出典：福岡労働局「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に係る実態調査」、福岡市「女性労働実態調査」、「女性活躍推進に関する事業実態調査」

**③若者人口、15歳未満人口の全国との比較**  
[補完指標]

○若者(15～29歳)人口 (単位:千人)

	2015年度	2020年度	増減数	増減率
全国	18,386	17,581	-805	-4.4%
(若者率)	(14.6%)	(14.3%)		
福岡市	268	270	2	0.7%
(若者率)	(17.8%)	(17.6%)		

○15歳未満人口 (単位:千人)

	2015年度	2020年度	増減数	増減率
全国	15,887	14,956	-931	-5.9%
福岡市	200	205	5	2.5%

出典：総務省「国勢調査」

**④「ふくおか女性活躍NEXT 企業 見える化サイト」の登録企業数** [補完指標]

出典：福岡市民政局「ふくおか女性活躍NEXT 企業見える化サイト」

**⑤若者の転入超過数** [補完指標]

出典：福岡県「福岡県人口移動調査」

<指標の分析>

指標①について、若者率は「総人口」に占める「15歳から29歳の人口」の割合を算出したものであり、前回と比較すると0.2ポイント改善している。また、指標③については、全国の若者人口が4.4%減少しているのに対し、福岡市は0.7%増加しており、さらにその下の世代である「15歳未満の人口」も、全国で5.9%減少しているのに対し、福岡市は2.5%増加している。

指標⑤については、コロナにより一時的に滞っていた転入者の増加によるものと考えられる。引き続き状況を注視する必要がある。

また、指標②の企業における女性管理職比率は、徐々に増加しており、指標④の「ふくおか女性活躍NEXT 企業 見える化サイト」の登録企業数も2016年の開設以降増加しているが、引き続き登録企業の増加を図る必要がある。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------



#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●若者の体験・活動の場や機会づくり

子どもが将来を考える機会となる体験の場の充実 <再掲1-8>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが将来に夢や希望を持ち、新しいことにチャレンジする意欲を育成するために、アントレプレナーシップ教育を実施した。</li> <li>小学生については、様々な職業に従事する方の話を聴くことのできる動画を活用した「職業探究プログラム」を全校で実施した。</li> <li>中学生については、起業家等による講話の動画を活用した「未来を切り拓くワークショップ」を全校で実施した。</li> </ul> <p>*「将来の夢や目標をもっている」と答えた児童生徒の割合                      小学校 R3n : 80.1% → R4n : 79.2% 中学校 R3n : 70.1% → R4n : 69.9%</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業探究プログラムや未来を切り拓くワークショップ等で身に付けた力を各教科等の学習の中で活用する機会を設定する必要がある。</li> <li>アントレプレナーシップ教育については、小学校で実施した学習の成果を、中学校での学習につなげるために、教育課程の編成や教育内容を工夫改善する必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>アントレプレナーシップ教育について、各教科と関連させる、小中で連携して取り組むなど、計画的に位置づけることができるよう、教員向け説明会を実施する。</li> </ul>

若者の主体的・創造的な活動の推進 <再掲1-8>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ミニふくおか」については、事業開始以降、子どもがつくる仮想のまちにおいて、働いたり、学んだり、遊んだり、自由で主体的な活動を通して、子どもの主体性と協働性、コミュニケーション力を育てている。</li> </ul> <p>*「ミニふくおか」参加者数 R3n、R4n : 当日イベント中止                      ※R3n 及び R4n は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、内容を変更して実施</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの自由な発想と創造性を生かすことができるまちとなるよう機能の充実を図ることが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ミニふくおか」で、より一層主体的で創造的な活動ができるよう、また、多くの子どもたちに体験機会を提供できるよう、子どもたちそれぞれの役割や活動内容について引き続き検討する。</li> <li>引き続き、企業や大学等と連携し、福岡の将来を担う人材を育成する場や機会の提供に取り組む。</li> </ul>

●女性の活躍の場づくり

企業への支援や女性へのキャリアアップ支援を通じた女性の活躍推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性活躍に取り組む企業を紹介する「見える化サイト」の運営（H28.8開設） *登録企業数 R3n：307社 → R4n：337社</li> <li>・男性の育児休業取得促進事業 *公開セミナー R4n：参加者73人 *ワークショップ（2回） R4n：参加者11人（10社）</li> <li>・再就職を目指す女性向け講座の実施 *就職支援セミナー R3n：参加者41人 → R4n：参加者32人</li> <li>・リーダーを目指す女性向け講座の実施 *女性のキャリア形成支援セミナー R3n：参加者34人 → R4n：参加者46人</li> <li>・起業を目指す女性向け講座の実施 *女性のための起業ゼミ、女性の起業スキルアップセミナー R3n：参加者55人 → R4n：参加者29人 ※R4nは女性のための起業支援（ライフシフト）セミナーにて、スキルアップセミナーを実施。 *女性のための起業支援（ライフシフト）セミナー R4n：参加者23人</li> <li>・アミカス×スタカフェ交流会（起業家交流会）の開催 *R3n：参加者34人 → R4n：- ※R4nは女性のための起業支援（ライフシフト）セミナーにて、交流会を実施。</li> <li>・女性活躍推進に関する企業向け講演会の開催 *R3n：参加者113人 → R4n：参加者173人</li> <li>・社会貢献優良企業優遇制度（次世代育成・男女共同参画支援事業）の実施 *認定企業数 R3n：203社 → R4n：194社</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場における女性の活躍を推進していくためには、これまでの働き方を見直し、長時間労働の是正や有給休暇の取得促進など、企業における働きやすい環境づくりが重要。</li> <li>・女性活躍推進による企業のメリットを、経営者や管理職、人事担当者等に広く発信していくことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性活躍推進法及び「福岡市働く女性の活躍推進計画（第2次）」（福岡市男女共同参画基本計画（第4次））に基づき、女性の活躍を推進していく。</li> <li>・女性特有の健康課題や不妊治療等と仕事の両立に関する企業への啓発に取り組む。</li> <li>・ダイバーシティをテーマとする講演会を開催し、企業における女性の活躍への取組みを支援する。</li> <li>・企業における女性活躍への取組みの「見える化」の推進などに取り組む。</li> <li>・企業における男性の育児休業取得促進など、男性の意識改革の啓発に取り組む。</li> <li>・働く女性のキャリア形成支援及び再就職等を目指す女性のための講座や交流機会の提供に取り組む。</li> </ul>

●人材ネットワーク構築・活性化

産学官民連携による国際競争力強化事業 <再掲6-1>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>産学官民が一体となり設立された福岡地域戦略推進協議会（FDC）において、国際競争力強化に資する成長戦略を推進（国家戦略特区の活用や福岡都市圏の成長に資する事業の創出）するため、3部会（産業創造、デジタル、都市創造）及び会員ネットワークを活用したプロジェクトの検討・事業化に取り組むとともに、福岡スタートアップコンソーシアム、国際金融機能誘致 TEAM FUKUOKA 等を支援した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>3部会及び会員ネットワーク等を活用した、成果を見据えたプロジェクトの組成及び実施。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>特区の活用や地方創生に資するプロジェクトの重点的な実施及び会員企業の国際展開や域外企業の誘致に取り組むとともに、広域展開については、引き続き、既存の連携自治体との事業推進を行う。</li> </ul>



## 施策 7-6 大学や専門学校などの高等教育機関の機能強化

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●教育・研究機能の充実強化

##### 九州大学学術研究都市推進機構との連携 <再掲 8-2>

- ・学術研究都市セミナーの参加者数 R3n : 438 人 → R4n : 438 人

##### 伊都キャンパス周辺のまちづくり <再掲 8-2>

- ・元岡土地区画整理事業地区内の立地割合 R3n : 69.0% → R4n : 94.6%
- ・北原・田尻土地区画整理組合による、学園通線沿道の計画的なまちづくりの支援

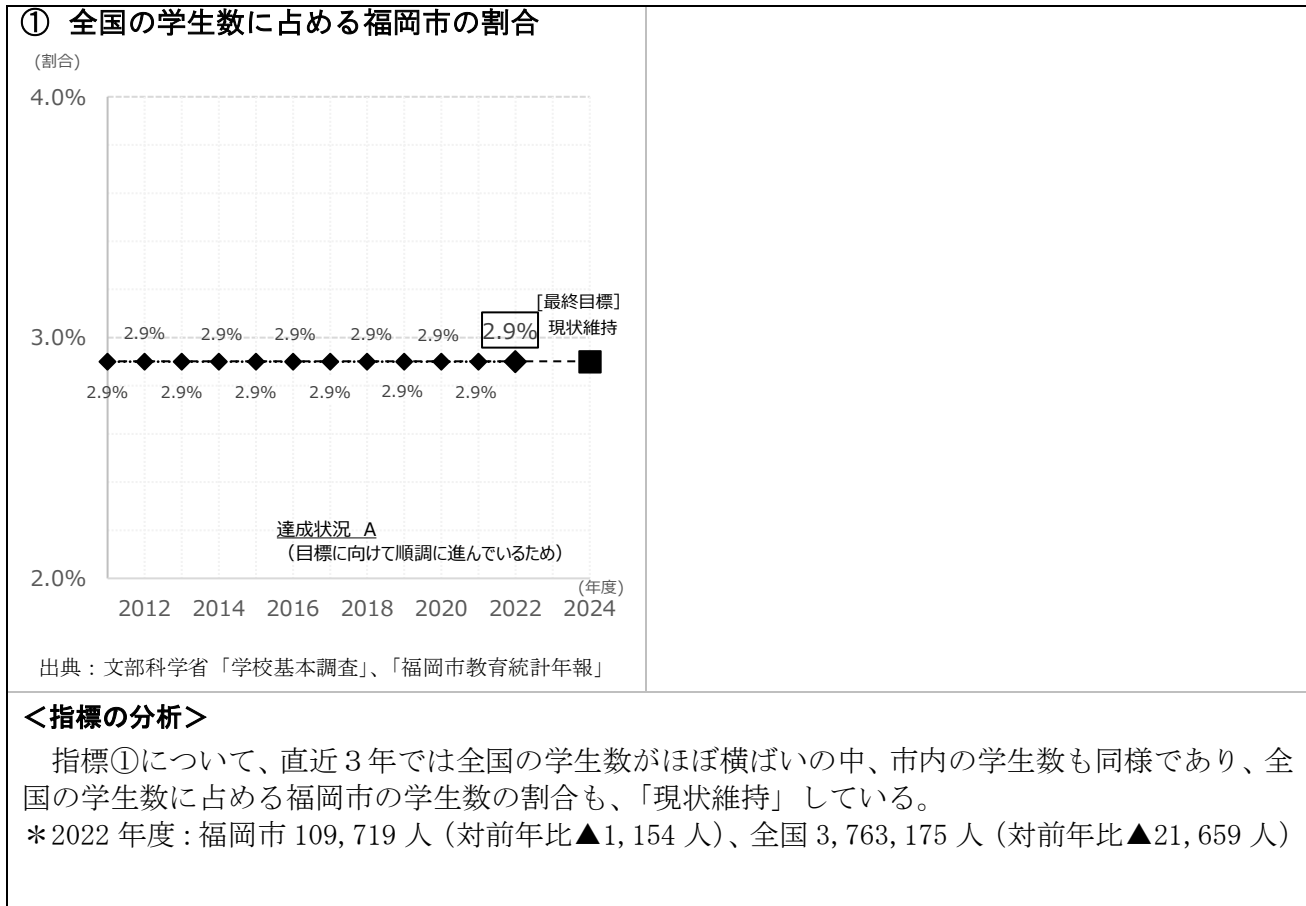
##### 大学と産業界との連携などによる若者の定着促進

- ・福岡未来創造プラットフォームホームページの年間アクセス数  
R3n : 244,864 → R4n : 205,709

##### 研究開発機能の集積及び科学技術実用化支援機能の活用 <再掲 6-1>

- ・有機光エレクトロニクス実用化開発センターと企業との共同・受託研究数  
R3n : 116 件 → R4n : 145 件
- ・福岡地域戦略推進協議会（FDC）の部会などによるプロジェクト創出支援

2 成果指標等



3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●教育・研究機能の充実強化

九州大学学術研究都市推進機構との連携 <再掲 8-2>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州大学学術研究都市推進機構（OPACK）と連携し、九州大学学術研究都市構想の推進を図っている。</li> <li>【OPACK の R4n の取組み】</li> <li>○学術研究に関する広報活動事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>*セミナーの開催回数 R3n：2回 → R4n：2回</li> <li>*セミナーの参加者数 R3n：438人 → R4n：438人</li> </ul> </li> <li>○産学官の共同研究による研究開発支援事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>九州大学の超高压電子顕微鏡等を民間企業へ開放し、産学官交流・連携の促進を図ることを目的とした「先端電子顕微鏡フォーラム」の運営等</li> <li>*参加企業数 R3n：7社 → R4n：8社</li> <li>*九大研究シーズ発表会等の開催回数 R3n：4回 → R4n：5回</li> <li>*九大研究シーズ発表会等の参加者人数 R3n：277人 → R4n：312人</li> </ul> </li> <li>○産学連携交流支援事業</li> <li>○研究機関等の立地支援事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>*企業誘致活動：112社訪問（H17n～R4n：合計1,716社）</li> <li>*企業向け現地説明会開催回数 R3n：22回 → R4n：13回</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州大学学術研究都市構想は、九州大学の移転完了の概ね 10 年後を目標年次としており、今後も学術研究都市における科学技術・新産業の創出を推進するための支援などに取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術研究都市づくりの状況等を踏まえながら、九州大学の知的資源を生かした新産業・新事業の創出などに、OPACK が中心となり、産学官が一体となって取り組む。</li> </ul>

伊都キャンパス周辺のまちづくり <再掲 8-2>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の成長を推進する「活力創造拠点」を創出するため、元岡地区などの九州大学伊都キャンパス周辺のまちづくりに取り組んだ。</li> <li>*元岡土地地区画整理事業地区内の立地割合 R3n：69.0% → R4n：94.6%</li> <li>*九大新町研究開発次世代拠点（いと Lab+）の建物竣工（R5.3）、開業（R5.4）</li> <li>*北原・田尻土地地区画整理事業の組合設立認可（H30.9）</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊都キャンパス周辺において、多様な施設の更なる立地が必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊都キャンパス周辺において、引き続き、まちづくりの支援に取り組む。</li> </ul>

大学と産業界との連携などによる若者の定着促進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡都市圏の大学、福岡商工会議所、福岡中小企業経営者協会、福岡市で構成する「福岡未来創造プラットフォーム」をR1.5に設立し、学生募集、人材育成、地元就職・定着などを図る取り組みを実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡未来創造プラットフォームホームページの年間アクセス数 R3n : 244,864 → R4n : 205,709</li> </ul> </li> <li>学生と地場企業のマッチングの場を創出することにより、学生の地元定着を促進。(参加者 : 1,735人)</li> <li>産学官連携による時代に即した教育プログラムの実施により、福岡の未来を担う人材を育成。(参加者 : 321人)</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡市は、14大学が立地する全国でも有数の大学集積地であり、大学は人材育成や地元定着を図ることで地域経済を支える基盤となっているが、少子化やグローバル化の進展などで大学の経営環境は厳しさを増しており、「大学のまち」の魅力を高める取組みを進めていくことが必要。</li> <li>福岡市内大学の理系学生就職者の約6割が県外に就職。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>さらに多くの学生が集うよう、福岡、九州だけでなく、全国の高校生に対し、福岡の大学及び都市の魅力を、福岡未来創造プラットフォームのホームページ等で発信する。</li> <li>さらなる若者の活躍や地元への定着をめざし、学生の人材育成や理系学生にも配慮した企業と学生との交流会等、社会のニーズに合った事業を推進。</li> </ul>

研究開発機能の集積及び科学技術実用化支援機能の活用 <再掲6-1>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>(公財)九州先端科学技術研究所(ISIT)、福岡市産学連携交流センター(FiaS)及び有機光エレクトロニクス実用化開発センター(i<sup>3</sup>-OPERA)などを拠点に産学連携を推進した。また、九大新町では、九州大学と連携した研究開発次世代拠点(いとLab+)が竣工(R5.3)し、R5.4に開業した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*ふくおか産学共創コンソーシアムによるセミナー等への参加者数 R3n : 364人 → R4n : 328人</li> <li>*福岡市産学連携交流センター等におけるよろず相談対応件数 R3n : 159件 → R4n : 122件</li> <li>*有機光エレクトロニクス実用化開発センターと企業との共同・受託研究数 R3n : 116件 → R4n : 145件</li> </ul> </li> <li>産学官民が一体となり設立された福岡地域戦略推進協議会(FDC)において、国際競争力強化に資する成長戦略を推進(国家戦略特区の活用や福岡都市圏の成長に資する事業の創出)するため、3部会(産業創造、デジタル、都市創造)及び会員ネットワークを活用したプロジェクトの検討・事業化に取り組むとともに、福岡スタートアップコンソーシアム、国際金融機能誘致TEAM FUKUOKA等を支援した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>九大新町を中心に、産学連携を推進する環境は形成されつつあり、引き続き、九州大学と連携した研究開発拠点の形成を図る必要がある。</li> <li>3部会及び会員ネットワーク等を活用した、成果を見据えたプロジェクトの組成及び実施。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>九大新町の産学連携交流センター及び研究開発次世代拠点を中心として、研究開発型企業等の成長支援や、大学の研究シーズを活用した事業化の支援に取り組む。</li> <li>特区の活用や地方創生に資するプロジェクトの重点的な実施及び会員企業の国際展開や域外企業の誘致に取り組むとともに、広域展開については、引き続き、既存の連携自治体との事業推進を行う。</li> </ul>



# 施策 8 - 1 都市の活力を牽引する都心部の機能強化

## 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

### ●都心部の機能強化と魅力づくり

#### 都心部のまちづくりの推進

- ★都心部機能更新誘導方策を地区計画(2件)及びビル計画(3件)に適用
- ★ビル計画(3件)については、天神ビッグバンボーナス・博多コネクティッドボーナスを認定
- ★適用案件(ビル計画)について事業の進捗に伴う調整を実施(着工3件、竣工2件)
- ★複数街区にまたがる、段階的および連鎖的なプロジェクトとして、計画概要書を受理(3件)
- ★都心部機能更新誘導方策の制度を改定し、みどりやアート等の誘導をさらに強化

#### ウォーターフロント再整備の推進

- ・マリンメッセ福岡において歩行者用上屋の整備を実施

#### 産学官民連携によるまちづくりの推進 <再掲7-4>

- ・エリアマネジメント団体(2団体)との共働事業の実施
- ・福岡地域戦略推進協議会(FDC)の部会などによるプロジェクト創出支援

#### セントラルパーク構想の推進 <再掲5-2>

- ・イベントの年間開催日数 R3n: 65日<sup>※</sup> → R4n: 105日<sup>※</sup>  
<sup>※</sup>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止あり
- ・福岡城整備基金寄付 積立総額: 139,738,248円 (R5.3月末時点)
- ・福岡高等裁判所跡地の公園整備に着手
- ・回遊性の向上のための整備を実施(園路や階段のバリアフリー化)

#### 浸水対策の推進(都心部の浸水対策等) <再掲3-2>

- ・雨水整備 Do プラン重点地区整備状況(55地区) H30n: 55地区(完了)
- ・雨水整備 Do プラン 2026 重点地区(33地区) 整備状況 R3n: 4地区 → R4n: 8地区
- ・雨水整備レインボープラン天神 進捗状況 R4n: 第2期事業実施中

### ●交通アクセシビリティ、回遊性の向上

#### 都心拠点間の交通ネットワーク強化 <再掲4-5>

- ・都心循環 BRT における利用促進方策などの検討

#### 都心部における交通マネジメント施策の推進 <再掲4-5>

- ・フリンジパーキングの確保及びポートレース福岡駐車場の活用にかかる検討

#### 快適で高質な都心回遊空間の創出 <再掲5-3>

- ・はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備(R5.3:完了)
- ・西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備と景観誘導(R4n:石畳整備一部区間完了)
- ・清流公園・春吉橋迂回路橋上広場における Park-PFI 制度の活用(R5.3:公募開始)
- ・リバーフロント NEXT を県と連携して推進(R4.10:共同発表)

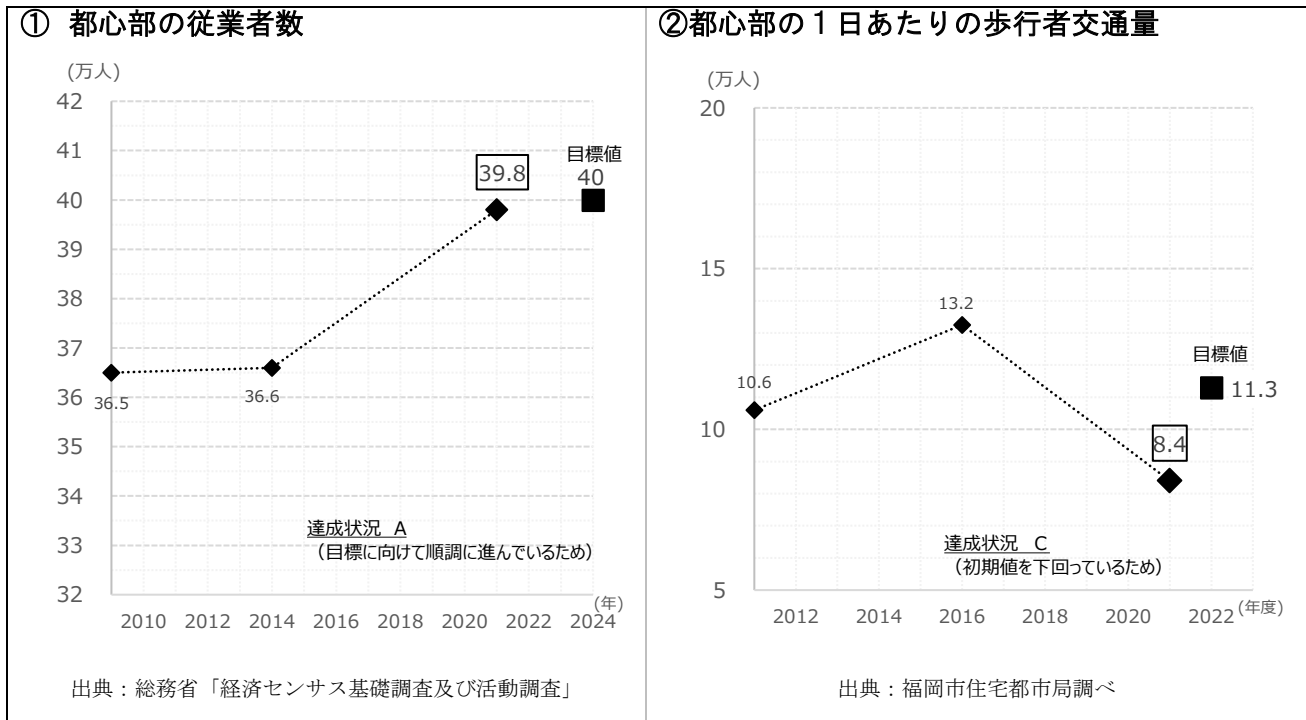
#### 観光バス受入環境の改善 <再掲5-6>

- ・樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数  
R3n: 0台<sup>※</sup> → R4n: 0台<sup>※</sup>  
<sup>※</sup>新型コロナウイルス感染症の影響により、外航クルーズ客船が寄港しなかったため

**天神通線整備事業**

★北側工区の一部用地取得

**2 成果指標等**



**<指標の分析>**

指標①については、2021年の従業者数は2009年より増加しており、順調に進んでいる。今後も、天神ビッグバンや博多コネクティッドにより、まちが大きく生まれ変わっていく中で、建替えに合わせ、水辺やみどり、文化・芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられる、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりを推進していくことでさらなる増加を目指す。

指標②については、都心部の機能強化や魅力づくりにより着実に増加していたものの、2021年度は大幅に減少している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出者が減少したことや、国の入国制限措置などに伴い外国人入国者数が大幅に減少したことが要因であると考えられる。

**3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」**

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●都心部の機能強化と魅力づくり

都心部のまちづくりの推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更新期を迎えたビルの建替え等の機会を捉え、都心部の機能強化と魅力づくりを図るため、まちづくりの取組みに応じて容積率の緩和を行う「都心部機能更新誘導方策」を活用する計画の具体化に向けた調整を実施。R4n は、都心部機能更新誘導方策を地区計画（2件）及びビル計画（3件）に適用した上で、ビル計画（3件）は、天神ビッグバンボーナス・博多コネクティッドボーナスを認定。</li> <li>・適用案件（ビル計画）について、事業の進捗に伴う調整を実施。R4n は、着工3件、竣工2件。</li> <li>・複数街区にまたがる、段階的および連鎖的なプロジェクトとして、計画概要書を受理（3件）</li> <li>・民間ビルの建替え時に、みどりやアート等の誘導をさらに強化するため、都心部機能更新誘導方策の制度を改定。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心部においては、警固断層等のリスクがあるなか、更新期を迎え、耐震性やセキュリティに課題を抱えているビルが多く残っており、それらを耐震性の高い先進的なビルへ建て替えることにより、多くの市民や、働く人・訪れる人の安全・安心につなげることが必要。</li> <li>・まちづくりを取り巻く環境の変化に対応しながら、「天神ビッグバン」および「博多コネクティッド」の推進など、官民連携によるスピード感をもった取組みを進めることが必要。</li> <li>・旧大名小学校跡地は、地域におけるこれまでの地域活動や災害時の避難場所としての役割を担う場所であるとともに、天神地区に隣接し、「天神ビッグバン」の西のゲートとして、都心部の機能強化と魅力づくりを図る上で重要な役割を担う場所でもあるため、跡地の活用にあたっては、今後も地域などの意見をいただきながら、地域にとって、福岡市の将来にとって、魅力的な場となるよう取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空法高さ制限の緩和や福岡市独自の規制緩和などによって、民間投資を喚起することで、耐震性が高く先進的なビルへの建替えを進めるとともに、水辺やみどり、文化・芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられる、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりを推進していく。</li> </ul>

ウォーターフロント再整備の推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マリンメッセ福岡において歩行者用上屋の整備を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の社会経済情勢やM I C Eの動向などを注視しながら検討を進めていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーターフロント再整備の推進については、ふ頭基部において、感染症対応シティや環境負荷低減などの視点を加え、市民や来街者が楽しめる魅力あるまちづくりの検討に取り組む。</li> </ul>

産学官民連携によるまちづくりの推進	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天神地区・博多地区において、魅力的なイベントの実施、回遊性向上や来街者のおもてなし、まちの美化、防犯・防災活動等のまちづくり活動を、地域・企業などが会員となって実施しているエリアマネジメント団体との共働により、都心部のにぎわい創出や魅力の向上、課題解決などのまちづくりに取り組んだ。</li> </ul> <p>&lt;エリアマネジメント団体（設立年度・会員数）の活動事例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ We Love 天神協議会（H18n・135 団体） フリンジパーキング社会実験、天神クリーンデーの開催 等</li> <li>・ 博多まちづくり推進協議会（H20n・183 団体） 和の博多（デジタルスタンプラリー）の開催、押し自転車の取組み、植栽管理事業（フラワーポット） 等</li> <li>・ 街路灯広告バナーの掲出に伴う収益や公開空地等を活用したイベントの収益の一部をエリアマネジメント団体の収入とすることなど、エリアマネジメント団体の自主財源の確保に取り組むとともに、引き続き、新たな自主財源の確保に向けて検討を実施。</li> <li>・ 産学官民が一体となり設立された福岡地域戦略推進協議会（FDC）において、国際競争力強化に資する成長戦略を推進（国家戦略特区の活用や福岡都市圏の成長に資する事業の創出）するため、3 部会（産業創造、デジタル、都市創造）及び会員ネットワークを活用したプロジェクトの検討・事業化に取り組むとともに、福岡スタートアップコンソーシアム、国際金融機能誘致 TEAM FUKUOKA 等を支援した。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリアマネジメント団体の設立から 10 年以上が経過し、定着化しつつある事業の継続的な実施が求められる一方で、多岐にわたる事業の選択と集中が必要。</li> <li>・ エリアマネジメント団体の自立的な運営に向け、公共空間を活用した取組みなど、自主財源拡大への継続した取組みが必要。</li> <li>・ 3 部会及び会員ネットワーク等を活用した、成果を見据えたプロジェクトの組成及び実施。</li> <li>・ 都心部再開発の工事期間中における、まちの変化に応じた賑わい創出が必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリアマネジメント団体との共働により、都心部の魅力の向上や課題解決に取り組む。</li> <li>・ 道路空間でのほこみち制度の活用等、公共空間での魅力的なイベントによる賑わいづくりや、エリアマネジメント団体の自主財源拡大に向けた取組みを引き続き支援していく。</li> <li>・ 都心部再開発の工事期間中においても、魅力あふれ訪れたいくなる地区となるよう、エリアマネジメント団体を実施する賑わいづくりの取組みを、引き続き支援していく。</li> <li>・ 特区の活用や地方創生に資するプロジェクトの重点的な実施及び会員企業の国際展開や域外企業の誘致に取り組むとともに、広域展開については、引き続き、既存の連携自治体との事業推進を行う。</li> </ul>

セントラルパーク構想の推進 <再掲5-2>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セントラルパーク基本計画（R1.6 策定）に基づき、大濠公園と舞鶴公園の一体的な整備や活用を推進。</li> <li>・舞鶴公園指定管理者の自主事業により、新たな利活用を推進した。</li> <li>・季節毎の賑わいを創出するため、多様な民間イベントの受入れ等を実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* イベントの年間開催日数 R3n：65日* → R4n：105日*</li> <li>* 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止あり</li> </ul> </li> <li>・大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的として、市と県等による大濠・舞鶴公園連絡会議を開催。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 開催回数 R3n：2回 → R4n：2回</li> </ul> </li> <li>・大濠公園と舞鶴公園の一体的な利活用を目的とした大濠・舞鶴公園事業者による連絡会議を開催。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 開催回数 R3n：1回 → R4n：1回</li> </ul> </li> <li>・舞鶴公園指定管理者の自主事業の充実等により、市民・企業との共働を促進した。</li> <li>・市民ボランティアと共働した事業や、「福岡城整備基金」の寄付促進の取組みを実施した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 積立総額：139,738,248円、寄付件数：2,197件（R5.3月末時点）</li> </ul> </li> <li>・サクラ・ウメの活性化等の見所づくりや、潮見櫓建物復元工事に着手した。</li> <li>・福岡高等裁判所跡地の公園整備に着手した。</li> <li>・回遊性の向上のため、園路整備（天守台～三の丸）や階段のバリアフリー化を実施した。</li> <li>・夜間の回遊性の向上を図るため、園路照明の整備を実施した。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や観光客が四季を通じて楽しめるようさらなる取組みが必要。</li> <li>・現地に電気・給排水設備が無いことがイベント主催者の負担になっている。</li> <li>・鴻臚館・福岡城エリアのさらなる魅力や認知度の向上が必要。</li> <li>・一体的な管理運営の実現に向けた大濠・舞鶴公園連絡会議の充実や、さらなる市民・企業等との共働の取組みが必要。</li> <li>・利活用を支える機能の充実については、将来の多様な利用ニーズにも対応できる計画とするとともに、計画的な財源確保が必要。</li> <li>・鴻臚館・福岡城の遺構の全容解明が必要。</li> <li>・史跡を活用した体験コンテンツの開発など、市民や観光客が福岡の歴史・文化を巡る環境整備や集客促進が必要。</li> <li>・福岡城整備基金については、より広域的な募集に向けた取組みが必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国史跡鴻臚館跡や福岡城跡、四季折々の花々を観光資源として活かしていくため、多様なイベントの充実により、季節を通じた賑わい創出に取り組む。</li> <li>・日常的に県民・市民、NPO、企業の知恵・労力・資金などを広く受入れ、効果的に活用していく仕組みづくりの検討を推進する。</li> <li>・基本計画に基づき、計画的に公園整備や史跡の発掘調査・復元整備を推進する。</li> <li>・着物や乗馬などの体験コンテンツの磨き上げやARなどのデジタルコンテンツの活用、イベントや MICE レセプション等を実施するなどユニークベニューとしての活用、昼夜を通して散策を楽しめる景観づくりや案内機能の充実化などに取り組む。</li> <li>・福岡城整備基金への寄付のリピーターを増やすとともに、イベント等と連携したPRにより、基金の認知度を上げる取組みを推進する。</li> </ul>

浸水対策の推進（都心部の浸水対策等） <再掲 3 - 2>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雨水整備D o プラン」及び「雨水整備レインボープラン天神」（第1期事業）に基づき、重点地区の主要施設整備が H30n 完了。R1n 以降も浸水に対する安全度の向上に向けて「雨水整備D o プラン 2026」及び「雨水整備レインボープラン天神」（第2期事業）に基づき、整備を実施。</li> <li>R3n : 63 地区 → R4n : 67 地区【目標 R6n : 81 地区】</li> <li>* 雨水整備D o プラン重点地区進捗状況 H30n : 55 地区 / 55 地区 進捗率 100% (完了)</li> <li>* 雨水整備D o プラン 2026 重点地区 (33 地区) 進捗状況 R3n : 4 地区 / 33 地区 進捗率 18% → R4n : 8 地区 / 33 地区 進捗率 36%</li> <li>* 雨水整備レインボープラン博多・天神進捗状況 H24n : 博多 (2 地区) 完了 H30n : 第1期事業 (2 地区) 完了 R1n ~ : 第2期事業 (1 地区) 実施</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、雨の降り方が、集中化・激甚化しており、浸水被害のリスクが増大している。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水に対する安全度の向上に向けて、「雨水整備D o プラン 2026」及び「雨水整備レインボープラン天神」（第2期事業）に基づき、引き続き、浸水対策に取り組んでいく。</li> </ul>

●交通アクセス性、回遊性の向上

都心拠点間の交通ネットワーク強化 <再掲 4 - 5>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心循環BRTにおける利用状況の現地調査や、市民の利用意向等を把握するためのWebアンケート調査を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス事業者と連携しながら、都心循環BRTの利便性向上や利用促進に取り組んでいくことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当面は現在の15分間隔運行を続けながら、Webアンケート調査の結果や、七隈線延伸の利用状況等を踏まえ、引き続き、バス事業者と連携しながら都心循環BRTの利便性向上や利用促進に取り組む。</li> </ul>

都心部における交通マネジメント施策の推進 <再掲 4 - 5>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H31. 3 から、ボートレース福岡駐車場および民間駐車場を活用し、天神で実施しているフリンジパーキングにおいて、利用者の利便性向上のため、R4. 11 から新たに対象駐車場を追加。（対象駐車場 R4n : 3 箇所）</li> <li>・ボートレース福岡駐車場において附置義務駐車場の隔地を受け入れることとし、駐車場の運用方法や事業手法等について検討を進めている。</li> <li>・エリアマネジメント団体等と連携し、公共交通の利用促進に向けた啓発活動などを実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリンジパーキングの利用者増加のため、利便性向上や認知度向上などが必要。</li> <li>・ボートレース福岡駐車場を活用した隔地駐車場の運用方法や事業手法等について、引き続き検討する必要がある。</li> <li>・平日の都心部への流入交通量は減少しつつあるものの、依然として道路交通の混雑が散見されるため、関係者と連携して着実に交通マネジメント施策を推進することが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリンジパーキングの利便性向上策の検討や自動車利用者に対する認知度向上に向けた広報など、利用者の増加に向けて取り組む。</li> <li>・ボートレース福岡駐車場を活用した隔地駐車場の運用開始に向け、関係局と協議を進めるとともに利用促進に取り組む。</li> <li>・引き続き、エリアマネジメント団体と連携し、公共交通の利用促進に向けた啓発活動や、交通混雑緩和に向けた交通マネジメント施策の検討などに取り組む。</li> </ul>

**快適で高質な都心回遊空間の創出 <再掲 5-3>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進。</li> <li>・ &lt;具体事業&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・ *はかた駅前通りの魅力づくりや回遊性向上に向けた道路整備 (R5.3:完了)</li> <li>・ *西中洲の魅力づくりに向けた石畳整備 (R4n:石畳整備一部区間完了)と景観誘導 (H30.10西中洲地区景観誘導街づくり計画登録)</li> <li>・ *清流公園・春吉橋迂回路橋上広場におけるPark-PFI制度の活用 (R5.3:公募開始)</li> <li>・ *リバーフロントNEXTを県と連携して推進 (R4.10:共同会見)</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、主要プロジェクトの開業・供用時期や民間ビルの開発機運などを捉えた戦略的な推進が必要。</li> <li>・ リバーフロントNEXTについては、エリア全体の回遊性向上や積極的な情報発信が必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、都心回遊に関する関係者間の事業の調整・情報共有とともに、周辺のまちづくりの動向等を踏まえ、事業の具体化に向けた検討を着実に推進する。</li> <li>・ リバーフロントNEXTを推進するため、県や関係部局等と密に連携しながら、施策効果の最大化を図る事業内容の検討や積極的な情報発信を行う。</li> </ul>

**観光バス受入環境の改善 <再掲 5-6>**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡タワー周辺における観光バスショットガン方式の運用。</li> <li>・ 樋井川河畔緑道観光バス駐車場の利用台数 R3n:0台* → R4n:0台*</li> <li>・ ※新型コロナウイルス感染症の影響により、外航クルーズ客船が寄港しなかったため。</li> <li>・ 博多区御供所地区の出来町公園における観光バス乗降場の運用。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クルーズ市場の動向を注視する必要がある。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。</li> <li>・ ※クルーズ市場の動向等を注視・分析し、その回復状況なども踏まえながら取り組む必要がある。</li> </ul>

**天神通線整備事業**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市計画決定 (南側: H25.8 告示、北側: R2.9 告示)。</li> <li>・ 北側工区については、R2n から事業着手し、用地取得を進めている。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北側工区については、周辺のまちづくりと併せた道路整備が必要。</li> <li>・ 整備効果を最大限発揮するため南側工区の早期整備が必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北側工区については、まちづくりと一体となった整備を進める。</li> <li>・ 南側工区については、R5n から事業着手し、整備を進める。</li> </ul>





## 施策 8-2 高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●先進的モデル都市アイランドシティのまちづくり

##### アイランドシティ整備事業

- ★まちづくりエリアの道路整備率 R3n : 89% → R4n : 89%
- ・共同住宅の供給戸数（累計） R3n : 4,875 戸 → R4n : 5,320 戸

##### 海とみどりを活かした住空間づくり <一部再掲 4-3>

- ★まちづくりエリアの土地引渡進捗率 R3n : 82% → R4n : 85%
- ・アイランドシティはばたき公園の段階的整備の推進 R4n : 園路や植栽等の整備

##### 健康のまちづくり

- ・健康関連の複合施設の進出が決定 (R4. 4)

##### 博多港の機能強化 <再掲 8-4>

- ・アイランドシティにおける拡張したコンテナヤードの供用開始 (R5. 3)
- ・アイランドシティみなとづくりエリアの道路整備率 R3n : 83% → R4n : 86%

#### ●九州大学学術研究都市構想の推進

##### 九州大学学術研究都市推進機構との連携

- ★学術研究都市セミナーの参加者数 R3n : 438 人 → R4n : 438 人

##### 九州大学移転に伴う西部地域のまちづくり

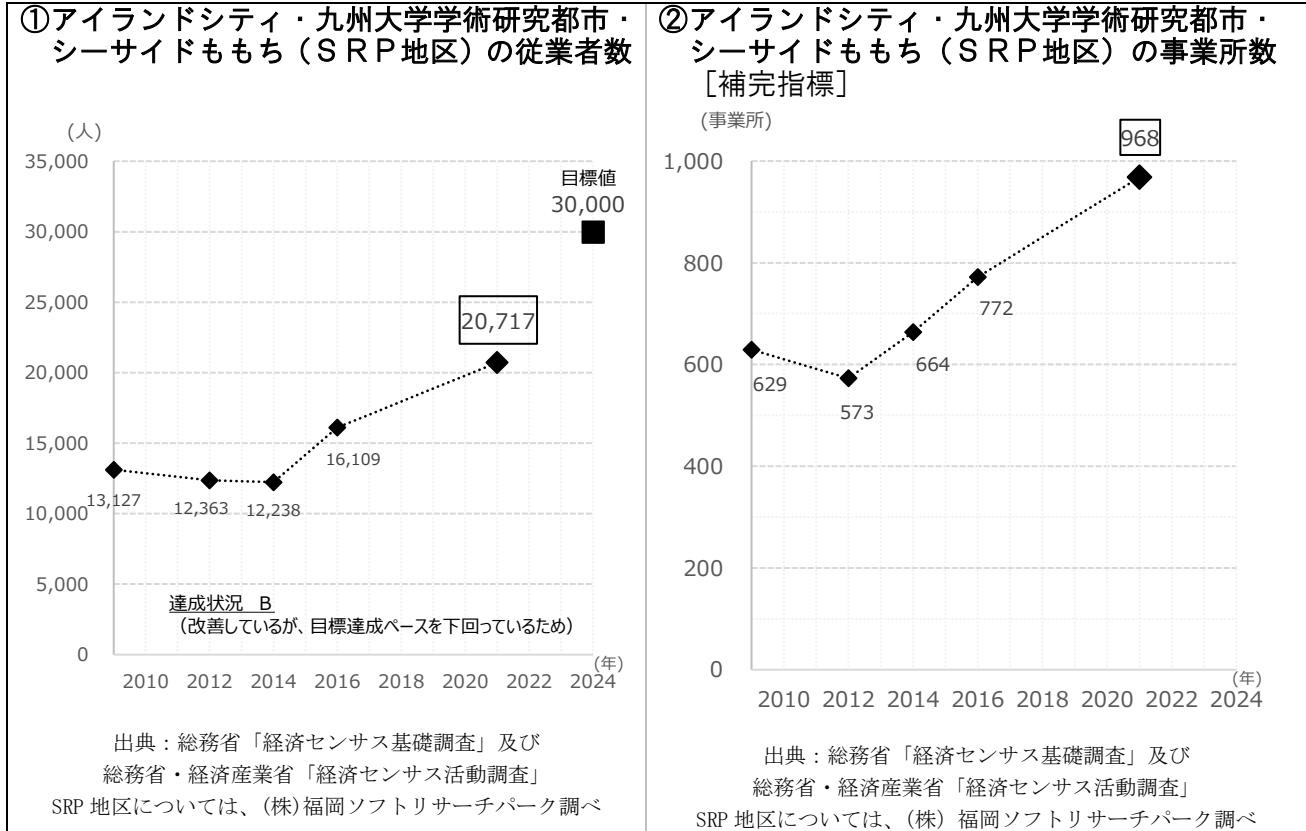
- ★元岡土地区画整理事業地区内の立地割合 R3n : 69.0% → R4n : 94.6%
- ・北原・田尻土地区画整理組合による、学園通線沿道の計画的なまちづくりの支援
- ★学園通線の整備 (R4n : 歩道舗装等を実施)
- ★周船寺川河川改修率 R3n : 47.2% → R4n : 47.6%
- ★水崎川河川改修率 R3n : 100.0%、R4n は付帯工事实施

#### ●シーサイドももち (SRP 地区) の拠点性の維持向上

##### IT・IoTの拠点としての活性化

- ・福岡DXコミュニティ 会員数 R3n : 796 → R4n : 933
- ・ふくおかDX祭り in SRP 参加人数 R3n : 960 人 → R4n : 402 人
- ・SRPオープンイノベーションラボでのセミナー開催数 R3n : 67 回 → R4n : 44 回
- ・福岡ソフトリサーチパーク IT 講座 開催数・参加人数 R3n : 3 回、160 人 → R4n : 1 回、62 人

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①及び②について、アイランドシティでは、道路等の基盤施設整備や土地引渡が進んだことにより、みなとづくりエリアにおいては物流施設が集積、まちづくりエリアにおいて、健康・医療・福祉関連施設等や商業・宿泊複合施設など、多様な都市機能の集積が進み、従業者数・事業所数ともに増加している。

また、九州大学学術研究都市では、九州大学の移転が完了したことにより、周辺地域の従業者数、事業所数ともに増加している。

さらに、シーサイドももち(SRP地区)では、従業員数及び事業所数は多少の増減があるものの、情報関連産業の集積を維持している。

3地区全体では、従業者数及び事業所数は増加している。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	[参考]前年度 ○：概ね順調
--------	-------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●先進的モデル都市アイランドシティのまちづくり

アイランドシティ整備事業	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋立は 99.8%、土地引渡は 84.9%進捗しており、人口は約 14,300 人、世帯数は約 5,000 世帯と順調にみなとづくり、まちづくりが進んでいる。</li> <li>まちづくりの進捗に合わせ、道路等基盤整備を実施。 *まちづくりエリアの道路整備率 R3n：89% → R4n：89%</li> <li>アイランドシティにおいて、良好な住宅市街地形成を促進するため、民間事業者の共同住宅の共同施設整備に対する助成を実施。 *共同住宅の供給戸数（累計）R3n：4,875 戸 → R4n：5,320 戸 *R4n：継続事業 2 件[878 戸]、新規事業 1 件[93 戸]</li> <li>R5.3 より、みなとづくりエリアへ路線バスの新規乗り入れが開始。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際物流拠点の形成や快適な居住環境の創出等に向け、道路等の基盤施設の整備を着実に進めていくことが必要。</li> <li>公共交通のさらなる充実・強化に取り組むことが必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地の引渡に向けて、土地造成や基盤整備を進めるとともに、快適な居住環境の創出や交通ネットワークの充実・強化などにより、みなとづくり、まちづくりを推進する。</li> <li>引き続き、交通事業者と連携しながら、バス路線の拡充など、利便性の向上に向けた取り組みを進めていく。</li> </ul>

##### 海とみどりを活かした住空間づくり <一部再掲 4-3>

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進的モデル都市としてまち全体で環境共生のまちづくりを推進している。 *まちづくりエリアの土地引渡進捗率 R3：82% → R4：85%</li> <li>アイランドシティはばたき公園の段階的整備を進めており、R4n は園路や植栽等を整備。あわせて、湿地エリアの管理運営について専門家の助言を受けるとともに、市民・NPO 等と連携した管理運営を目指し、市民参加の見学会等を開催。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイランドシティはばたき公園については、人と自然との共生を象徴する公園とするため、市民・NPO 等多様な主体との連携・共働を強化する必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境共生のまちづくりについては、立地事業者による太陽光発電設備の設置や ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）等の基準を満たす住宅の開発等を推進していく。</li> <li>アイランドシティはばたき公園については、段階的な整備を進め、湿地を中心とした「自然の成長を学ぶゾーン」の R6n 供用を目指す。</li> </ul>

##### 健康のまちづくり

進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康・医療・福祉分野の施設が集積するとともに、同分野の立地事業者が連携して、「健康フェスタ」などの取り組みが行われている。</li> <li>R4.4 に、分譲地（約 4.1ha）の提案公募の結果、健康関連の複合施設の進出が決定。</li> <li>R5.3 に、アイランドシティの立地事業者等の協力を得て、健康増進に寄与する「スタンプラリー」を開催。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>立地事業者による取り組みの継続や、同事業者と地域との連携強化が必要。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>立地事業者の取り組みに対して広報などの支援を行い、地域との連携を促進する。</li> </ul>

博多港の機能強化 <再掲 8-4>	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイランドシティコンテナターミナルにおいて、拡張したコンテナヤードを R5.3 に供用開始。さらに、円滑な物流ネットワークを形成するために必要となる臨港道路等の整備を実施。 *アイランドシティみなとづくりエリアの道路整備率 R3n : 83% → R4n : 86%</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際海上コンテナ取扱個数は、長期的に増加傾向で推移しており、R1 には約 96 万 TEU と過去最高を記録したが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテナ取扱個数の増加に対応するため、コンテナターミナルの機能強化に取り組む。</li> </ul>

●九州大学学術研究都市構想の推進

九州大学学術研究都市推進機構との連携	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州大学学術研究都市推進機構（OPACK）と連携し、九州大学学術研究都市構想の推進を図っている。</li> <li>【OPACK の R4n の取組み】</li> <li>○学術研究に関する広報活動事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>*セミナーの開催回数 R3n : 2 回 → R4n : 2 回</li> <li>*セミナーの参加者数 R3n : 438 人 → R4n : 438 人</li> </ul> </li> <li>○産学官の共同研究による研究開発支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>九州大学の超高压電子顕微鏡等を民間企業へ開放し、産学官交流・連携の促進を図ることを目的とした「先端電子顕微鏡フォーラム」の運営等</li> <li>*参加企業数 R3n : 7 社 → R4n : 8 社</li> <li>*九大研究シーズ発表会等の開催回数 R3n : 4 回 → R4n : 5 回</li> <li>*九大研究シーズ発表会等の参加者人数 R3n : 277 人 → R4n : 312 人</li> </ul> </li> <li>○産学連携交流支援事業</li> <li>○研究機関等の立地支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>*企業誘致活動 : 112 社訪問 (H17n~R4n : 合計 1,716 社)</li> <li>*企業向け現地説明会開催回数 R3n : 22 回 → R4n : 13 回</li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州大学学術研究都市構想は、九州大学の移転完了の概ね 10 年後を目標年次としており、今後も学術研究都市における科学技術・新産業の創出を推進するための支援などに取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術研究都市づくりの状況等を踏まえながら、九州大学の知的資源を生かした新産業・新事業の創出などに、OPACK が中心となり、産学官が一体となって取り組む。</li> </ul>

九州大学移転に伴う西部地域のまちづくり	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30.9に、人文社会科学系・農学系の移転により、九州大学の伊都キャンパスへの移転が完了した。</li> <li>・都市の成長を推進する「活力創造拠点」を創出するため、元岡地区などの伊都キャンパス周辺のまちづくりに取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*元岡土地地区画整理事業地区内の立地割合 R3n：69.0% → R4n：94.6%</li> <li>*九大新町研究開発次世代拠点(いとLab+)の建物竣工(R5.3)、開業(R5.4)</li> <li>*北原・田尻土地地区画整理事業の組合設立認可(H30.9)</li> </ul> </li> <li>・伊都キャンパスへのアクセス道路の整備や伊都キャンパス周辺の河川の改修を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*学園通線：R4n 歩道舗装等を実施</li> <li>*河川改修率(延長ベース) <ul style="list-style-type: none"> <li>周船寺川：R3n：47.2% → R4n：47.6%</li> <li>水崎川：R3n：100.0%、R4nは付帯工事実施</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊都キャンパス周辺において、多様な施設の更なる立地が必要である。</li> <li>・九州大学伊都キャンパスの整備や周辺まちづくりにより、雨水流出量の増加が見込まれるため、河川改修などの基盤整備の強化が必要。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*周船寺川：延長4,580m、計画期間H13n～R10n</li> <li>*水崎川：延長3,810m、計画期間H10n～R5n</li> </ul> </li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊都キャンパス周辺において、引き続き、まちづくりの支援に取り組む。</li> <li>・雨水排水の根幹をなす二級河川水崎川(R5n 完了予定)・周船寺川(R10n 完了予定)の整備を推進。</li> <li>・学園通線の全区間歩道部供用に向けて、事業を推進。</li> </ul>

### ●シーサイドももち(SRP地区)の拠点性の維持向上

IT・IoTの拠点としての活性化	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の活性化や拠点性の維持向上を推進するため、市の外郭団体である(公財)九州先端科学技術研究所(ISIT)及び株式会社ソフトリサーチパークと連携し、情報関連産業拠点であるSRP地区において、次の事業を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○産学官が参画・連携する「福岡DXコミュニティ」において、SRPセンタービルを拠点にワーキンググループやマッチング等の活動を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡DXコミュニティ会員数 R3n：769 → R4n：993</li> </ul> </li> <li>○DXの最新活用事例やソリューションの紹介による新たなサービスの創出に向けた、「ふくおかDX祭り in SRP」を開催。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*ふくおかDX祭り in SRP <ul style="list-style-type: none"> <li>参加人数 R3n：960人(オンライン・延べ人数) → R4n：402人</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○AI・IoTや、AR・VRなど、最新のICT技術を体験できる「SRPオープンイノベーションラボ」にて、セミナーを開催。R2.8以降は、リモート配信スタジオとハイブリッドイベントスペースとして運用。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*セミナー開催数 R3n：67回 → R4n：44回</li> </ul> </li> <li>○「福岡ソフトリサーチパークIT講座」として、技術者向けセミナーや市民向けイベントを開催。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡ソフトリサーチパークIT講座 開催数・参加人数 <ul style="list-style-type: none"> <li>R3n：3回・160人 → R4n：1回・62人</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報関連産業の拠点がSRP地区だけでなく交通利便性の高い天神地区や博多駅地区にも拡大しているため、SRP地区の魅力向上を図っていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SRP地区が情報関連産業拠点であることの認知度を向上するとともに、立地企業間での交流を促進し企業集積の効果を高めるため、SRP地区でのIT・DX関連セミナーやイベントを継続的に実施していく。</li> </ul>



## 施策 8 - 3 国際的なビジネス交流の促進

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●国際ビジネスの振興

##### 商談会や展示会による地場中小企業の国際ビジネス展開支援

★海外向けの商談会や展示会などの開催による商談件数 R3n : 538 件 → R4n : 817 件

##### グリーンアジア総合特区制度による国際ビジネス推進

・制度を活用した企業の設備投資額（特区全体） R3n : 3,714 億円 → R4n : 3,861 億円

・制度を活用した企業の新規雇用人数（特区全体） R3n : 1,906 人 → R4n : 2,067 人

##### グローバル展開を見据えた創業環境づくりの推進 <再掲 7 - 1 >

・スタートアップ拠点等との交流・連携数（総数） R3n : 15 拠点 → R4n : 15 拠点

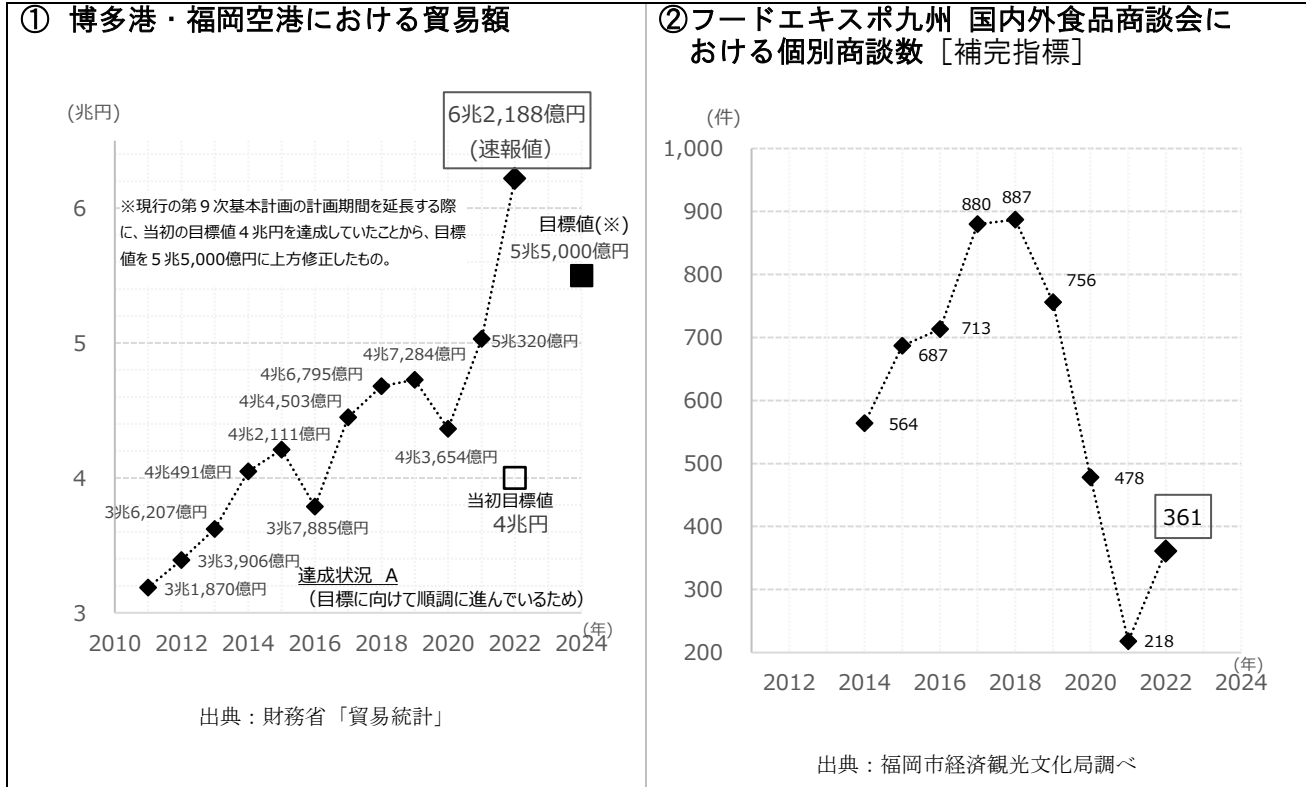
・参加・開催した主なイベント

R3n : 14 件（来場者数計 : 4,318 人） → R4n : 14 件（来場者数計 : 7,939 人）

・海外研修への参加者数

R3n : 85 名 → R4n : 80 名

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①は、博多港における電気機器（半導体電子部品）、輸送用機器（自動車）等の輸出額が増加したこと等により、前年と比べ大きく増加している。

指標②は、新型コロナウイルス感染症の影響等がありつつも、3年ぶりに会場開催となったこともあり、前年と比べ増加している。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------



#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●国際ビジネスの振興

商談会や展示会による地場中小企業の国際ビジネス展開支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場中小企業の海外販路拡大や、外国企業とのビジネス連携を支援するために、福岡アジアビジネス支援委員会や福岡フードビジネス協議会の活動、姉妹都市の関係を活かし、商談会や展示会、情報提供のためのセミナーなどを実施。 *商談件数 R3n: 538 件 → R4n: 817 件</li> <li>・福岡アジアビジネス支援委員会において、福岡商工会議所等と連携し、下記事業を実施（共催事業等を含む）。 *セミナー開催 R3n: 5 回 → R4n: 3 回 *商談会開催 R3n: 0 回 → R4n: 3 回</li> <li>・福岡フードビジネス協議会において下記事業を実施。 *共同出展 R3n: 3 回 → R4n: 1 回 (Food EXPO Kyushu2022)</li> <li>・アジア経済交流センター等事業において、地場中小企業の貿易実務やグローバル人材育成等の支援を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアのビジネス環境が大きく変化する中で、国際ビジネスを展開する企業のニーズが多様化しており、市単独では支援に必要な資源やノウハウの確保が困難。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際ビジネス支援を行う関係団体等との連携を深め、情報・サービスを相互に活用しながら、企業のニーズに応じて、事業の拡充や見直しを推進。</li> </ul>

グリーンアジア総合特区制度による国際ビジネス推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーンアジア総合特区制度を活用した取組みとして、RORO ターミナル整備などの事業を推進したほか、制度の活用促進に向けた制度活用説明会・個別相談会を開催し、環境を軸とした産業拠点の形成を進捗。 *制度を活用した企業の設備投資額（特区全体） R3n: 3,714 億円 → R4n: 3,861 億円 *制度を活用した企業の新規雇用人数（特区全体） R3n: 1,906 人 → R4n: 2,067 人</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業拠点形成の加速に向け、「グリーンアジア国際戦略総合特区」の支援制度（税制優遇等）の活用促進。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合特区制度の活用を促進するため、引き続きセミナーの開催などにより制度を周知。</li> </ul>

グローバル展開を見据えた創業環境づくりの推進 <再掲7-1>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインを活用した市内スタートアップの海外研修やイベント参加、海外展開の相談対応のほか、海外スタートアップ拠点との連携等により、海外展開を見据えた創業環境づくりを行った。</li> <li>  *スタートアップ拠点等との交流・連携数（総数）</li> <li>    R4n：15 拠点</li> <li>      アジア：台湾(3 拠点)、シンガポール、タイ</li> <li>      欧 米：エストニア (3 拠点)、ヘルシンキ(フィンランド)、</li> <li>          ボルドー(フランス)、サンクトペテルブルク(ロシア)、</li> <li>          バルセロナ(スペイン)、サンフランシスコ(アメリカ)</li> <li>      中 東：イスラエル</li> <li>      オセアニア：オークランド(ニュージーランド)</li> <li>  *参加・開催した主なイベント(R3n 及び R4n は一部対面で開催)</li> <li>    R3n：14 件（来場者数計：4,318 人）→ R4n：14 件（来場者数計：7,939 人）</li> <li>  *海外研修への参加者数(R4n は一部対面で実施)</li> <li>    R3n：85 名 → R4n：80 名</li> <li>・オンラインによる国際イベントの開催を通じて、国内外スタートアップのビジネスマッチング機会を創出。</li> <li>・コーディネーターによる海外とのビジネス具体化やマッチング支援を実施。</li> <li>・海外のスタートアップや投資家等に向け、WEB、SNS、メールマガジンにて情報を発信。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内スタートアップの海外展開事例が不十分。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外のスタートアップ、投資家、大手企業等を対象として、対面での交流・ビジネスマッチングができる場を創出する。</li> </ul>

## 施策 8 - 4 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●空港機能の強化、利便性向上

##### 滑走路増設と平行誘導路二重化の早期実現による空港機能強化

- ★福岡空港の滑走路増設について、用地造成、滑走路・誘導路・駐機場（エプロン）等の整備を実施
- ・福岡空港の国内線の平行誘導路二重化の運用開始（R2.1）

##### 福岡高速 3 号線延伸事業（福岡空港へのアクセス強化）

- ★R4n：福岡北九州高速道路公社において、測量及び設計等を実施

##### 福岡空港の利便性をより高める路線の誘致

- ・国内線路線数・便数(便/日) R3n：27 路線 370 便 → R4n：27 路線 388 便
- ・国際線路線数・便数(便/週) R3n：19 路線 672 便 → R4n：20 路線 858 便  
 （うち時刻表上運休 R3n：15 路線 648 便 → R4n：7 路線 270 便）

【各年度 3 月比較(福岡空港の時刻表より集計)】

##### 福岡空港における周辺環境対策の推進

- ・住宅騒音防止対策事業費助成（空調機更新台数） R3n：56 台 → R4n：60 台
- ・集会施設空調機機能回復等事業費助成 R3n：4 館 → R4n：3 館
- ・空港周辺地域におけるまちづくりの推進に向けた調査・支援を実施

#### ●港湾機能の強化、利便性向上

##### 博多港の機能強化

- ・アイランドシティにおける拡張したコンテナヤードの供用開始（R5.3）
- ★アイランドシティみなとづくりエリアの道路整備率 R3n：83% → R4n：86%

##### クルーズ受入環境の整備と港湾施設の再編

- ・中央ふ頭西側岸壁延伸部の全面供用開始（H30n）

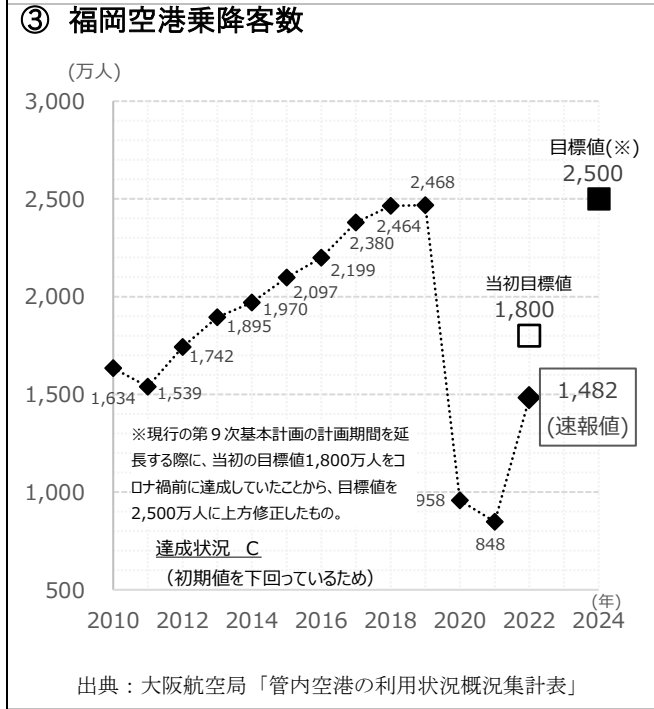
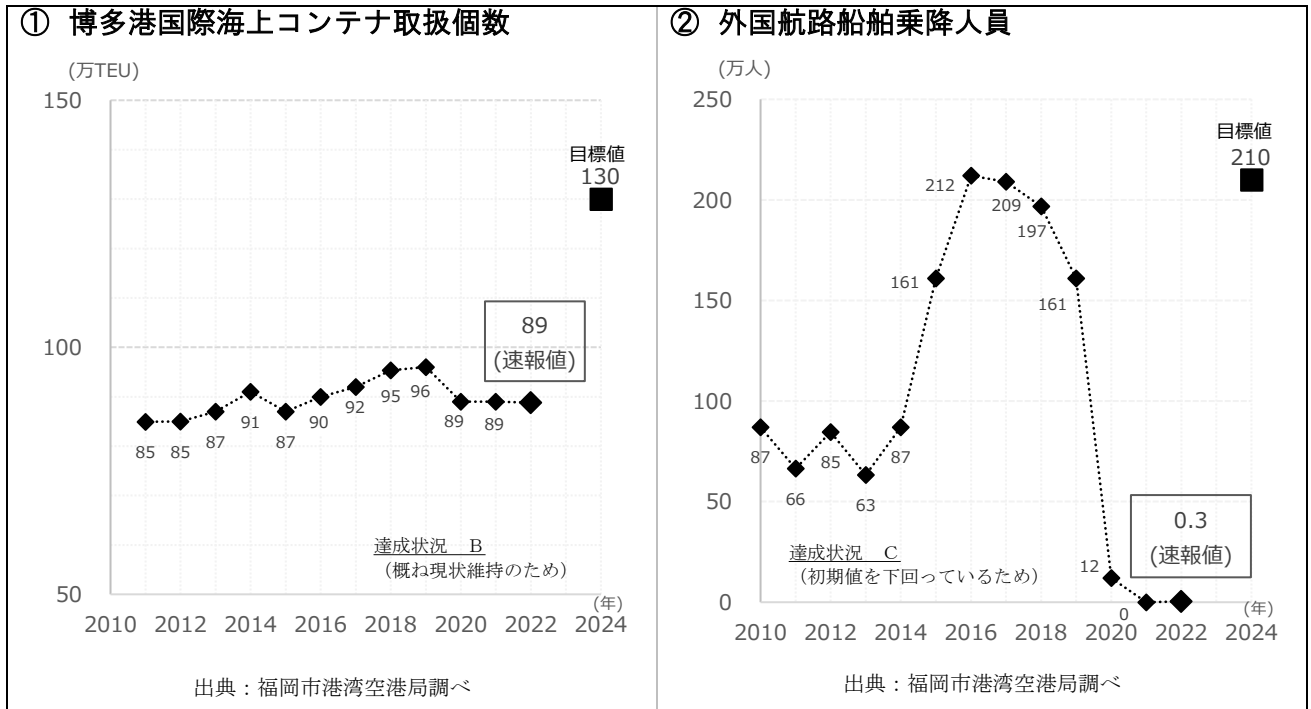
##### ポートセールス事業（物流 IT システムの活用、脱炭素化の取組みの PR 等）

- ・HiTS アクセス件数 R3：約 1,087 万回 → R4：約 1,122 万回

##### 博多港におけるカーボンニュートラルポートの形成推進

- ・カーボンニュートラルポート形成に向け、具体的な取組み等を検討

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①については、上半期は、コロナ禍による世界的な海上輸送の混乱やコンテナ運賃の高騰、半導体の供給不足等が続いたことに加え、ロシアにおける日本企業の事業停止や、上海市のロックダウンによる工場の操業停止等の影響を受け減少したが、下半期に入り、海外主要港の混雑の緩和やコンテナ運賃の下落等に伴い、荷動きが回復傾向となり、2022年は前年と同程度の約89万TEUとなっている。

指標②については、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等が緩和され、2022年11月から日韓定期航路が再開したところであり、微増となっている。

指標③については、2020年以降減少していたが、国内線・国際線ともに回復に転じ、前年比75%の増加となっている。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている	[参考]前年度 △：やや遅れている
-----------	----------------------

#### 4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

##### ●空港機能の強化、利便性向上

滑走路増設と平行誘導路二重化の早期実現による空港機能強化	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡空港の滑走路増設事業(H27n 事業着手)について、R4n は用地造成、滑走路・誘導路・駐機場(エプロン)等の整備を国が実施。</li> <li>福岡空港国内線の平行誘導路二重化は、R2.1 に運用開始し、R2.3 から1時間あたりの発着回数の上限値が38回に拡大された。</li> <li>滑走路増設事業拡張部に係る道路等の付替について、R3n に西月隈が、R4n に榎田がそれぞれ完了した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>増設滑走路のR6n 末供用開始に向けて、国と連携しながら事業を円滑に進めていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、増設滑走路のR6n 末供用開始に向けた取組みを国や県とともに推進していく。</li> </ul>

福岡高速3号線延伸事業(福岡空港へのアクセス強化)	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡北九州高速道路公社において、R3.4.1 に国の新規事業採択、R3.5.19 に国の福岡高速道路整備計画変更許可、R3.7.12 に国の都市計画事業認可の告示を受けて、事業に着手。</li> <li>R4n は測量及び設計等を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡空港の滑走路増設等の機能強化を見据え、空港へのアクセス強化等を図る必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、早期完成に向けた取組みを高速道路公社とともに進めていく。</li> </ul>

福岡空港の利便性をより高める路線の誘致	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響により、R2以降便数が減少していたが、国内線・国際線ともに回復に転じ、前年比75%の増加となった。</li> <li>*国内線路線数・便数(便/日) R3n : 27 路線 370 便 → R4n : 27 路線 388 便</li> <li>*国際線路線数・便数(便/週) R3n : 19 路線 672 便 → R4n : 20 路線 858 便 (うち時刻表上運休 R3n : 15 路線 648 便 → R4n : 7 路線 270 便)</li> </ul> <p style="text-align: right;">【各年度3月比較(福岡空港の時刻表より集計)】</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡空港は混雑空港に指定されており、新たな路線の就航や増便の余地は限られているが、今後、空港機能の強化により、発着回数の増加が可能となることを見据え、継続的かつ戦略的な路線誘致を展開していく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港運営会社等と連携し、増設滑走路の供用開始を見据え、福岡空港の利便性をより高める路線の誘致と、既存路線の維持・拡充に力をいれて取り組んでいく。</li> </ul>

福岡空港における周辺環境対策の推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港と周辺地域の調和ある発展をめざしたまちづくりを進めるため、関係者の理解と協力を得ながら、福岡空港の騒音防止対策及び周辺整備事業を国や県等とともに推進。</li> <li>*住宅騒音防止対策事業費助成(空調機更新台数) R3n : 56 台 → R4n : 60 台</li> <li>*集舎施設空調機機能回復等事業費助成 R3n : 4 館 → R4n : 3 館</li> <li>空港周辺地域におけるまちづくりの推進に向けた調査・支援を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡空港は市街地に立地し高い利便性を有する一方で、空港周辺地域においては、航空機騒音の発生や移転補償跡地の点在など地域の振興と活性化を図る上での課題がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者とともに、地域の意見を聞き、課題・ニーズを共有しながら、空港周辺地域の環境整備とまちづくりに取り組んでいく。</li> </ul>

● 港湾機能の強化、利便性向上

博多港の機能強化	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイランドシティコンテナターミナルにおいて、拡張したコンテナヤードを R5.3 に供用開始。</li> <li>さらに、円滑な物流ネットワークを形成するために必要となる臨港道路の整備を実施。</li> <li>*アイランドシティみなとづくりエリアの道路整備率 R3n : 83% → R4n : 86%</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際海上コンテナ取扱個数は、長期的に増加傾向で推移しており、R1 には約 96 万 TEU と過去最高を記録したが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンテナ取扱個数の増加に対応するため、コンテナターミナルの機能強化に取り組む。</li> </ul>

クルーズ受入環境の整備と港湾施設の再編	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、国において、中央ふ頭西側岸壁の延伸が進められ、H30.9 に供用を開始。これにより、世界最大級のクルーズ船の着岸や、組み合わせによっては 2 隻同時着岸が可能となった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際定期やクルーズを取り巻く状況（旅客回復状況や市場動向など）を注視する必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際定期機能の移転については、国際定期の運行状況や社会経済情勢などを踏まえ、検討を進めるとともに、クルーズ機能強化については、クルーズ市場や寄港の回復状況などを踏まえ、中長期的に検討する。</li> </ul>

ポートセールス事業（物流 IT システムの活用、脱炭素化の取組みの PR 等）	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>博多港物流 IT システム（HiTS）の荷主等との IT 連携を進め、博多港利用者の物流効率化及び利便性向上を図った。</li> <li>*HiTS アクセス件数 R3 : 約 1,087 万回 → R4 : 約 1,122 万回</li> <li>コンテナターミナルにおける脱炭素化の取組みとして、港湾運営会社によるトランスファークレーンの電動化（R4n までに全 26 基完了）やストラドルキャリアのハイブリッド化（全 17 台中 6 台完了）を実施。</li> <li>これらの取組みを含め、博多港の強みや利用のメリット等を広く PR し、ポートセールス活動を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き新型コロナウイルス感染症の影響や、国際情勢の変化に伴う物流の動向を注視しながら、集荷・航路誘致に取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>港湾運営会社と連携し、博多港物流 IT システム（HiTS）を活用した物流効率化や脱炭素化に取り組むとともに、アジア地域をはじめとする国際コンテナ定期航路の誘致や集荷拡大に取り組む。</li> </ul>

博多港におけるカーボンニュートラルポートの形成推進	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>博多港の脱炭素化を促進するカーボンニュートラルポートの形成に向けた計画を策定するため、博多港の関係者で構成する協議会を設置し、具体的な取組みなどの検討を進めている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラルポートの形成にあたっては、官民が連携して取組みを推進していく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンニュートラルポートの形成に向けた計画を、R5n に策定するとともに、照明の LED 化や船舶におけるバイオ燃料導入の実証実験、陸上電力供給設備の導入検討など、脱炭素化の取組みを進めていく。</li> </ul>

## 施策 8-5 グローバル人材の育成と活躍の場づくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●グローバル人材の育成・集積

##### グローバル人材の育成 <一部再掲 1-8>

★アジア太平洋子ども会議・イン福岡 (APCC) の招へい国・地域数

R3n : 20 개국・地域 (バーチャル型 ※) → R4n : 21 개국・地域 (バーチャル型 ※)

※R3n、R4n は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、派遣事業は中止。招へい事業は、対面から WEB を活用したバーチャル型に変更して実施。

- ・「今よりもっと英語で自分の言いたいことを伝えたり、相手の言いたいことを理解できるようになりたい」と回答した児童の割合 (小 4) R3n : 88.2% → R4n : 88.8%
- ・英語チャレンジテスト 英検 3 級相当以上の生徒の割合 (中 3) R3n : 71.5% → R4n : 58.8%
- ・スタートアップ奨学金の新規受給者数 R3n : 6 人 → R4n : 6 人

##### 留学生の育成・定着促進

★外国人留学生等の地元企業就職支援事業の参加留学生数 R3n : 18 人 → R4n : 40 人

##### 留学生の呼び込み・ネットワーク拡充

- ・福岡市内の大学・短大に在籍する留学生数 R3n : 3,327 人 → R4n : 3,291 人

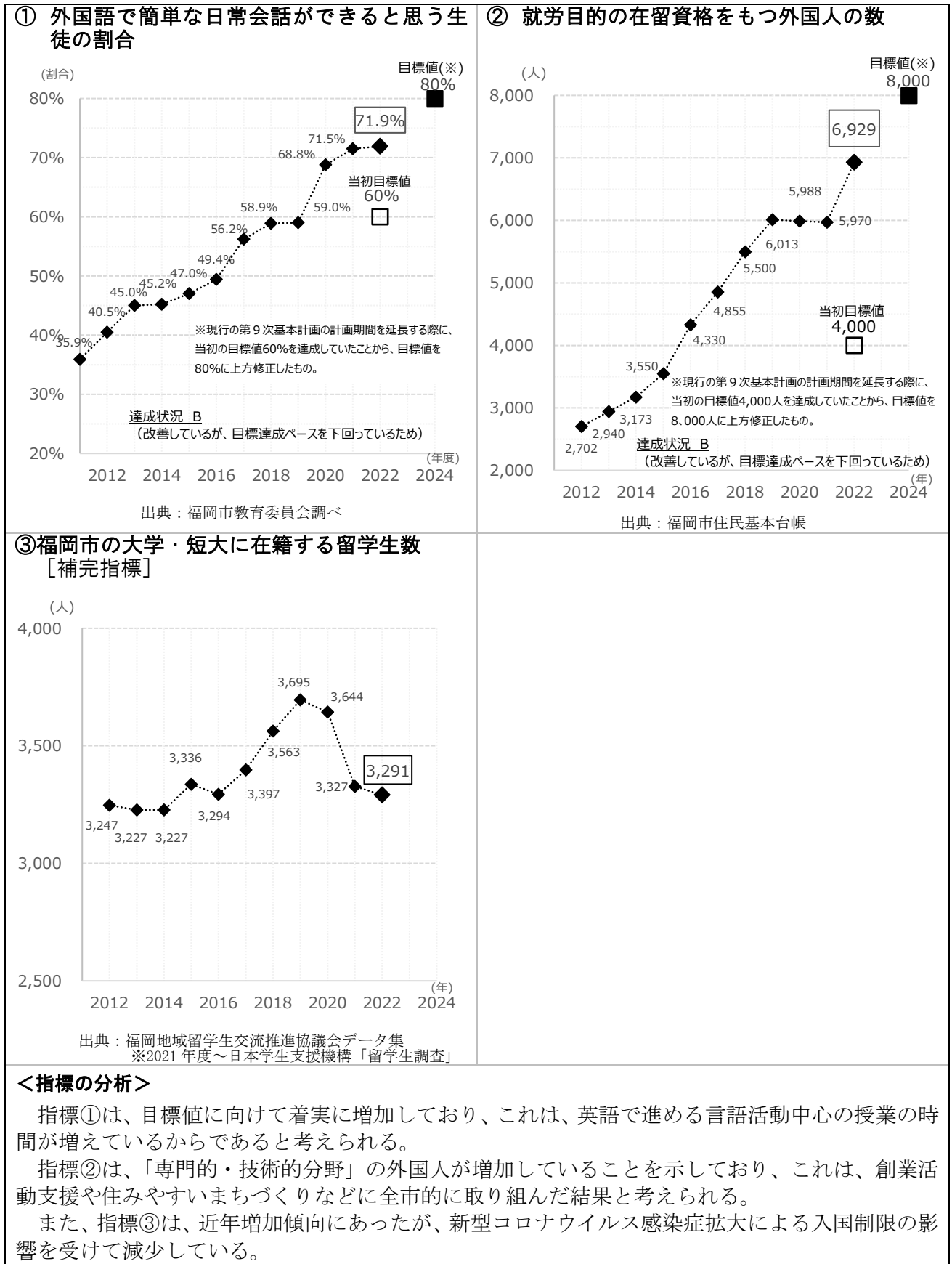
##### 外国人の創業活動支援 <再掲 7-1>

- ・スタートアップビザにかかる確認申請数 R3n : 9 人 → R4n : 14 人

##### エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進 <再掲 6-1>

- ・コミュニティ勉強会等参加者数 R3n : 3,492 人 → R4n : 4,201 人
- ・エンジニアカフェの運営、人材育成及びイベント等の実施
- ・エンジニア等を対象に AI 等の研修及び実践訓練を実施

2 成果指標等



<指標の分析>

指標①は、目標値に向けて着実に増加しており、これは、英語で進める言語活動中心の授業の時間が増えているからであると考えられる。

指標②は、「専門的・技術的分野」の外国人が増加していることを示しており、これは、創業活動支援や住みやすいまちづくりなどに全市的に取り組んだ結果と考えられる。

また、指標③は、近年増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大による入国制限の影響を受けて減少している。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------



4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●グローバル人材の育成・集積

グローバル人材の育成 <一部再掲 1-8>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人アジア太平洋子ども会議・イン福岡 (APCC) が実施する、アジア太平洋諸国の子どもたちのための事業に対する支援を行った。  <ul style="list-style-type: none"> <li>*新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、派遣事業は中止。招へい事業は、対面からWEBを活用したバーチャル型に変更し、下記のとおり実施。</li> </ul> </li> <li>・オンラインを活用し、「世界中に友達を作ろう」をテーマに、海外のこども大使 (11 歳前後のこども) と FUKUOKA KIDS (公募で選ばれた福岡の小学 4~6 年生) が、自国の食べ物や環境問題を調べ、お互いに発表し合いながら異文化について学ぶ全 5 回のプログラムを実施。</li> <li>・小学校において、1 学級につき、ゲストティーチャーを 3 年生に年間 18 時間、4 年生に年間 8 時間、ネイティブスピーカーを 5・6 年生に年間 30 時間程度配置し、生きた英語に触れ、慣れ親しむ機会が増えることで、コミュニケーション能力の基礎を育成。  <ul style="list-style-type: none"> <li>*「今よりもっと英語で自分の言いたいことを伝えたり、相手の言いたいことを理解できるようになりたい」と回答した児童の割合 (小 4) R3n:88.2% → R4n:88.8%</li> </ul> </li> <li>・中学校全学年にネイティブスピーカーを 1 学級あたり年間 30 時間程度配置し、生きた英語を学ぶ機会を充実させることで、コミュニケーション能力の基礎を育成。  <ul style="list-style-type: none"> <li>*英語チャレンジテスト英検 3 級相当以上の生徒の割合 (中 3) R3n : 71.5% → R4n : 58.8%</li> </ul> </li> <li>・スタートアップ奨学金 (福岡よかトピア国際交流財団) により、日本人大学生の海外留学を促進するとともに、地域に必要なグローバル人材の地元への定着と地域の国際競争力の強化を図った。  <ul style="list-style-type: none"> <li>*スタートアップ奨学金の新規受給者数 R3n : 6 人 → R4n : 6 人</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・中学校の学びを円滑に接続するため、小学校での英語に慣れ親しむ活動をさらに充実させるとともに、中学校での導入期の学習の工夫、「話すこと (やりとり)」の指導の充実が必要である。</li> <li>・若者 (高校生・大学生) が国際感覚を身につける機会の創出が必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人アジア太平洋子ども会議・イン福岡 (APCC) については、引き続き、招へい事業等に対する支援を行うとともに、事業の円滑な実施のため、APCC との密接な連携を継続する。</li> <li>・小学校 3・4 年生にゲストティーチャー、5・6 年生にネイティブスピーカーを配置し、外国の言語や文化に対する体験的な理解などを促進するとともに、コミュニケーション能力の素地の育成を推進。</li> <li>・小中学校の教員同士で授業見学を行う、CAN-DO リストを共有するなど、小中をつないだ外国語教育の充実を図る。</li> <li>・中学校等において、デジタル教科書等の ICT を効果的に活用し、目標や場面、状況に応じた言語活動を充実させ、英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を図る。</li> <li>・若者をグローバル人材として育成するため、姉妹都市との交流事業や福岡アジア文化賞を活用するなど、国際感覚を身に着ける機会を提供していく。</li> </ul>

**留学生の育成・定着促進**

<p><b>進捗</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金及び福岡市国際会館留学生宿舍（福岡よかトピア国際交流財団）により、留学生の学習環境の整備と生活支援を行った。</li> <li>・産学官が連携して留学生の呼び込み・育成・定着を促進する「グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム」の運営を行った。</li> <li>・「留学生の在留資格の規制緩和」を活用し、福岡での就職を希望する留学生等を留学生の採用を希望する地元企業に派遣し、就業体験を行う「留学生等を対象とした有償の長期就業体験事業」を実施し、留学生の地元企業への就職を支援した。                      ＊外国人留学生等の地元企業就職支援事業の参加留学生数 R3n：18人→R4n：40人</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡で就職したいという留学生のニーズが高いにも関わらず、市内の大学・大学院を卒業後に地元企業へ就職する留学生は少なく、多くの優秀な留学生が福岡から流出している。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム」を活用し、産学官が連携して留学生を育成し地元企業への就職と福岡への定着を促進する。</li> <li>・インターンシップ事業において、受け入れる地元企業の開拓のために企業向けセミナー等を実施する。</li> </ul>

**留学生の呼び込み・ネットワーク拡充**

<p><b>進捗</b></p>	<p>【地方創生推進交付金事業（横展開タイプ）】                      外国人材の受入・共生事業（高度外国人材獲得推進事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ASEAN地域や内陸アジア地域の学生を対象に、福岡市内大学等と連携してオンラインで福岡留学の魅力を発信した。</li> <li>・福岡市内大学に在籍する留学生の福岡に留学するに至った経緯や実際の留学生活についての物語を、市の公式ホームページ上に、日本語、英語、留学生の母国語で公開し、海外の学生に向けて福岡留学の魅力をPRした。                      ＊重要業績評価指標（KPI）                      ・福岡市内の大学・短大に在籍する留学生数 R3n：3,327人→R4n：3,291人</li> <li>・Facebook ページを活用し、市内の大学・大学院で学ぶ留学生と福岡との継続的なつながりを維持・強化するためのネットワーク拡充を図った。</li> <li>・優秀な留学生の呼び込みと地元への定着を促進するため、「福岡市国際財団奨学金」5期生を決定し、企業との交流事業などへ参加させた。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市の特性や強みを活かした留学生の呼び込みについて、手法の検討が必要。</li> </ul>
<p><b>今後</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインイベントや SNS 等を活用した福岡市への留学の PR により、留学先としての福岡市のまちなかのプレゼンスを高めるとともに、「福岡市国際財団奨学金」や「グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム」を活用し、産学官が連携して、グローバル人材のさらなる呼び込み強化を図る。</li> </ul>

外国人の創業活動支援 <再掲7-1>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人起業家への支援として、国家戦略特区を活用した在留資格「経営・管理」申請時の要件緩和による「外国人創業活動促進事業（スタートアップビザ）」（H27.12開始以降申請 93人※R5.3末）及び経済産業省から認定された在留資格「特定活動」を活用した「外国人起業活動促進事業（新しいスタートアップビザ）」（H31.2開始以降申請 26人※R5.3末）を実施した。</li> <li>また、「外国人創業環境形成事業」により住居及び事務所の確保支援を行った。</li> <li style="padding-left: 20px;">*スタートアップビザにかかる確認申請数 R3n：9人 → R4n：14人</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の国家戦略特区の規制緩和等も活用して、世界一チャレンジしやすい都市を目指した取り組みが必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家戦略特区における規制改革（スタートアップビザ、雇用労働相談センター、人材マッチングセンター、スタートアップ法人減税等）の活用や開業ワンストップセンター等の新たな規制改革の提案に加え、住居及び事務所の確保支援やスタートアップカフェ等を活用した施策を充実させ、福岡市スタートアップ・パッケージとして戦略的・総合的に推進する。</li> </ul>

エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進 <再掲6-1>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジニアの交流拠点「エンジニアカフェ」では、コミュニティマネージャーを中心に、エンジニアからの相談対応やコミュニティ支援、イベント等の開催を実施した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*コミュニティ勉強会等参加者数 R3n：3,492人 → R4n：4,201人</li> <li>*相談件数 R3n：415件 → R4n：520件</li> <li>*来場者数 R3n：10,958名 → R4n：18,397名</li> </ul> </li> <li>・福岡のエンジニアを取り巻く環境の充実や、エンジニアコミュニティ文化の発展に貢献する取組み等を行う者を表彰する「エンジニアフレンドリーシティ福岡アワード」を実施した。</li> <li>・地場企業からメンター派遣などの協力を得て、地元の学生を対象に人材育成プログラムを実施した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*修了者数 R3n：23名 → R4n：26名</li> </ul> </li> <li>・学生やエンジニア等の技術力向上を促進させるとともに、学生やエンジニア、エンジニアコミュニティ間の交流の場を作ることで、時代のニーズに応じたプロダクトを生み出すクリエイティブな人材の発掘及び育成を図るため、開発コンテスト「Engineer Driven Day(エンジニアドリブンデイ)」を開催した。</li> </ul> <p><b>【地方創生推進交付金（横展開タイプ）】</b></p> <p>「エンジニアフレンドリーシティ福岡の推進」深化・高度化事業          エンジニアが集まる場の提供、ウェブサイトやSNSによるエンジニアの情報発信、イベント・セミナー等の開催に加え、ワーケーション施策と連携したエンジニアの移住促進、福岡未来創造プラットフォームと連携した学生の呼び込み等の取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*重要業績評価指標（KPI）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトプット創出件数 R4n 実績値：78件</li> <li>・IT人材を確保できている市内IT企業の割合 R4n 実績値：-（R7.1頃調査予定）</li> <li>・エンジニアビザを活用して入国した外国人エンジニア数 R4n 実績値：-（制度創設に向け国と協議中）</li> <li>・本事業に参画した県外エンジニアや学生の数 R4n 実績値：2,939人</li> </ul> </li> </ul> <p>Society5.0を支えるAIエンジニア支援          AIエンジニアの育成を支援するため、エンジニア等を対象にAI等の研修、実践訓練及びイベント等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*重要業績評価指標（KPI）           <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業への参加後、AI関連業務に従事した人の割合 R3n 実績値：7% → R4n 実績値：(R5.12月頃調査予定)</li> <li>・研修修了者数（人） R3n 実績値：128人 → R4n 実績値：82人</li> <li>・研修開催回数 R3n 実績値：19回 → R4n 実績値：28回</li> <li>・実践訓練における課題解決数 R3n 実績値：0件 → R4n 実績値：0件</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだコミュニティの活動を活性化する必要がある。</li> <li>・社会全体でデジタル化・DX化の推進が求められており、最新テクノロジー等を活用した、新サービス・製品を開発するためには、適切なサービス設計が重要となっている。</li> <li>・スタートアップや中小企業においては、新卒を育成する余力がなく、即戦力となる中途採用が中心となっており、人材の確保ができていない。一方、理工系学生の約6割が県外に流出している。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「エンジニアカフェ」を中心に、新たなコミュニティの組成やコミュニティ間の交流等を促し、ネットワークづくりやコミュニケーションをより活性化させ、エンジニアが学び成長し、活躍できる機会を増やすなど、エンジニアを取り巻く環境の充実を図る。</li> <li>・先端技術やビジネス等の知見に長けたスタッフを「エンジニアカフェ」に配置し、サービス設計等を支援するとともに、新サービス・製品の開発に資する人材の育成・集積に取り組む。</li> <li>・これまで実施してきた、福岡市AIエンジニア支援事業の成果を活用し、受講者のコミュニティを中心に、AIの技術情報や、事例の共有など技術向上に資する支援を行う。</li> </ul>



## 施策 8-6 アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●ビジネス展開に向けた国際貢献・国際協力の推進

##### 廃棄物埋立技術や下水道システム、節水型都市づくりなどの強みを活かした国際貢献

- ・国際会議・国際機関等を通じた広報活動件数（累計） R3n：24 件 → R4n：27 件
  - ・技術協力職員派遣延べ人数
    - 環境分野 R3n：0 人 → R4n：5 人
    - 下水道分野 R3n：0 人 → R4n：14 人
    - 水道分野 R3n：1 人 → R4n：0 人
- ※別途、オンラインを活用した技術協力を実施

##### 国際貢献を通じた地場企業のビジネス機会創出

- ★福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム会員企業との連携活動件数（累計）  
R3n：37 件 → R4n：39 件

#### ●プレゼンスの向上に向けた国際貢献・国際協力の推進

##### 国連ハビタット福岡本部の支援

- ・国連ハビタット福岡本部に対する財政支援及び同本部への福岡市職員派遣の実施

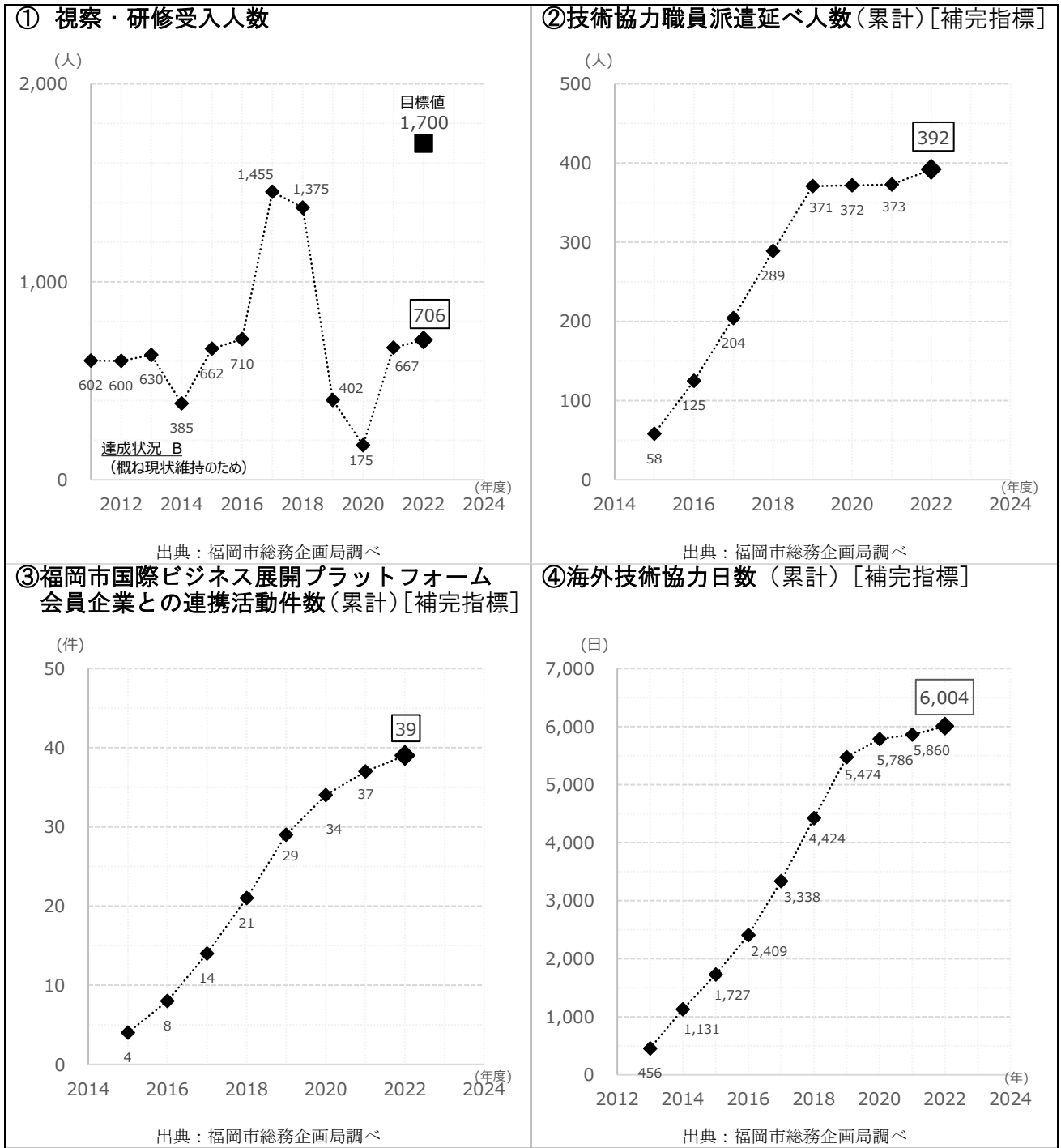
##### アジア太平洋都市サミットの開催

- ・国連ハビタット福岡本部と共同で、「第 13 回アジア太平洋都市サミット」を開催

##### 福岡アジア文化賞の開催

- ・授賞式、市民フォーラム、学校訪問等を実施

2 成果指標等



< 指標の分析 >

指標①については、2020年度より開始したオンライン研修を2022年度も継続しつつ、入国制限の緩和を受け、11月より対面での視察受入を再開。受入人数は2021年度より増加した。指標③については、福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム会員企業との連携活動件数は順調に増加していることから、官民連携した地場企業のビジネス機会の創出に向けた取組みが順調に図られていると考えられる。指標②及び指標④については、前年度に引き続き、オンラインを活用した技術協力を実施するとともに、入国制限の緩和を受け、職員派遣や研修生受入を通じた対面による技術研修の促進も図った。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●ビジネス展開に向けた国際貢献・国際協力の推進

廃棄物埋立技術や下水道システム、節水型都市づくりなどの強みを活かした国際貢献	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・URCにて視察・研修受入を実施（706名）。               <ul style="list-style-type: none"> <li>*国際会議・国際機関等を通じた広報活動件数（累計）R3n：24件 → R4n：27件</li> </ul> </li> <li>・これまで、各分野における福岡市の強みを生かし、JICA 課題別研修をはじめ各種研修受入の実施とともに、技術職員の派遣も行ってきた。R4nは、R3nに引き続き、オンラインを活用した技術協力を行うとともに、入国制限の緩和に伴い、対面による技術協力も徐々に復活させた。               <ul style="list-style-type: none"> <li>環境分野：WEB 技術協力延べ日数 7 日、来日技術協力延べ日数 54 日、派遣延べ日数 14 日</li> <li>（国連ハブタット事業：ミャンマー・ヤンゴン市における ODA を活用した「福岡方式」整備事業）</li> <li>下水道分野：WEB 技術協力延べ日数 12 日、来日技術協力延べ日数 15 日、派遣延べ日数 12 日</li> <li>（世界銀行プロジェクト：「下水道管理システムの改善にかかる技術協力（インド）」）</li> <li>（JICA 課題別研修：「下水道システム維持管理」）※オンライン併用</li> <li>（JICA 事業：「技術協力プロジェクト（フィジー共和国）」）※オンライン</li> <li>水道分野：WEB 技術協力延べ日数 5 日、来日技術協力延べ日数 11 日</li> <li>（JICA 課題別研修：「上水道無収水量管理対策（漏水防止対策）」）※オンライン併用</li> <li>*技術協力職員派遣延べ人数 R3n：環境 0 人、下水道 0 人、水道 1 人 → R4n：環境 5 人、下水道 14 人、水道 0 人</li> </ul> </li> <li>・ヤンゴン市に、福岡市独自で技術職員を長期派遣（H29.2～）</li> <li>・福岡方式オンラインセミナー（第 13 回アジア太平洋都市サミットプログラム）を実施 114 名視聴。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際貢献・協力を担う人材の育成が必要。</li> <li>・視察・研修受入については、入国制限の緩和に伴い、オンライン研修を継続しつつ、対面での受入についても、視察先との調整を適切に行う必要がある。</li> <li>・ミャンマーについては情勢の先行きが不透明となっている。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境、下水道、水道分野で設置している国際貢献に関する自主的職員組織（ワーキンググループ等）を通じて人材の育成を図る。</li> <li>・オンラインを活用し、引き続き、技術協力の取組みを実施する。ミャンマーにおける取組みについては、日本政府の方針などを踏まえ対応を判断していくべく、状況を注視していく。</li> <li>・視察・研修受入については、国際情勢の動向を注視しつつ、引き続き受入人数増加に向けた PR 活動等の取組みを実施する。</li> </ul>

国際貢献を通じた地場企業のビジネス機会創出	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際貢献を通じた官民連携のビジネス展開をめざして設立した「福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム」の枠組みを活用し、ヤンゴン市におけるODA案件の獲得等、地場企業のビジネス機会創出に向けた取組みを推進してきた。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>*福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム会員企業との連携活動件数 R3n : 37 件 → R4n : 39 件</li> </ul> </li> <li>ODA を活用したヤンゴン市廃棄物埋立場の「福岡方式」整備事業を実施 (H31. 4~R5. 3)。事業実施において、本市地場企業が参画。</li> <li>地場企業のビジネス展開支援として、個々の企業戦略に沿った支援 (JICA 中小企業支援など) を獲得するため、会員企業の個別ヒアリングを実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外ビジネス展開の対象となる相手地域との更なる関係強化及び案件受注にかかる更なるノウハウの蓄積が必要。</li> <li>国では「インフラシステム海外展開戦略 2025」(R2. 12 策定)において、インフラシステムの輸出など、中小企業の海外展開の支援、先進地方自治体が地場企業の海外展開の支援と国際貢献の取組みを後押ししている。国内の他の自治体でも官民連携した取組みが進められており、相当なスピード感を持って取り組む必要がある。</li> <li>ミャンマーについては情勢の先行きが不透明となっている。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォームを通じた官民連携による展開活動や、外部専門家の知見の活用を通して案件受注にかかるノウハウの蓄積を図る。</li> <li>国際貢献、技術協力を通じて相手地域との関係を一層強化するとともに、オンラインも活用しながら、国や JICA、プラットフォーム会員企業、地元経済団体等と連携し、地場企業の具体的ビジネス機会の創出と獲得を図る。</li> <li>ミャンマーにおける取組みについては、日本政府の ODA の方針などを踏まえ対応を判断していくべく、状況を注視していく。</li> </ul>

●プレゼンスの向上に向けた国際貢献・国際協力の推進

国連ハビタット福岡本部の支援	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連ハビタット福岡本部に対する財政支援等を行うとともに、同本部への福岡市職員の派遣を実施。</li> <li>R4n は、国連ハビタット福岡本部と共同で第 13 回アジア太平洋都市サミットを開催し、福岡市の国際貢献・国際協力を広く世界に発信した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡市のさらなる国際的なプレゼンス向上のために、ハビタットのもつ世界的なネットワークを活用し、福岡市が有する技術・ノウハウを広く世界へ発信するとともに、継続してアジアの都市問題解決に寄与する必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>国連ハビタットとの連携強化を図るため、引き続き、国連ハビタット福岡本部に対する財政支援等を行うとともに、同本部への福岡市職員の派遣を実施する。</li> <li>今後も国連ハビタット福岡本部との連携を進め、アジア太平洋地域における都市問題解決に寄与し、福岡市のプレゼンスを向上させていく。</li> </ul>



アジア太平洋都市サミットの開催	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>R4n は、「新しい価値観、新しいまちへ」をテーマに、第 13 回アジア太平洋都市サミットをオンライン開催し、13 ヶ国 33 都市の参加のもと、R3n の特別版の議論を踏まえ、コロナ禍を乗り越えた先の新しいまちづくりについて議論した。さらに、世界銀行や OECD 等国際機関や企業・大学といった多様な主体の参画を図ることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 12 回サミット・第 13 回サミットに多くの都市や国際機関が参加したことで、アジア太平洋地域におけるサミットのプレゼンスが高まりつつある。しかし、国際化が進む現在、数多くの国際会議が存在している中で、より多くの首長が参加する選ばれる会議となるよう、会議の実効性や魅力をさらに高め、より一層のプレゼンス向上を図っていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的な都市間連携による都市問題の解決と SDG s の推進に貢献するアジア太平洋都市サミットの理念を、提唱都市としてリーダーシップを発揮し、具現化していく。</li> <li>国連ハビタットをはじめとした国際機関や日本政府と連携し、都市問題の解決やビジネス案件組成といった実効性を高める具体的な成果を出していくことで、SDG s の推進に資する国際会議と認知され、多くの首長や企業が参加する、持続可能でプレゼンスの高い国際会議にしていく。</li> <li>次回サミットは R6n に鹿児島市で開催予定。</li> </ul>

福岡アジア文化賞の開催	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>本賞創設以来、受賞者は 121 名（28 か国・地域）を数え、後にノーベル賞を受賞されるなど、世界的に活躍する多くの受賞者を輩出するとともに、H16n 以降、秋篠宮皇嗣同妃両殿下に授賞式にご臨席いただくなど、これまで長い歴史を積み重ねてきたことで、国内外において権威ある賞として評価を得られるようになった。また、アジア文化について市民の理解を深めるために、授賞式だけではなく、受賞者による市民フォーラムや学校訪問などの取組みを毎年続けてきており、これまでに多くの市民に参加いただき、市民レベルでのアジアとの交流促進に繋がっている。</li> <li>R4n は、3 年ぶりに海外受賞者を含む全ての受賞者が来日した上で、授賞式や市民フォーラム、学校訪問などの公式行事を開催した。また、授賞式や市民フォーラムのオンライン配信を行ったことで、海外の方々や若い世代の視聴に繋がった。また、福岡アジア美術館と Artist Cafe Fukuoka ギャラリーにて、芸術・文化賞受賞者の作品展示を行ったほか、歴代受賞者の招聘事業を実施した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡アジア文化賞の認知度（理解度）の向上と参加者の増加</li> <li>若い世代がアジアの文化に触れる機会を促進</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの市民が文化賞に興味を持ち、公式行事に参加いただくために、文化賞委員、関係者・関係機関、大学等への参加の働きかけを強化するとともに、多様な広報媒体を活用し、効果的な情報発信を行う。</li> <li>引き続き授賞式や市民フォーラムのオンライン配信を行うとともに、福岡アジア文化賞に対する理解を深めてもらうため、映像を効果的に活用するなどの工夫を行う。</li> <li>若い世代にアジア文化に触れる機会を提供するため、大学との連携を推進する。</li> </ul>



# 施策 8-7 釜山広域市との超広域経済圏の形成

## 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

### ●連携・交流の促進

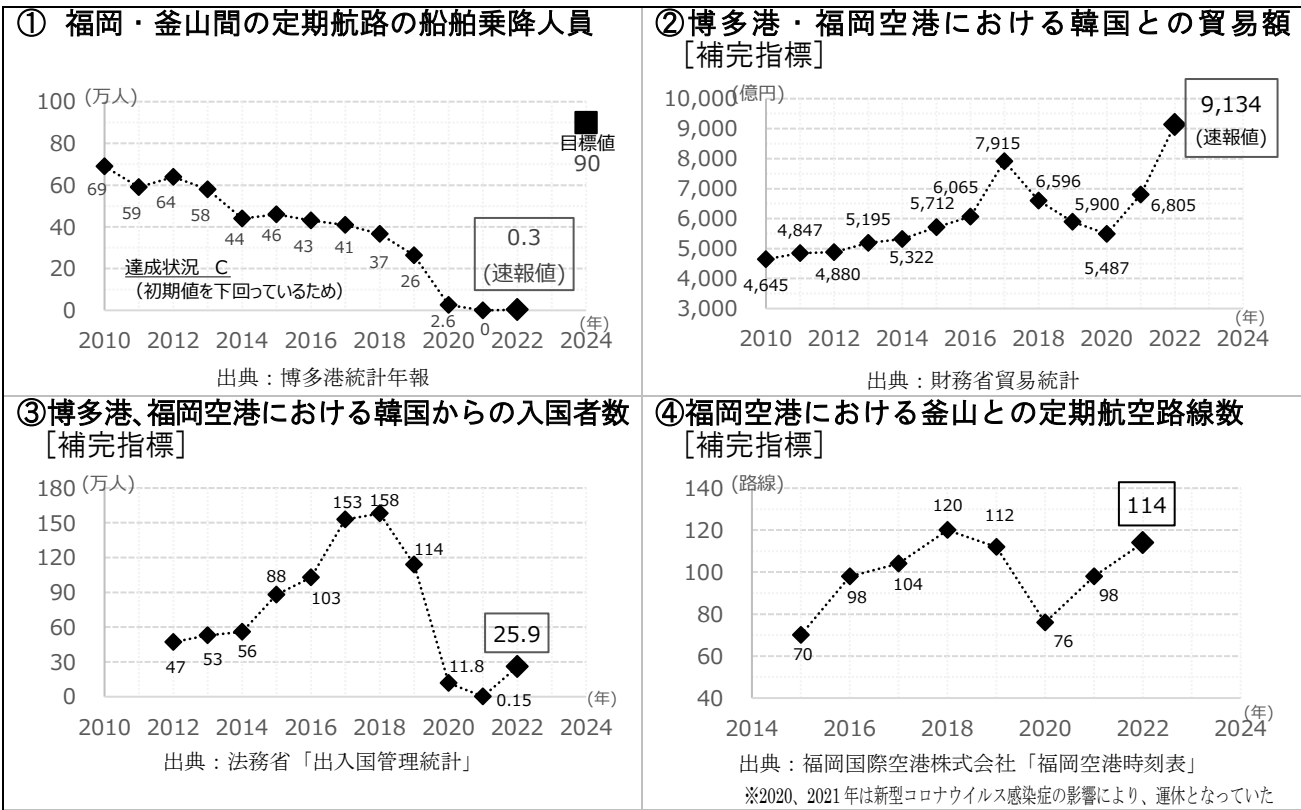
#### 釜山市とのビジネス交流

・経済協力事務所相談件数 R3n：30回 → R4n：23回

#### 学生などの相互派遣による交流

・釜山広域市へ選手団を派遣 R4n：派遣見送り (R3n：派遣見送り)

## 2 成果指標等



### <指標の分析>

指標①は、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等が緩和され、2022年11月から日韓定期航路が再開したところであり、微増となっている。

指標②は、2018年以降減少となっていたが、前年に引き続き増加となった。電気機器（半導体等電子部品）等の輸出額が増加したことが主な要因と考えられる。

指標③④は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う国の入国制限が緩和されたことにより、増加に転じた。

## 3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている	[参考]前年度 △：やや遅れている
-----------	----------------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●連携・交流の促進

釜山市とのビジネス交流	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>釜山広域市と福岡市の庁舎内にそれぞれ設置している福岡・釜山経済協力事務所（H22 設置）において、協力事業の総合的な支援を実施。</li> <li>*経済協力事務所相談件数 R3n：30回 → R4n：23回</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>超広域経済圏形成の共同宣言（H20）の後、両市の民・官分野の交流の活性化を図り、様々な協力事業を実施したが、成果出現まで時間を要する事業も多い。</li> <li>釜山は製造業中心の都市で、福岡市と産業構造が異なることもあり、ビジネス交流におけるミスマッチが生じやすい。</li> <li>国家間の情勢に影響を受ける。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>両市に設置されている経済協力事務所の活用により、両市のビジネス等の情報発信を行う。</li> <li>両市間の産業構造等に留意しながら次世代企業のマッチング、事業提携につなげていく。</li> </ul>

学生などの相互派遣による交流	
進捗	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福岡市・釜山広域市中・高校生スポーツ交流大会」において、選手団の派遣と受入を隔年で実施。R4n は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施が見送りとなった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福岡市・釜山広域市中・高校生スポーツ交流大会」については、新型コロナウイルス感染症の状況等に留意しながら、実施の可否を検討する。</li> </ul>

## 施策 8 - 8 アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり

### 1 事業の進捗状況

★は政策推進プランに掲げる目標値等

#### ●外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくり

##### 在住外国人への行政・生活情報の提供、多言語・やさしい日本語対応

- ★転入手続き時の生活ガイダンスの実施箇所数：8ヶ所
  - ・福岡市ホームページにおける情報発信（5言語・やさしい日本語）
  - ・電話通訳・映像通訳（テレビ電話通訳）を区役所等に導入
  - ・AI多言語音声翻訳アプリを区役所に設置
  - ・就学状況不明者の外国人訪問調査対象人数 R4n：76人
  - ・就学案内チラシの多言語・やさしい日本語化を実施（6言語）

##### 在住外国人への日本語教育の推進

- ★個別の日本語指導計画目標を達成した児童生徒の割合 R3n：84.4% → R4n：83.5%
  - ・児童生徒に日本語指導を行う教員の数 R3n：27人 → R4n：27人
  - ・日本語指導拠点校の数 R3n：小学校4校・中学校4校 → R4n：小学校4校・中学校4校
  - ・日本語ボランティアを対象とした研修の受講者数 R3n：49人 → R4n：91人
  - ・福岡市内及びその周辺にある日本語教室の数 R3n：56教室 → R4n：58教室

##### 在住外国人に対する暮らしのサポート（相談・医療・教育等）

- ・21の外国語に対応する「福岡市外国人総合相談支援センター」のフリーダイヤル化及びLINEコールを活用した電話相談の実施
- ・「福岡市医療通訳コールセンター」を設置
- ・災害時における「福岡市災害時外国人情報支援センター」の設置
- ・「新型コロナウイルス外国語相談ダイヤル」を設置
- ・7の外国語に対応する「新型コロナワクチン接種コールセンター」を設置

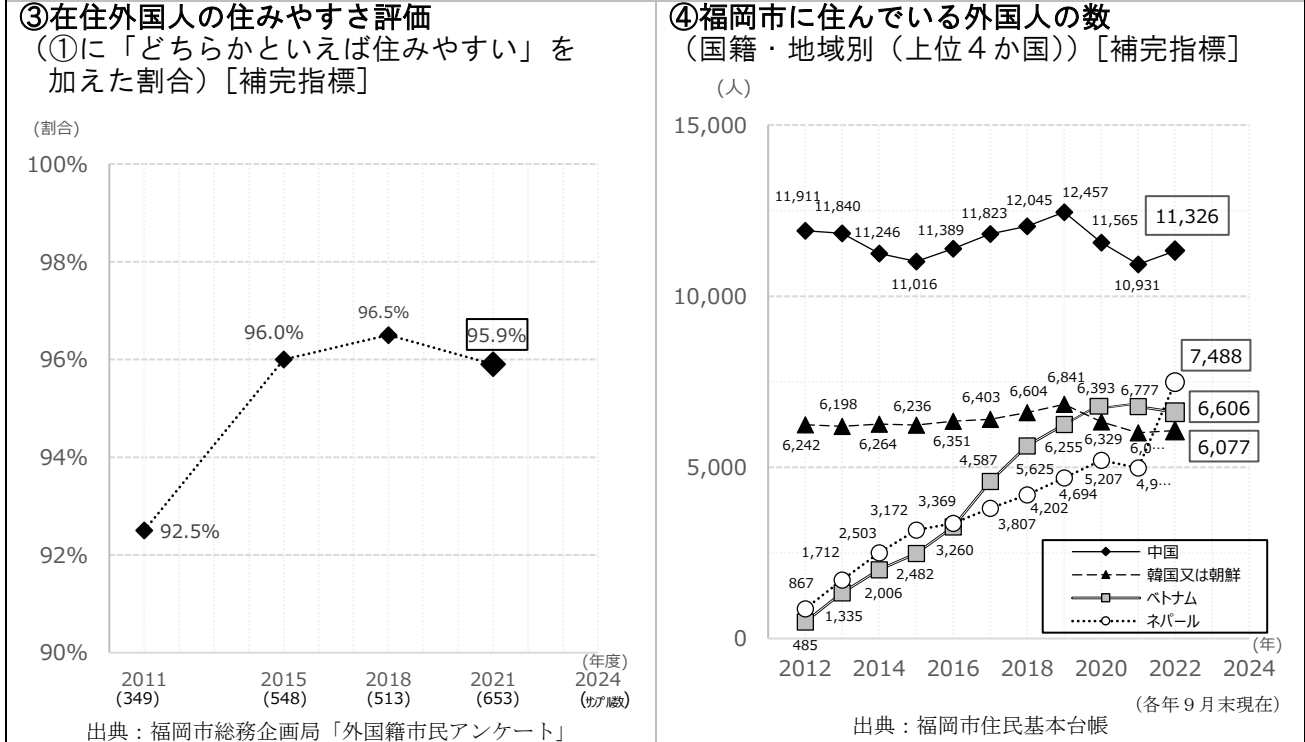
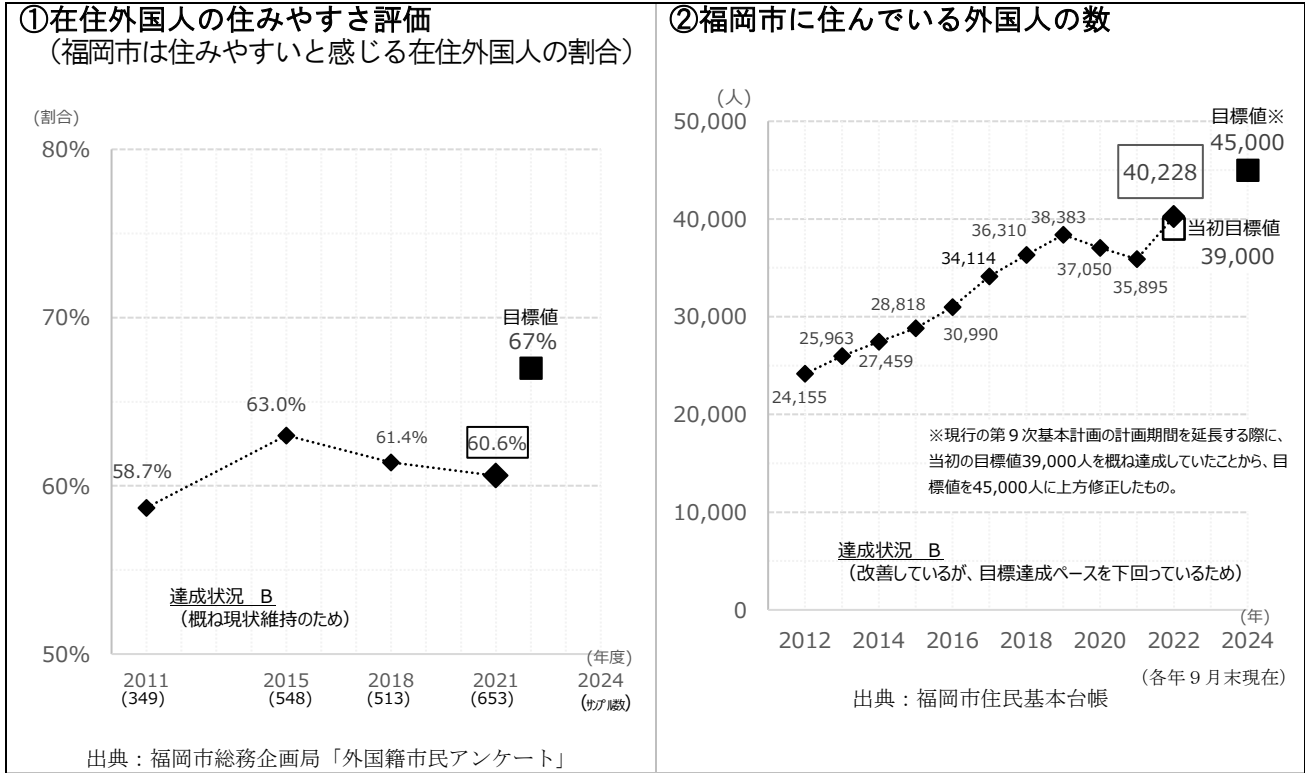
##### 地域における外国人住民との共生（交流・相互理解の促進）

- ★市・国際交流財団が、外国人住民との共生を支援した地域数  
R3n：6件 → R4n：4件

##### 施設の多言語対応や体験プログラムの開発など外国人旅行者の受入環境整備

- ・国際スポーツ大会にむけたおもてなし店舗を募集

2 成果指標等



<指標の分析>

指標②については、2022年3月の入国制限緩和以降、在住外国人が急激に増加し、目標値を達成した。なお、国籍・地域別では、ベトナム、ネパール出身者の増加が顕著となっている(指標④)。

指標①、③については、2024年度に調査を実施予定。

3 事業の進捗状況、成果指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	[参考]前年度 ◎：順調
------	-----------------

4 事業の進捗状況・課題・今後の方向性

●外国人にも住みやすく活動しやすいまちづくり

在住外国人への行政・生活情報の提供、多言語・やさしい日本語対応	
<b>進捗</b>	<p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所に転入手続きに訪れた外国人に対して、外国人支援情報や生活ルール・マナー等に関する個別の生活ガイダンスを実施するとともに、外国人支援等の情報をまとめたパンフレット「Life in Fukuoka」や生活ルール・マナーに関するチラシなどをセットにした「ウェルカムキット」を配付。</li> <li>・市ホームページ外国語ページにおいて、多言語（英・中・韓・ベトナム・ネパール・やさしい日本語）での情報提供を実施。また、地域の外国語エフエム放送局を活用し、ラジオ・ポッドキャストで毎週、情報発信（英・中・韓・ベトナム・ネパール）。</li> <li>・福岡よかトピア国際交流財団（以下、「国際交流財団」という。）において、多言語による生活情報の提供や生活ルール・マナーの出前講座等を実施。（R4n：14件）</li> <li>・「やさしい日本語」を活用した情報提供の実施のほか、職員向け研修を実施。また、市民向けの出前講座を実施し、市民の方にも地域活動等でご活用いただけるよう、啓発に努めている。（R4n：6件）</li> <li>・就学状況不明の外国籍の就学年齢の子を持つ世帯に対して、外国人就学訪問調査を実施し、必要に応じて就学案内を行う。（R4n：訪問調査対象人数 76人）</li> <li>・就学案内チラシをやさしい日本語で作成。（英・中・韓・タガログ・ベトナム・ネパール）</li> </ul> <p>【主な多言語対応の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話通訳（18言語）・映像通訳（5言語）を区役所等に導入</li> <li>・AI多言語音声翻訳アプリ（15言語）を区役所に設置。</li> <li>・外国人支援情報をまとめたパンフレット・動画「Life in Fukuoka」（12言語）</li> <li>・QRトランスレーターを活用したごみルールの周知（10言語）</li> <li>・災害時における「福岡市災害時外国人情報支援センター」の設置（21言語）</li> <li>・就学案内チラシの作成（6言語）</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語、やさしい日本語による情報提供を充実していく必要がある。</li> <li>・日本人と外国人が安心して安全に暮らすため、生活ルール・マナーの周知に積極的に取り組んでいく必要があるが、特に福岡市は留学生が多く、毎年、外国人学生が転入してくるため、継続的な取り組みが必要である。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ホームページの情報を充実するとともに、生活ガイダンスやSNSなどにより、積極的に情報を提供していく。また、多言語・やさしい日本語化対応も進めていく。</li> <li>・外国人児童生徒の就学促進のため、状況把握調査を実施する。</li> <li>・外国人児童生徒の動向に留意しつつ、必要に応じて就学案内のチラシの多言語化を実施する。</li> </ul>

<b>在住外国人への日本語教育の推進</b>	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語サポートセンター、日本語指導拠点校（日本語初期指導集中教室）、日本語指導担当教員配置校の設置など、指導体制を整備。H30n に日本語指導教員を増員して日本語指導拠点校を中学校に拡充し、日本語指導を希望する全ての児童生徒への指導を実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 個別の日本語指導計画目標を達成した児童生徒の割合 R3n : 84.4% → R4n : 83.5%</li> <li>* 児童生徒に日本語指導を行う教員の数 R3n : 27 人 → R4n : 27 人</li> <li>* 日本語指導拠点校の数 R3n : 小学校4校・中学校4校 → R4n : 小学校4校・中学校4校</li> </ul> </li> <li>・生活者としての外国人が、日本での生活に順応してもらう観点から、福岡市主催の日本語教室を、市民センターを会場として、市民ボランティアの協力を得て開催。また、国際交流財団において、日本語教室のボランティアを養成する講座や、スキルアップのための研修会を実施するとともに、福岡市内及びその周辺に存在する日本語教室を案内するマップを作成。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 日本語ボランティアを対象とした研修の受講者数 R3n : 49 人 → R4n : 91 人</li> <li>* 福岡市内及びその周辺にある日本語教室の数 R3n : 56 教室 → R4n : 58 教室</li> </ul> </li> <li>・国際交流財団が事務局となり、日本語スピーチコンテストを開催。</li> <li>・R2n に文化庁が独学で日本語を習得できるサイトを開発。同サイトを市ホームページ等で周知した。</li> </ul> <p><b>【地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（新規）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市における地域日本語教育推進のため、有識者、関係機関等による総合調整会議を実施し、課題共有、施策検討等を実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 総合調整会議開催回数 R3n : なし → R4n : 2 回</li> </ul> </li> <li>・国際交流財団に地域日本語教育コーディネーターを配置、日本語教室のボランティア養成講座に加えて、既存のボランティア日本語教室に対する情報発信、スキルアップ研修、相談対応などを実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域日本語教育コーディネーターの数 R3n : なし → R4n : 2 人</li> </ul> </li> <li>・日本語教室との連絡会議及びヒアリングを実施し、教室が抱える課題等を把握した。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* ヒアリング等に協力を得た教室数 R3n : なし → R4n : 27 教室</li> </ul> </li> <li>・日本語指導を受けている児童生徒の保護者等を対象としたオンライン日本語教室を試行的に実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* オンライン日本語教室参加者数 R3n : なし → R4n : 10 人</li> </ul> </li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導が必要な児童生徒は増加傾向にあり、留学や国際結婚、就労等様々な背景により、国籍や母語も多様化し、個に応じた指導・支援が必要となってきている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 日本語指導が必要な児童生徒数 ※隔年調査                    H24n : 248 人、H26n : 262 人、H28n : 245 人、H30n : 295 人                    R2n : 調査なし（新型コロナウイルス感染症拡大のため）、R3n : 323 人</li> </ul> </li> <li>・住民主体の地域の日本語教室は、日本語能力の向上だけでなく、日本人住民との継続的な交流機会、外国人の居場所づくり、情報提供・共有の機会など、多様な役割を果たしているため、継続して活動できるよう、ボランティア養成やスキルアップ研修など支援していく必要がある。</li> <li>・時間・場所の制約により、日本語教室に参加できない外国人に対しては、文化庁が開発した独学で日本語習得できるサイトの周知を図っていく。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導が必要な児童生徒数の推移等を踏まえながら、日本語サポートセンター、拠点校等の体制をさらに整備し、日本語指導担当教員の配置がない学校に在籍する児童生徒を含めた、教育支援の充実を図る。また、日本語能力の測定結果を生かして、引き続き、個に応じたきめ細かな日本語指導を実施する。</li> <li>・国際交流財団や地域の日本語教室、NPO と連携、協力して、外国人の家族にも利用できる日本語教育の推進に取り組む。</li> </ul>



在住外国人に対する暮らしのサポート（相談・医療・教育等）	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流財団が「福岡市外国人総合相談支援センター」を市国際会館に設置し、在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・子どもの教育等の生活に係る相談について、対面、電話、又は問い合わせフォームで受け付け、適切な情報提供や担当窓口への引継ぎを行っている。また、法律相談など専門機関による相談会を実施している。               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 21 の外国語に対応する「福岡市外国人総合相談支援センター」を設置</li> <li>* 令和 4 年 4 月からフリーダイヤルを導入。同年 7 月から LINE コールを使った電話相談を開始。</li> <li>* 令和 4 年 9 月からベトナム語相談支援員を新たに配置。</li> </ul> </li> <li>・「福岡市医療通訳コールセンター」を設置し、「電話通訳」や「外国人受け入れ可能な病院の案内」等を実施（20 言語）</li> <li>・「新型コロナウイルス外国語相談ダイヤル」を設置し、電話による「通訳」を実施。（20 言語）</li> <li>・「新型コロナワクチン接種コールセンター」を設置し、電話による「通訳」を実施。（7 言語）</li> <li>・災害時には、国際交流財団に「福岡市災害時外国人情報支援センター」を設置するため、作成したマニュアルに基づいた設置訓練を行った。</li> <li>・国際機関や外国企業の誘致など福岡市の国際化を図る上で、外国人児童生徒の教育環境の整備等が重要であることから、福岡インターナショナルスクールの支援を実施。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人数の増加とともに、その多様化が国籍・地域だけでなく、年齢、在留資格なども多様化が進んでいることを踏まえながら、外国人にも暮らしやすいまちづくりを進めていく必要がある。</li> <li>・福岡インターナショナルスクールにおける、教育の場及び質を確保していくことが必要。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国が策定した「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」等を踏まえ、全庁的に在住外国人施策を推進していく。</li> <li>・国際交流財団の「外国人支援ボランティアバンク」を更に活用し、ボランティアによるきめ細かな支援等を行う。</li> <li>・国や県における外国人の医療環境整備に向けた取組状況を勘案しながら、事業を実施していく。</li> <li>・「福岡市災害時外国人情報支援センター」がより円滑に運営されるよう、国際交流財団との連携を強化する。</li> <li>・県・経済界と連携し、福岡インターナショナルスクールの運営を支援する。</li> </ul>

地域における外国人住民との共生（交流・相互理解の促進）	
<b>進捗</b>	<p><b>【地域と外国人住民との交流促進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる文化や習慣などから生まれる摩擦を生じないようにするため、小学校区単位の外国人住民との交流や、外国人との共生に関する啓発の支援を実施。交流の場は、外国人住民にとって、日本の文化・習慣（生活ルール・マナー等）を学ぶ場にもなっている。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・市・国際交流財団が、地域の国際交流や啓発活動を支援した件数 （地域の国際交流事業が実現した件数） R4n 実績値：4 件（R3 実績値：6 件）</li> <li>・地域の行事への外国人参加率 R3n 実績値：16.5%</li> </ul> </li> <li>・姉妹都市との青少年交流事業などを通し、市民や地域の異文化理解を促進している。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年 3 月の入国制限緩和以降、急激に在住外国人が増加していることから、相互理解促進のため、交流事業を通じた顔の見える関係性づくりを行う必要がある。</li> <li>・交流事業をきっかけに、外国人が日頃の地域活動に参加するようにする必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における国際交流を促進するため、各区地域支援課や国際交流財団と連携し、通訳派遣や企画サポート等の支援を行う。</li> <li>・姉妹都市との交流事業を通し、市民や地域の異文化理解を促進していく。</li> </ul>

施設の多言語対応や体験プログラムの開発など外国人旅行者の受入環境整備	
<b>進捗</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界水泳選手権福岡大会にむけて、多様な食文化や多言語、キャッシュレス等に対応する飲食店、小売店、体験コンテンツなどの「おもてなし店舗」を募集し店舗情報を発信している。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入環境については観光施設や宿泊施設、交通機関、飲食店等と連携して取り組む必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模な MICE 開催のレガシーを今後開催予定の大型 MICE 等へと継承し、都市ブランド力のより一層の向上を目指し、官民一体で外国人観光客の受入環境整備の促進を図る。</li> </ul>

## (2) 区のまちづくり目標

ア 区のまちづくり目標総括シート

区ごとに、

「取組みの方向性」

「区の人口・世帯動向」

を示すとともに、「取組みの方向性」に掲げる目標の実現に向けた

「現状と課題」

「今後の取組みの方向性」

をまとめるもの。

※「今後の取組みの方向性」には検討段階のものが含まれる。

※7区で共通する課題など全市的課題については、分野別目標の51施策の「施策評価」で整理されているため、「区のまちづくりの目標」では、区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

イ その他

令和4年度を「R4n」、令和4年を「R4」等と表記している。

## 歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区 ～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～

取組み の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全で安心して暮らせるまち</li> <li>○子どもが健やかに育つまち</li> <li>○人を大切に、みんながいいきと活躍できるまち</li> <li>○新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち</li> <li>○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち</li> </ul>
-----------------	--

### 区の人口・世帯動向

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	東区	40,553 (15.2%)	192,002 (71.9%)	34,448 (12.9%)	269,307
H17		38,850 (14.3%)	190,269 (70.2%)	42,065 (15.5%)	274,481
H22		41,272 (14.3%)	197,419 (68.4%)	50,090 (17.3%)	292,199
H27		43,380 (14.3%)	196,831 (65.1%)	62,089 (20.5%)	306,015
R2		44,624 (14.3%)	198,366 (63.5%)	69,637 (22.3%)	322,503
R4		44,846 (14.0%)	202,779 (63.5%)	71,575 (22.4%)	329,075
全市		203,157 (13.1%)	1,002,794 (64.6%)	347,293 (22.4%)	1,631,409
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R4人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	東区	6,124 (5.4%)	46,878 (41.0%)	114,366	
H17		8,125 (6.9%)	47,262 (40.1%)	117,887	
H22		10,653 (8.0%)	56,811 (42.7%)	133,024	
H27		13,590 (9.6%)	61,734 (43.6%)	141,506	
R2		15,726 (10.1%)	72,799 (46.6%)	156,161	
全市		81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

### 区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

#### 安全で安心して暮らせるまち

現状と 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校での避難所の開設・運営に関して、地域・学校・区の役割分担を明確にした開設運営計画に基づく避難所開設訓練をR4n末までに全校区で実施している。また、災害時の避難支援が必要な避難行動要支援者にかかる個別避難計画の作成を促進するため、3校区でワークショップを実施している。自然環境や社会情勢の変化などにより複雑化する災害対応について、各校区における「自助」「共助」の意識醸成や取組み促進を継続させる必要がある。</li> <li>・地域の安全・安心マップの更新支援、警察や地域と連携した交通安全推進・飲酒運転撲滅運動やニセ電話詐欺防止などの市民啓発を実施している。依然として飲酒運転は後を絶たず、さらに、ニセ電話詐欺の手口が巧妙化しており、引き続き安全・安心のまちづくりに向けた市民啓発を実施する必要がある。</li> <li>・放置自転車対策やごみ出しルールの啓発などモラル・マナー向上に取り組むとともに外国人住民に対し、英語版の「東区リサイクル情報」の情報提供や、日本語学校で講習会を実施している。今後も外国人住民に向けた情報提供を継続していく必要がある。</li> <li>・生活道路については、歩行空間等のバリアフリー化や交通安全施設の整備とともに、老朽化がみられる路線において、計画的・効率的に改修・改善を進めていく必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心して暮らせるまちづくりに向け、各校区における避難所開設訓練を継続して支援するとともに、地域住民主体による避難行動要支援者にかかる個別避難計画の作成促進に引き続き取り組んでいく。</li> <li>・地域における防犯活動を支援するとともに、飲酒運転撲滅や多様な犯罪への対応に向け、地域や関係機関と協同で市民啓発などを推進する。</li> <li>・外国人を含め、誰もが気持ちよく暮らせるためのモラル・マナーの向上に引き続き取り組んでいく。</li> <li>・安全で快適な生活基盤づくりのため、歩行空間のバリアフリー化や安全対策とともに、生活道路アセットマネジメント基本方針に基づく維持管理を引き続き推進する。</li> </ul>

### 子どもが健やかに育つまち

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童虐待の発生予防・早期発見・再発防止に向けては、「東区要保護児童支援地域協議会」の取組みを基本とし、「東区子ども・子育てセーフティネットワーク」により、区内の中核病院（九大病院、こども病院）やスクールソーシャルワーカー、子ども食堂等、地域の社会資源とも連携している。さらに、教職員や児童を対象とした虐待防止プログラム（CAPプログラム）を10校で実施し、積極的な情報共有・支援を行っている。また、育児相談や子育て教室を対面に加えてオンラインでも行い、育児不安の解消や子育て家庭の孤立防止に努めている。家庭問題の複雑化・多様化や児童虐待の相談・対応件数の増加を踏まえ、子ども家庭総合支援拠点としてのさらなる機能強化が必要である。</li> <li>・地域と共働した身近な公園の適切な管理や、保育園や学校等での交通安全教室を行っている。今後も、子どもを安全に、安心して育てられる環境づくりを推進する必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭総合支援拠点として児童相談所や関係機関との連携をより一層強化するとともに、CAPプログラムの実施、対面・オンライン等による育児相談や子育て教室等を充実させ、児童虐待の発生予防・早期発見、子育て家庭の孤立予防に向け、引き続き積極的に取り組んでいく。</li> <li>・公園等の適切な管理を引き続き行うとともに、地域や学校等と連携しながら、子どもが健やかに育つまちづくりを推進する。</li> </ul>

### 人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡市共創による地域コミュニティ活性化条例の施行により、自治会・町内会長等との関係づくりのほか、町内会活動の支援など、住民の地域活動への参加を促進している。また、NPOや企業等と地域とのマッチングに向けて、各主体のニーズ把握等情報収集を行っている。少子高齢化等を背景として地域コミュニティの役割が高まる一方で、地域づくりの担い手不足が課題となっており、今後も大学や企業・NPO等の多様な主体が地域と連携した「共創のまちづくり」の推進へ向けた支援を強化する必要がある。</li> <li>・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、「よかトレ実践ステーション」の活動支援や地域カフェ・買い物支援などの住民主体の介護予防・生活支援へ向けた取組みの促進を行っている。また、認知症に対する理解促進のため、ホームページ等での啓発や大学や地域と連携した声掛け訓練等を実施している。虐待をはじめとする高齢者の権利侵害など緊急支援を要する事案も増加しており、高齢者を地域で支えるためにも認知症に対する理解促進が急務である。これからは、コロナ下で停滞していた地域包括ケアシステムに係る関係者間の交流を再開、促進し、医療機関や介護事業所、地域の連携をさらに盛り上げていく必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の活性化へ向け、自治協議会とともに自治会・町内会等に対してヒアリングを行い、課題やニーズを抽出して、補助金の活用や広報支援など、よりきめ細やかな活動支援を行うとともに、担い手不足の解消へ向け、大学や企業・NPO等多様な主体に引き続き働きかけを行い、地域との連携を促進していく。</li> <li>・医療・介護・地域等様々な主体が、見守り、支え合う仕組みづくりに引き続き取り組んでいく。また、よかトレ実践ステーションの登録推進や活動支援の強化など地域全体で健康寿命の延伸を推進し、健やかでいきいきと暮らせる取組みを進めていく。認知症については、若い世代を含む地域全体の理解がより深まるよう、大学や事業所ネットワーク等と共働での声掛け訓練の実施等、取組みを強化していく。</li> </ul>

### 新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「香椎賑わいづくりの会」を構成する市民、地域、NPO、企業、行政が連携して、香椎駅周辺において様々なイベント等を実施している。今後も限界性を活かした香椎駅周辺のまちづくりを地域等と共働で推進する必要がある。</li> <li>・アイランドシティ地区では人口増加に伴い、新小学校の開校（令和6年4月）や新設公民館の運用開始（令和6年度中）が予定されている。当該校区において、良好なコミュニティ形成を促進する必要がある。</li> <li>・九州大学箱崎キャンパス跡地等においては、都市計画道路等の整備が進んでいる。今後も、地域、大学、企業、行政が連携してまちづくりを推進する必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香椎駅周辺は、市民、地域、NPO、企業、行政等が連携を図りながら、賑わいのあるまちづくりを推進する。</li> <li>・アイランドシティ地区において、新小学校区における共創のまちづくりの実現に向け、近隣校区自治協議会や関係事業者等様々な主体と連携して、必要な支援等に取り組む。九州大学箱崎キャンパス跡地等において、グランドデザイン（H30.7策定）に基づき、良好な市街地の形成と新たな都市機能の導入に向け、地域、大学、企業と連携しながら、未来に誇れるまちづくりに引き続き取り組んでいく。</li> </ul>

### 歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・文化・自然など東区の魅力について、ホームページ等での情報発信に取り組んでいるほか、観光モデルコースの作成や市民を巻き込んだ魅力発信のための写真講座等を実施した。今後も、東区の魅力を多くの方々に知ってもらい、実際に訪れてもらうことで、賑わいと活力あふれるまちづくりを進めていく必要がある。</li> <li>・地域や大学等と共働して、「東区芸術文化祭」の一環としてなみきスクエアでの地元出身のアーティストによる展示や、市民が気軽に芸術を楽しめる「なみき芸術文化祭」を開催した。「なみきスクエア」を東区における芸術・文化の拠点として、賑わいにあふれ、多くの人々が交流し、芸術・文化を感じられるまちづくりを推進する必要がある。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区のホームページでの情報発信の他、市民との共働による歴史講座等、魅力の再発見につながる取り組みを行うとともに、市民を巻き込んだ東区の魅力・特色を生かしたまちづくりを推進する。</li> <li>・「なみき芸術文化祭」など芸術・文化に関する各種イベントを開催するとともに、情報発信し、賑わいを醸成する。</li> </ul>

## お互いが支え合い、安心して人が暮らし、 歴史と伝統が息づくまち・博多区

取組み の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち</li> <li>○安全で安心して暮らせるまち</li> <li>○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち</li> </ul>
-----------------	--

### 区の人口・世帯動向

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	博多区	22,249 (12.3%)	133,247 (73.8%)	24,958 (13.8%)	180,722
H17		22,015 (11.6%)	138,342 (73.1%)	28,898 (15.3%)	195,711
H22		21,276 (10.4%)	148,740 (72.8%)	34,371 (16.8%)	212,527
H27		21,491 (10.0%)	151,343 (70.4%)	42,134 (19.6%)	228,441
R2		24,119 (10.5%)	163,022 (71.2%)	41,730 (18.2%)	252,034
R4	博多区	23,617 (10.2%)	166,312 (71.6%)	42,311 (18.2%)	255,398
	全市	203,157 (13.1%)	1,002,794 (64.6%)	347,293 (22.4%)	1,631,409
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	
H12	博多区	6,794 (7.5%)	48,177 (53.1%)	90,776	*R4人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H17		8,286 (8.4%)	54,166 (55.0%)	98,573	
H22		11,512 (9.3%)	79,610 (64.2%)	124,070	
H27		15,030 (10.8%)	92,551 (66.8%)	138,629	
R2		12,234 (7.9%)	102,030 (66.1%)	154,437	
	全市	81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

### 区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

#### お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

現状と 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単身世帯の割合が高い福岡市 (R2 国調：52.0%) にあって、博多区は7区で最も高い (同：66.1%)。また、現在の居住地に5年以上住んでいる人の割合は、45.7% (R2 国調) と転出入者 (区内転居含む) が多く、共同住宅 (マンションやアパートなど) に住む世帯割合が90.3% (R2 国調) と都市型の地域であり、地域コミュニティの希薄化が見受けられる。</li> <li>・高齢者が増加しており、特に都市部においては、要支援・要介護状態にありながら支援を求めない高齢者もおられ、結果、孤立死あるいは緊急的介入・支援が必要な段階で把握される事例に恒常的に対応している現状がある。また、コロナ下において、地域・専門職ともに、目視による見守り体制が減弱化している。そのため、高齢者の権利擁護を踏まえた在宅高齢者への支援力向上の機運醸成をめざすとともに、地域の見守り体制づくりの推進、高齢者自身が介護予防に取り組む意識啓発及び場づくりに力点を置いた地域包括ケアシステムについて、事業所ネットワーク等を活用して効果的に機能させていくことが求められる。</li> <li>・転入者世帯が多く、児童扶養手当の受給率が高いなど子育てに不安を抱える世帯が孤立する傾向が高いと推測される。育児不安を抱えている子育て世帯が増えており、安心して子育てができる環境づくりが求められている。</li> <li>・特定健診受診率が市平均を下回っており (R4n：博多区 23.4%、福岡市 26.7%)、医療機関や地域住民と連携した受診率向上や生活習慣病予防・重症化予防による健康寿命の延伸が求められている。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特色を生かした魅力ある地域づくりを支援するため、企業や団体、学校等との「共創によるコミュニティづくり」を推進し、併せて、住民同士の交流促進や、自治意識の醸成を図る。</li> <li>・地域包括ケアシステムの構築を目指し、医療と介護の連携強化、地域住民と医療・介護の専門職との連携による支え合い・助け合いの仕組みづくりを推進する。</li> <li>・保育施設等の情報収集に努め、相談者に対して適切に情報提供を行う。また、子育てに関する相談・支援体制を強化し、児童虐待の防止・早期発見・早期対応を行う。</li> <li>・若い世代からの健康づくりや、生活習慣病重症化予防の取組み、がん検診の受診勧奨を推進する。</li> </ul>

## 安全で安心して暮らせるまち

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区（地区）防災組織においては、頻発する自然災害の発生を受け、地域防災に対する意識の向上や自主的な活動の広がりが見られ、地域防災の機運が高まっている。同時に、市職員等の避難所運営等に対する意識も高まっているため、地域住民、施設管理者、市職員が今以上に一体になり進めていく必要がある。また、避難行動要支援者の支援については、地域によって意識や活動に濃淡があり、地域の実情に応じた支援をしていく必要がある。</li> <li>・交通事故発生件数及び犯罪認知件数は7区で最も多くなっており、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。また、悪質な客引きの増加により博多駅筑紫口周辺の治安悪化が懸念されている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*交通事故発生件数(R4)：1,244件（前年比11件増）</li> <li>*犯罪認知件数(R4)：2,585件（前年比161件増）</li> </ul> </li> <li>・自転車の放置台数は、昨年に比べて増加しており、7区で中央区に次いで2番目に多く、特に中洲地区に依然として多く見られる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*自転車の放置率（R4.10）：1.4%（前年同月比増減なし）</li> </ul> </li> <li>・生活道路について、損傷が激しい箇所数は7区で最多となっており、博多区に約4割が集中していることから、計画的な維持修繕が必要である。</li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災については、引き続き防災研修・訓練等を校区（地区）や町内会を対象に博多消防署と連携し実施する。さらには、職員や施設管理者に対する避難所運営等を含む防災研修等の充実を図る。また、避難行動要支援者の支援については、避難行動要支援者の支援に係るワークショップ等も活用し、地域の実情に応じた「共助」の体制づくりの支援の充実を図っていく。</li> <li>・博多警察署、市民局と連携し地域の防犯リーダーに対する防犯研修会、防犯教室の開催、交通安全教室の開催や地域への物資支援、情報提供など地域の防犯活動の支援、交通安全思想の普及を行う。</li> <li>・悪質な客引きを許さない環境を醸成していくため、市民局、地域、関係機関と連携し、街頭啓発、キャンペーン等を実施する。</li> <li>・歩行空間や交通安全施設の整備など、安全で快適な生活基盤の整備を実施する。</li> <li>・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付、6か国語表記駐輪場案内チラシ及び街頭指導等により、博多駅周辺や中洲地区において自転車利用者への指導・啓発を行い、放置自転車の即日撤去により、放置自転車を減少させる。また、既設駐輪場の利便性向上や新たな駐輪場の整備を進める。</li> <li>・「福岡市生活道路アセットマネジメント基本方針」（H25n策定・10年間の事業計画）に基づき、生活道路の計画的な補修を行っており、整備率は90%（面積ベース）。基本方針の終期がR5nであるため、計画の見直しを行い、効果的な事業実施に向け改訂に取り組む。</li> </ul>

## 歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺社や名所旧跡、伝統ある祭り、伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在する博多旧市街エリアにおいて、これらを生かした事業に取り組んでいる。</li> <li>・九州新幹線全線開通以降、駅周辺の一連の再開発や、エリアマネジメント団体による賑わい創出などを契機に来訪者が増加していたが、近年は、長期化するコロナ下の影響により来訪者が減少している。</li> <li>・賑わい創出に向け、地域や関係局と連携し、継続的に回遊性の向上や歴史文化資源など地域の魅力発信の充実を図っていく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*博多ガイドの会案内人数（R4n） <ul style="list-style-type: none"> <li>定点ガイド4,586人、派遣ガイド478人、地域密着型企画ガイド1,376人</li> </ul> </li> <li>*博多旧市街ライトアップウォーク延べ入場者数の推移 <ul style="list-style-type: none"> <li>H25：91,101人、H26：124,521人、H27：116,214人、H28：113,610人</li> <li>H29：120,724人、H30：124,853人、R1：97,691人、R2：中止、R3：中止</li> <li>R4：44,257人</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<b>今後</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史や伝統文化を生かした博多旧市街ライトアップウォークの開催や、歴史的景観と調和の取れた道路整備など博多旧市街プロジェクトを推進するとともに、地下鉄七隈線櫛田神社前駅開業など、まちの変化を踏まえた賑わい創出や回遊性の向上を図る。</li> <li>・博多ガイドの会によるまち歩き事業の充実や、博多の情報発信を行うなど、地域・企業・行政が連携し魅力の向上や地域の活性化に取り組む。</li> </ul>



**人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」**  
**～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～**

取組み  
の  
方向性

- 自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち
- 思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち
- 誰もが安心して暮らせるまち

**区の人口・世帯動向**

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	中央区	16,380 (10.9%)	115,013 (76.2%)	19,478 (12.9%)	151,602
H17		17,043 (10.5%)	122,962 (75.4%)	22,974 (14.1%)	167,100
H22		17,562 (10.1%)	127,849 (73.8%)	27,724 (16.0%)	178,429
H27		19,531 (10.5%)	133,279 (71.5%)	33,581 (18.0%)	192,688
R2		20,432 (10.9%)	132,168 (70.5%)	34,976 (18.6%)	205,501
R4	20,581 (10.7%)	135,797 (70.6%)	36,026 (18.7%)	210,323	
	全市	203,157 (13.1%)	1,002,794 (64.6%)	347,293 (22.4%)	1,631,409
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	
H12	中央区	5,683 (6.9%)	47,521 (57.6%)	82,522	*R4人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H17		6,848 (7.4%)	54,284 (59.0%)	91,929	
H22		9,473 (8.9%)	67,499 (63.2%)	106,825	
H27		11,893 (10.2%)	73,677 (63.5%)	116,063	
R2		10,775 (8.5%)	83,088 (65.3%)	127,259	
	全市	81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

**区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性**

**自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち**

現状と  
課題

- ・都心部の魅力を生かした回遊性の向上のため、エリアマネジメント団体「We Love 天神協議会」と共働でまちのにぎわい創出や魅力向上を図っている。R4n は国家戦略道路占用事業として道路を活用したにぎわい創出イベントを実施するなど、コロナ下ではあったが徐々にイベントが実施できた。しかし、天神ビッグバンによりビル建替が進む状況下であり、新しく生まれ変わる天神を見据えた戦略と施策の再構築が必要である。
- ・地域のまちづくりを継続支援し、地域の特性を活かした回遊性の向上に向けた更なる取組みが必要である。
- ・セントラルパーク基本計画を踏まえ、福岡城跡や鴻臚館跡等の歴史・文化資源について、観光資源としての魅力を向上させる必要がある。

今後

- ・「We Love 天神協議会」は、R4n は H20n 策定の天神まちづくりガイドラインの改定に向けたワーキングを実施、R5n は新たなガイドラインを踏まえた具体的な事業の検討を行う予定である。天神ビッグバンや新型コロナウイルスの影響等による変革を見据えたまちの魅力向上のため、道路や公開空地など公共空間を活用した事業をさらに推進し、天神での新しい過ごし方を提供していくなど、にぎわいのあるまちづくりを進めていく。
- ・地域のまちづくり団体等の実情・ニーズを把握のうえ、地域の個性を活かした取組みを支援する。
- ・福岡城跡や鴻臚館跡等の魅力を観光資源として活用し、引き続き、西公園、舞鶴公園周辺校区が一体となって取り組む福岡城・鴻臚館まつりの開催支援を行うとともに、幅広い層の地域住民や来街者に歴史・文化資源の魅力をPRしていく。

### 思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転出入者が多く、地域活動の担い手が不足・固定化の傾向がみられる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で控えていた地域コミュニティ活動の再開に向けた、自治協議会等の取組みを支援していく必要がある。</li> <li>・区の高齢化率は約 19.4%（R5.2 末現在）であり、65 歳以上がいる世帯のうち高齢単身世帯は 43.1%（R2 国勢調査）を占めており、7 区の中でもっとも割合が高い。超高齢社会に備え、誰もが個人として尊重され、人生の最後まで住み慣れた地域で暮らしていけるよう、市民や専門職などが主体的に健康づくりや介護予防に取り組み、医療や介護が必要になっても人や地域とのつながりを絶やさず支え合うまちづくりが必要である。</li> <li>・転出入者が多く、孤立しがちな子育て家庭の負担感・不安感の解消を図るために、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを生き育てることができる環境づくりが必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館と地域事業者、NPO等が共働で事業を実施し、地域とのつながりの形成や、オンラインでの実施手法も取り入れながら、地域活動への参加促進と、顔の見える関係づくりを進めるとともに、新たな担い手の発掘を支援する。</li> <li>・地域活動を広く知ってもらうため、活動の広報についても支援する。</li> <li>・コロナ下でもオンラインの活用や感染対策を講じながら、職種間の連携体制の強化や高齢期の備えに関する市民啓発などに取り組み、保健（予防）・医療・介護・生活支援・住まいが一体的に切れ目なく提供される支援体制づくりを推進する。また、健康づくりに対する啓発活動を継続するとともに、介護予防の拠点づくり事業（よかトレ実践ステーション創出）のさらなる推進を図る。</li> <li>・母子何でも相談のほか、低月齢児とその母、アラフォーママとその児、多胎児とその母等特別な支援を要する親子向けのセミナー等の実施や子育て応援ホームページによる適切な情報発信により、子育て支援の充実を図る。</li> </ul>

### 誰もが安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警固断層の大規模地震や集中豪雨等大災害が発生した際に、自身や家族を守る自助の取組みのほか、避難行動要支援者への避難支援対策の充実を図るなど、誰もが安心して暮らせる共助のまちづくりを推進する必要がある。</li> <li>・放置自転車対策として日曜・祝日や19時以降の撤去についても実施しているが、対策の手を緩めると直ぐに放置自転車が増加する傾向にあるため、継続して撤去を実施していく必要がある。</li> <li>・消費者や事業者に食の安全に関する正しい知識が十分に浸透していない状況にあるため、知識と理解を深め予防行動につながるような取組みが必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共助のまちづくりを推進するために、避難行動要支援者名簿を活用した、個別避難計画の作成や地域による避難所開設・運営訓練など、地域の自主防災活動の支援を実施する。</li> <li>・道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため、放置自転車対策を継続して実施していくとともに、より効果的、効率的に放置自転車対策を実施し、人と自転車が共生できるまちづくりを推進していく。</li> <li>・食の安全に関する正しい知識と行動に関する内容を工夫した動画を作成し、Web等を活用した啓発活動を実施していく。</li> </ul>

<p><b>いきいき南区 暮らしのまち</b>  <b>～身近な自然とふれあい みんながつながり支え合う～</b></p>	
<p>取組みの方向性</p>	<p>○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合う暮らしやすいまち                  ○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち                  ○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられる                  うるおいとやすらぎのあるまち                  ○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち</p>

**区の人口・世帯動向**

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	南区	35,937 (14.8%)	174,163 (71.7%)	32,830 (13.5%)	243,039
H17		34,007 (13.8%)	173,480 (70.6%)	38,204 (15.5%)	246,367
H22		33,528 (13.6%)	167,308 (68.0%)	45,186 (18.4%)	247,096
H27		34,626 (13.7%)	163,562 (64.5%)	55,430 (21.9%)	255,797
R2		36,103 (13.9%)	163,020 (62.9%)	60,079 (23.2%)	265,583
R4	36,302 (13.9%)	163,937 (62.7%)	61,430 (23.5%)	268,047	
	全市	203,157 (13.1%)	1,002,794 (64.6%)	347,293 (22.4%)	1,631,409
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R4人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	南区	6,613 (6.3%)	42,016 (40.0%)	104,999	
H17		7,514 (6.9%)	43,813 (40.3%)	108,734	
H22		9,892 (8.8%)	46,220 (41.2%)	112,306	
H27		13,798 (11.5%)	51,553 (43.1%)	119,487	
R2		14,397 (11.2%)	59,606 (46.3%)	128,868	
	全市	81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

**区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性**

<p><b>人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合う暮らしやすいまち</b></p>	
<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の中で、母親が子育てに不安・負担を感じて孤立化することがないよう、安心して生み育てられるための施策や、子どもが健やかに育つための施策が求められている。</li> <li>・南区は、25校区中20校区が高齢化率20%を超え、うち6校区が30%以上となっている。高齢者単独世帯数は市内2番目、その割合は市内3番目に高い。高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう支援する施策がますます重要である。</li> <li>・高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療や介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいる。</li> <li>・福祉や防災など「共助」の重要性が改めて認識され、地域コミュニティが果たす役割への期待が高まっている一方、住民の自治意識や地域コミュニティへの関心が希薄化し、地域活動の担い手不足が顕在化している。</li> </ul>
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達が気になる就学前の子どもと親が集えるサロンを新たに子どもプラザで開催する。また、講座や啓発のための講演会のオンライン配信を継続するなど、来所が難しい人も含め、育児不安を軽減し、孤立化や虐待を予防するとともに、子育て情報の提供などに取り組む。</li> <li>・健康寿命の延伸に向け、よかトレ実践ステーション（施設版）等の集い場を創出し、住民の主体性を活かした健康づくり・介護予防の体制づくりを進める。また、高齢者の見守りなど生活支援の充実や、在宅医療の推進、認知症に係る施策に取り組む。</li> <li>・地域活動の担い手や集う場の不足、移動手段等の課題解決のため、地域と医療・介護事業所等ネットワークの連携を支援する。</li> <li>・自治協議会や自治会・町内会など地域コミュニティの大切さを広く周知するとともに、公民館事業等を通じた新たな人材の発掘・育成、大学や企業との連携により地域活動の活性化を図り、共創のまちづくりに取り組んでいく。</li> </ul>

### みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南区居住者の23.6%が65歳以上の高齢者であり、外国人もこの10年間で約1.8倍に増えているため、これらの人に対する災害時における支援の仕組み構築が課題である。</li> <li>・南区では、刑法犯認知件数は減少傾向にあり（R4n中1,281件）、犯罪の少なさに満足している住民の割合は増加傾向にある（R4n75.9%（福岡市新基本計画の成果指標に関する意識調査：行政区別(南区)））ものの、より一層の地域防犯力の向上を目指す必要がある。また、R4n中の自転車による交通事故発生件数は減少傾向にある（R4n中233件）ものの、死亡事故も発生しているため自転車を中心とした交通安全啓発活動が急務である。</li> <li>・コロナ後、居住外国人のさらなる増加が見込まれるなか、地域住民と居住外国人の相互理解がまだ十分とは言えず、早急な対策が必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時における高齢者や外国人などの要配慮者の安全確保のため、地域と共働で防災意識の醸成、組織や従事者の育成、訓練などに取り組む。また、ワークショップやセミナーなどを通じた校区独自の避難所運営マニュアル作成支援や、校区間の情報共有を図るための連絡会の開催などにより、区全体の防災意識向上につなげる。また、外国人や高校生などを、災害時に支える側の人材として育成する。</li> <li>・警察などとさらなる連携強化を図り、地域ニーズに合わせた地域防犯活動の支援や、防犯パトロール、性犯罪防止活動、交通安全運動などの啓発活動に取り組む。</li> <li>・日本語学校等の留学生等を対象に、生活面にかかわる「ごみの正しい出し方」「自転車の駐輪マナー」についての出前講座や「税」に関する広報活動などを実施するとともに、SNSを使った情報発信を行う。地域住民と居住外国人の相互理解を深め、地域住民と良好な関係が築けるような交流事業を実施する。</li> </ul>

### 那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民に水辺や緑などの自然の魅力を発信することで、自然環境の豊かさと地域の魅力を身近に感じてもらうことが重要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の自然や魅力スポットを紹介したマップを配布することで身近な自然を発信するとともに、鴻巣山でのワークショップなどを実施し、自然に触れる機会を創出する。</li> </ul>

### 大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区及び周辺部の7つの大学と包括連携協定（H28.12）を締結し、合同イベントとして「南区こども大学」をH29nから実施している。また、大学の先生が地域に出向いて行う「南区出前講座(大学版)」を、H16nから実施している。今後、地域課題の解決につながる連携・交流事業を促進する必要がある。（R4n：2件） <ul style="list-style-type: none"> <li>＊「南区こども大学2022」（23講座開講（うち21講座実施）、来場者数478人）</li> <li>＊「南区出前講座(大学版)」(44講座実施、参加者数703人)</li> </ul> </li> <li>・西鉄天神大牟田線から遠い区西南部地域では、公共交通の利便性向上など、地域の活性化に向けた取組みが求められている。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「南区こども大学」や「南区出前講座(大学版)」などの実施により、地域に開かれた魅力ある大学づくりを進めるとともに、地域ニーズの把握や大学などへの働きかけを行い、地域課題の解決につながるような継続的な連携・交流を大学、地域に提案する。</li> <li>・地域拠点である長住・花畑地域を含む区の西部・南部地域を中心としたバス交通の円滑化を図るため、既存バス路線における交差点改良やバスカットの整備に取り組み、地域の現状や課題、ニーズ等を整理し、地域特性に応じた活性化策について検討する。</li> </ul>

<p><b>豊かな暮らしがあるまち・城南区</b>                  ～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～</p>	
<p>取組みの方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全で安心して暮らせるまち</li> <li>○地域で支え合う、ぬくもりのあるまち</li> <li>○地域と大学が共生するまち</li> <li>○自然環境を大切にするまち</li> </ul>

区の人口・世帯動向						
		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数	
H12	城南区	16,704 (13.3%)	92,827 (73.8%)	16,212 (12.9%)	126,468	
H17		16,281 (12.7%)	92,145 (72.0%)	19,483 (15.2%)	128,663	
H22		16,495 (12.9%)	88,231 (69.1%)	22,940 (18.0%)	128,659	
H27		16,837 (13.0%)	84,258 (65.2%)	28,215 (21.8%)	130,995	
R2		16,709 (13.3%)	78,051 (62.0%)	31,170 (24.8%)	132,864	
R4	全市	16,475 (13.1%)	77,978 (61.8%)	31,787 (25.2%)	133,170	
		203,157 (13.1%)	1,002,794 (64.6%)	347,293 (22.4%)	1,631,409	
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R4人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)	
H12	城南区	3,381 (5.7%)	28,349 (47.9%)	59,194		
H17		4,132 (6.8%)	28,615 (47.2%)	60,655		
H22		5,275 (8.5%)	29,678 (47.7%)	62,189		
H27		7,206 (11.2%)	31,533 (48.9%)	64,511		
R2		7,588 (11.3%)	34,148 (50.8%)	67,276		
全市		81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051		

**区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性**

安全で安心して暮らせるまち	
<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の開設・運営については、地域・行政・施設管理者の三者共働による運営体制の確立に向けて、今後も引き続き三者の連携を進めていく必要がある。</li> <li>・城南区における刑法犯認知件数は年々減少傾向にあったが、R4においては窃盗や詐欺等の増加により、768件と前年に比べ92件の増となっている。ニセ電話詐欺等の被害が依然として発生しており、区職員を騙る事案も発生していることから、今後これまでの取組みを継続・強化していく必要がある。</li> <li>・核家族化、都市化等から身近に支援者がいない家庭が増加しており、夫婦が協力して育児を行うことは大変重要である。父親が子育てに積極的に取り組み、夫婦コミュニケーションを大切にすることで、母親のストレスや育児負担感の軽減を図り、育児不安や児童虐待の未然防止を図ることが必要である。</li> </ul>
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が発生した際に避難所開設を迅速に行えるよう、避難所運営職員と地域とが協力した避難所開設体制の構築を推進する。</li> <li>・地域・行政・施設管理者が参加する避難所開設訓練の内容を充実させることにより、三者の連携強化を図ると同時に、訓練と研修を充実し区職員のさらなる災害対応能力向上を図る。</li> <li>・城南警察署と連携し、高齢者を対象とするニセ電話詐欺に関する注意喚起、地域における防犯パトロール活動の支援、防犯強化月間における街頭キャンペーンの実施などを通じて、犯罪のない安全で住みよいまちづくりの実現に向けた取組みを推進する。</li> <li>・父親の育児参加や夫婦コミュニケーションの大切さを啓発するため作成したリーフレットを母子健康手帳交付時に配付する。</li> </ul>

**地域で支え合う、ぬくもりのあるまち**

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティにおいては、新型コロナウイルス感染症により、地域活動が3年ほど停滞しており、地域を支える新たな人材発掘の機会が少なくなっている。</li> <li>・城南区では全市平均を上回る高齢化の進展により独居や認知症の方も多く、高齢になっても住み慣れたまちで安心して住み続けられるように、地域で支え合うまちづくりが必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や大学生等の参加を促す公民館事業および地域活動者への研修を実施するなど人材の発掘・育成を支援し、地域で支え合うまちづくりを推進する。</li> <li>・各種地域ケア会議を開催し、地域と専門職の繋がりや支援体制の構築を推進する。また、多職種連携研修会を医師会共催で開催し、医療と介護の連携体制を強化する。</li> <li>・認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるように、認知症の方やその家族に早期に関わる認知症初期集中支援チームの活動を推進していく。</li> <li>・市が推奨する高齢者の健康づくり・介護予防に効果的な運動「よかトレ」を、継続して実践する団体を「よかトレ実践ステーション」として認定し、活動を支援するとともに、より多くの高齢者が身近な場所で取り組むことができるよう創出及び継続支援を行う。</li> <li>・健康寿命の延伸に向けて、年間を通じた広報啓発や個別勧奨等により、特定健診の受診率向上を図るとともに、生活習慣の改善や糖尿病等の生活習慣病の重症化予防のため、健診結果に応じた保健指導に取り組む。</li> </ul>

**地域と大学が共生するまち**

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内にある福岡大学、中村学園大学の学生数約2万3千人は、区人口の約2割に相当する。若い学生の活力を生かし地域活性化を促進する必要がある。また、大学の高度な教育研究機能や設備、専門的知識を持つ人材などの資源を地域課題の解決に生かす取組みが必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学が市民向けに行っている講習会や地域活動、地域と大学の交流事業等の情報を発信する。地域と大学や住民と学生の交流を促進するとともに、地域における活動団体等も含めたネットワークを維持し、多様な主体が地域課題に取り組む共創によるまちづくりを推進する。</li> </ul>

**自然環境を大切にすまち**

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区域を貫流する樋井川、区域の南部に位置する油山など、市民自らが自然環境を守り育てる活動を支援し、住みやすい環境づくりに生かすことが必要である。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や地域活動団体と連携して油山や樋井川の自然を紹介する動画制作を継続して取組み、油山や樋井川の四季折々の魅力を発信するとともに、日本野鳥の会福岡支部との共催でハチクマ観察会を開催するなど、自然環境を大切にすまちづくりを推進する。</li> </ul>

## ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち

取組みの方向性	○お互いが支え合い安心して暮らせるまち ○早良区の特性を生かした魅力あるまち ○地域の魅力を生かしたまち ◆～活力とにぎわいのあるまち～ 北部 ◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部 ◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部
---------	---

## 区の人口・世帯動向

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	早良区	32,337 (15.9%)	145,141 (71.5%)	25,570 (12.6%)	203,656
H17		31,417 (15.0%)	145,996 (69.8%)	31,730 (15.2%)	209,570
H22		31,510 (14.9%)	142,113 (67.4%)	37,234 (17.7%)	211,553
H27		32,653 (15.1%)	137,689 (63.6%)	46,110 (21.3%)	217,877
R2		32,652 (15.1%)	131,885 (60.9%)	52,021 (24.0%)	221,328
R4	全市	32,224 (14.8%)	131,948 (60.5%)	53,885 (24.7%)	222,825
		203,157 (13.1%)	1,002,794 (64.6%)	347,293 (22.4%)	1,631,409
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	
H12	早良区	4,687 (5.8%)	26,881 (33.0%)	81,425	*R4人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H17		6,181 (7.1%)	30,195 (34.9%)	86,621	
H22		7,467 (8.3%)	32,128 (35.6%)	90,134	
H27		10,299 (10.8%)	36,104 (37.8%)	95,617	
R2		12,074 (12.0%)	40,423 (40.2%)	100,496	
		81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

## 区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

## お互いが支え合い安心して暮らせるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の記録的豪雨や台風など、自然災害の甚大化・頻発化が著しく、住民一人ひとりが正確な知識を身につけ、安全な行動をとる必要がある。R4nは18校区において、計33回の防災講座・訓練を実施した。</li> <li>・核家族化、地域コミュニティにおける住民同士のつながりの希薄化などの社会状況の変化に加え、新型コロナウイルス感染症蔓延による閉鎖的な生活の継続、経済的な困窮等から、子育て家庭の孤立化等の課題が顕在化している。支援を要する子どもを含む家庭を早期に発見し支援することで育児不安・保護者の困り感を軽減し、産後うつや児童虐待、DV被害等の予防・対応に努める。</li> <li>・健寿社会の実現に向け、市民の主体的な健康づくりを進めていく必要がある。</li> <li>・健康づくりに役立つレシピを公募して作成した「サザエさん通り食育レシピ集」全4集を有効に活用し、食育を推進していく必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行により早良区のR2n特定健診受診率は、26.6%と低下しており(前年度28.0%)、福岡市が設定した目標値(40%)に向け、受診率向上の啓発活動を改めて強化する必要があるが、新型コロナウイルス感染症の現状も考慮する必要がある。</li> <li>・超高齢社会が到来し、高齢者人口が増え続ける中、H26nから公民館・地域と専門職の共創による地域包括ケアシステム推進に取り組んでいる。R2nからは、「地域包括ケア関連講座」、「オーラルフレイル予防事業」を新たに開始した。これまでの取組みにより、地域における同システムへの認識は浸透してきているが、一過性のものにならないよう、今後とも継続した取組みが必要である。</li> <li>・「人生100年時代」の到来を見据えて、定年退職後に必要な情報提供を行うとともに、地域活動に参加しやすいきっかけづくりにより、地域活動の担い手不足解消などへつなげていくことが求められている。</li> </ul>
-------	--

今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地域の特性やニーズに応じた防災講座・訓練を実施するとともに、出水期前に防災啓発イベントを開催し、住民の主体的な防災対策及び避難行動を促進する。</li> <li>発達が気になる子どもと、その保護者のための子育てサロン「もちもち」の開催や、子育て情報誌等の配布の外、「さわらっ子育て応援ホームページ」での情報発信などにより、子育て世代の不安を軽減するとともに、子育てを応援する。また、児童虐待防止の研修、子どもが様々な暴力から自分の心とからだを守る「子どもへの暴力防止プログラム（CAP）」及び親の困り感に寄り添い具体的な子どもへの関わり方を学べる場として「子育て教室」等を実施し、児童虐待防止のための啓発を行う。</li> <li>保健所窓口での妊娠届出の際に、全妊婦と面談を実施し、妊婦の健康面、経済面、出産後の支援者や養育環境等の把握に努め、支援が必要な妊婦を妊娠中から支援する体制を整える。</li> <li>子育て世代包括支援センター関係各課（R3.4に設置された子ども家庭総合支援拠点を含む）の連携をより強固に行い、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る。また、全乳児家庭への新生児訪問を実施し、育児不安や母親の困り感の軽減を図る。</li> <li>早良区南部地域の自然や食の魅力等を活用した健康ツーリズムを企画・実施し、早良区南部地域の魅力発信と市民の主体的な健康づくりの機運醸成を図る。</li> <li>「サザエさん通り食育レシピ集」の調理動画を作成、配信するなど、SNSの活用等により若い世代への食育を推進する。</li> <li>特定健診の受診率向上について、区役所関係課のプロジェクトチームで協力しながら、新型コロナウイルス感染症の状況に応じた受診率向上に向けた活動を引き続き行っていく。</li> <li>高齢者人口が増え続ける中、H26nから地域包括ケアシステムの推進に取り組んでいる。R2nからは、公民館、地域団体、専門職とともに「地域包括ケア関連講座」を実施。大学や歯科医師会との共創により実施している「オーラルフレイル予防事業」をはじめ、介護予防、認知症、在宅医療・介護に関する啓発を今後も継続して実施し、オンライン等も活用する。</li> </ul>
----	--

### 早良区の特性を生かした魅力あるまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>早良区を代表する室見川等の豊かな自然を保全し、次世代へ引き継いでいく必要がある。</li> <li>H24.5に地域の要望のもと誕生した「サザエさん通り」を生かしたまちづくりや、南部をはじめとした秋の魅力発信をする「さわらの秋」など、早良区の魅力を生かした地域活性化に取り組む必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>室見川水系一斉清掃などの活動を通し、市民の環境保全意識の向上を図る。</li> <li>「サザエさん通り」の認知度向上やさらなる地域活性化のため、H25nに策定した構想に基づき、ハード・ソフト両面からの施策の充実や広報の強化を官民共働で行う。</li> <li>「さわらの秋」事業をはじめとして、早良区の魅力について、区内外の住民への認知度を高めるための広報戦略や地域資源のブランド化に取り組む。</li> </ul>

### 地域の魅力を生かしたまち

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>早良区南部地域は脊振山系等の豊かな自然や産業、歴史などの地域資源に恵まれる一方、少子高齢化や人口減少など、地域の活力低下が懸念されており、地域や行政が共創で南部地域の魅力を生かしたまちづくりを推進する必要がある。</li> <li>早良南地域交流センター（ともてらす早良）については、関係局と連携し、早良区北部及び南部地域からの交通アクセスの充実を図る必要がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、団体、行政等が一体となった早良南部地域の課題解決に向けた取組みである「早良みなみ塾」を通し、自治協間の連携強化、早良南部コミュニティの一体化、人材・資源の活用促進を図るとともに、地域の魅力を生かした地域主体の取組みを支援する。</li> <li>周辺自治体等と連携して脊振山系の自然を活かしたイベントを企画するとともに、関係団体と連携した「脊振クリーンアップ登山」を実施するなど、脊振自然遺産事業を通じ、市内外に向け脊振山系の魅力を発信する。</li> <li>早良南地域交流センター（ともてらす早良）への交通アクセス向上のため、関係局、自治協議会と連携し、交通事業者にはバス便の充実を働きかけるなどの取組みを行う。</li> </ul>



**自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区**  
 ～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然を生かし、環境にやさしいまち</li> <li>○にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち</li> <li>○大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち</li> <li>○子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち</li> </ul>
---------	--

**区の人口・世帯動向**

		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	総数
H12	西区	26,932 (16.2%)	115,406 (69.3%)	24,275 (14.6%)	166,676
H17		28,347 (15.9%)	120,391 (67.3%)	30,026 (16.8%)	179,387
H22		30,181 (15.6%)	126,224 (65.4%)	36,540 (18.9%)	193,280
H27		31,405 (15.3%)	129,439 (63.0%)	44,772 (21.8%)	206,868
R2		30,334 (14.9%)	123,786 (60.8%)	49,317 (24.2%)	212,579
R4	29,112 (14.3%)	124,043 (61.0%)	50,279 (24.7%)	212,571	
	全市	203,157 (13.1%)	1,002,794 (64.6%)	347,293 (22.4%)	1,631,409
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	
H12	西区	3,413 (5.5%)	16,385 (26.6%)	61,579	*R4人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H17		4,375 (6.4%)	19,213 (28.1%)	68,254	
H22		5,723 (7.3%)	25,157 (32.3%)	77,880	
H27		8,216 (9.3%)	32,347 (36.8%)	88,011	
R2		8,921 (9.3%)	39,137 (41.0%)	95,554	
	全市	81,715 (9.8%)	431,231 (52.0%)	830,051	

**区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性**

**自然を生かし、環境にやさしいまち**

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西区環境フェスタ」は、主に将来の環境活動の担い手となる若い世代や子どもを対象に、環境問題や環境活動について楽しく学ぶ、参加・体験型のイベントである。R4nは環境活動団体・事業者・大学と連携し、SDGsの国際目標のうち環境関連の5目標をテーマに時代に適応した内容を取り入れた。</li> <li>・多様な主体により、さまざまな環境活動が実施されているが、マンネリ化や人材の固定化・高齢化が課題となっている活動がある。</li> </ul>
今後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西区環境フェスタ」を継続開催し、若い世代や子どもが、自分でも取り組める環境活動があることに気づく「きっかけ」を与え、行動変容を促すとともに、学生ボランティアなど若い世代で構成する団体と活性化を期待する団体との交流の場としても活用する。</li> <li>・引き続き人材育成講座を開催するとともに、SNSなどさまざまな広報媒体を活用した環境活動事例等の情報発信を行う。</li> </ul>

**にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち**

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動制限は緩和されたものの、地域活動の完全再開には至っておらず、地域活動の担い手不足や活動参加者の減少・固定化の状況は続いている。また、地域活動の中止が長期にわたることにより、ノウハウが継承できないことを懸念する声も広がっている。</li> <li>・市街化調整区域では、人口の減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの課題が顕著な地域もあり、地域の魅力を活かしたまちづくり活動の支援に取り組む必要がある。特に公共交通機関については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止をはじめとした働き方の変化等によって、大幅に減少した利用者数の回復には至っていない。</li> </ul>
-------	--

<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動支援のため、自治会・町内会研修やオンライン会議の活用支援を継続するとともに、補助金の活用事例や防災をテーマにした取り組みやすい事業メニューの紹介などを通して、地域活動の再開を促す。また、令和4年度に実施した自治会・町内会実態調査の結果を踏まえ、自治会・町内会の活動支援、広報アドバイザーによる広報支援、集合住宅等に対する加入促進支援を強化する。</li> <li>・市街化調整区域のまちづくりに関して、地域主体の取組みを支援するとともに、SNS や地域資源を活用した地域の魅力発信を行う。公共交通機関の利用促進については、「登山マップ」等の定期的な配布のほか、地域や事業者等と連携し、利用者増の取組みを支援・実施していく。</li> </ul>
-----------	--

**大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち**

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と九州大学等が直接、連携・交流できる仕組みや関係性が少しずつ構築されてきているが、R4n も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、地域主催の交流事業の多くが中止となっている。感染対策を講じながら、大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かす取組みが必要。</li> </ul> <p style="text-align: center;">*九州大学等と地域との連携・交流事業数 R4n : 36 事業</p>
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館や自治協議会に、地域との交流を希望する九州大学の学生団体の情報を「九大と地域の便利帳」等を通じて発信し、大学生と地域との自主的な交流を促進する。</li> <li>・九州大学及び学生と地域とをつなぎ、地域の活性化に向けたまちづくりの取組みを支援していく。</li> </ul>

**子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち**

<p>現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校区に自主防災組織が立ち上げられ、校区や地域において自主的な防災訓練が実施されているが、活動の主体性には差がある。このため、地域ごとの実情に則して、自主的な防災力を高められるよう支援する必要がある。</li> <li>・R4 における西区の犯罪認知件数は、1,033 件と昨年比べ7件の減となっているものの、人口増加の著しい地域では、自転車盗などの窃盗犯が多く発生している。そのため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動など、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要である。</li> <li>・核家族化や地域社会における人間関係の希薄化が進む中、母親の育児不安や育児負担感の軽減を図り、子育て家庭の孤立化防止に取り組む必要がある。</li> <li>・単身高齢者、認知症高齢者の増加や高齢者の身体機能・認知機能の低下が懸念される中、支援を要する高齢者の早期発見・早期支援とともに、市民、地域、企業、NPO など多様な主体との連携・共働による、見守り、支え合いの仕組みづくりを進めていく必要がある。</li> </ul>
<p>今後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き校区自主防災組織や研修会等を通じて、行政からの防災情報や他校区での取組み等を情報共有するとともに、避難行動要支援者の個別避難計画について、自治会単位での作成を支援していくことにより、西区全体の地域防災力の向上に努めていく。</li> <li>・地域住民の安全で安心して暮らせるまちづくりを実現していくために、引き続き地域・警察・行政で情報共有を行うとともに、地域への防犯活動物資配布・青色回転灯パトロールカーの補助等の支援やニセ電話詐欺防止等の啓発活動に取り組んでいく。また、西区役所全庁用車（軽自動車）の青パト化を実施したことで、区職員が外勤帰庁時（主に小学校の下校時）に青色回転灯を回す機会を増やし、地域住民の防犯意識の向上を図るとともに、街頭犯罪抑止を目指す。</li> <li>・育児不安軽減のため、身近な場所での育児相談会や低月齢児親子教室を開催するとともに、子育てサロンや育児サークルの支援強化、発達が気になる子とその保護者のための子育てサロンの開催など、子育て家庭の孤立化防止に取り組んでいく。また、父親向け講座の開催により母親の育児負担感の軽減を図っていく。</li> <li>・「地域包括ケアシステム」の推進について、地域ケア会議の開催等により、地域課題の解決や、医療・介護関係者間の連携強化を図るとともに、フレイル予防、ACPの周知・啓発、見守りシートを活用した要支援高齢者の早期発見・早期支援、多様な主体による重層的な見守りや生活支援体制の構築に取り組んでいく。</li> </ul>